



特501  
921

×  
複写

始





圖書隊長

事務

一九三二年五月十一、十二、十三日

於 築地小劇場

禁止書名

(以活版代騰寫)

禁止の題名

全般的に及戦犯等... 禁止の題名... 抄録

急

第五回大會議事録

報告並びに議案

一三一頁

國際革命作家同盟日本支部  
日本プロレタリア作家同盟

華歌平(志友)

全支中絶... 抄録

急

急



圖書課長

事務

一九三二年五月十一、十二、十三日

於 築地小劇場

禁止意見

(以活版代騰寫)

禁止可也

全般的に及新事業... 70... 若くは... 掲載

第五回大會議事録

報告並びに議案



Handwritten notes in vertical columns, including '禁止' and '報告並びに議案'.

華歌(六五反)

Handwritten notes at the bottom left, including '十午台'.

急

急

急



特501  
921

### 第五回大會順序

#### 第一日 (十一日)

- 一 開會の辭
- 一 議長及び副議長選舉の件
- 一 大會書記任命の件
- 一 資格審査委員會報告の件
- 一 祝辭 祝電
- 一 中央委員會一般報告並びに結語
- 一 副報告、並びに結語

#### 第二日 (十二日)

- 一 地方支部小委員會
- 一 専門部小委員會

#### 第三日 (十三日)

- 一 戦争の危険と革命作家の任務に關して
- 一 ファツシズム文學に對する闘争
- 一 ブルジョア文學並びにその組織に對する闘争
- 一 社會ファツシズム文學に對する闘争
- 一 同伴者作家に對して
- 一 民族文學に關して
- 一 日本プロレタリア文化聯盟強化に關して
- 一 國際プロレタリア文化聯盟結成についての緊急提案
- 一 大會 結語
- 一 大會 決議
- 一 新役員選出



### 第五回大會議事録(目次)

國際革命作家同盟からのメツセーヂ……………(一)

中央委員會一般報告……………(三)

プロレタリア文學の當面の諸情勢及びその「立ち遅れ」克服のために

副 報 告……………(三)

創作活動に關する報告……………(三三)

理論的批評的活動に關する報告……………(三九)

組織活動に關する報告……………(四二)

機關誌に關する報告……………(五一)

文學新聞報告……………(五三)

支 部 報 告……………(七七)

議 案……………(一一一)

戦争の危険と革命作家の任務に關して……………(一二一)

ファツシズム文學に對する闘争……………(一二八)

ブルジョア文學並びに文學組織に對する闘争……………(一三三)

社會ファツシズム文學に對する闘争……………(一三四)

同伴者作家に對して……………(一三六)

民族文學に關して……………(一三八)

日本プロレタリア文化聯盟強化に關して……………(一四一)

國際プロレタリア文化聯盟結成についての緊急提案……………(一四四)

單行本出版に關する報告……………(六〇)

本部財政部報告……………(六三)

農民委員會活動報告……………(六八)

婦人委員會活動報告……………(七二)



## 國際革命作家同盟からのメツセーヂ

親愛なる同志諸君！

國際革命作家同盟は、諸君の年次大會に熱烈な同志的挨拶を送る！ この大會の時期は諸君の活動に極印を押付けてゐる。即ち諸君は、帝國主義戦争と、ソヴェート同盟に對する一般的帝國主義戦争の巨大な危機とに關聯せざる、如何なる問題をも討議することは出来ない。

既に一年前、諸君がプロレタリア文化のために、勞農藝術家聯盟に對し、左翼社會民主主義者に對し、トロツキ主義者に對し、プロレタリア革命の最も活動的な敵に對し、諸君の闘争を指導した時、諸君は全國際的プロレタリア的名聲を勝ち得た。同様に日本プロレタリア作家連の作品は、十分なる根據をもつて世界的な好評を獲得した。過去一ケ年は諸君が、プロレタリア文學界軍の最前線に突出した正面堡壘の一つたるべく召集されたものであることを證明した。

世界政治状態は、日本帝國主義を世界帝國主義の前衛に作りあげた。かゝる状態は諸君に、十分な階級意識をもつて、又總ての力とあらゆる限りの重壓をもつて、プロレタリア階級前衛の作家並びに藝術家としての任務を遂行すべきことを義務づけてゐる。諸君は第一步を勇敢に踏みだした。我々は諸君を誇る！ 諸君は、「自國のブルジョア階級、自國の帝國主義を、如何に征服すべきか、また如何にして征服し得るか」といふことの例として、世界のあらゆるプロレタリア作家連に役立ち得るのである。諸君の大會のスローガンは次の如くでなければならぬ。世界帝國主義に對

(1)

する闘争、日本帝國主義に對する闘争、中國勞働大衆の防衛のための闘争、あらゆる勤勞者の祖國・ソヴェート同盟防衛のための闘争。

闘争に於て既に永年我々は團結してゐる。我々は諸君が、自身の目をもつて我々の活動を見ることを望む。社會主義の建設のために、あらゆる搾取と壓迫とを永久に葬り、あらゆる戦争をなくする無産階級社會の實現のために、ソヴェート同盟の數千萬の勞働者と勤勞農民とが如何に活動してゐるかといふことから、諸君自身が經驗を得ることを望む。

來れ、見よ、プロレタリア革命が現實に於て何を意味するかを。想像を遙かに越えたものであることを。我々は諸君同志が、ソヴェート同盟へ派遣隊を送ることを乞ふ。

新しい世界戦争の危機の切迫せる今日、我々は諸君へ兄弟としての手を指しのべる。我々は我々の兄弟としての協働を妨げるやうな情勢が、決して出来ることのないのを確信してゐる。肉體的に我々が一時分れてゐることもあり得やう。だが我々は何時も同一の軍隊、最大にして、最強力な軍隊の兵士、世界のプロレタリア階級の兵士であらう。我等は諸君に闘争を要求する。同志諸君！ 日本帝國主義者に對し、あらゆる國の帝國主義者に對しあらゆる種類の戦争挑發者に對する闘争を。中國勤勞者の防衛のための闘争を。中國からの帝國主義軍隊撤退のための闘争を。全勤勞者の祖國の防衛のための闘争を。全被壓迫者並びに全被搾取者の解放のための闘争を。世界革命のための闘争を！

(2)

一九三二年三月二十二日、モスクウにて

國際革命作家同盟 ベラ・イレツシュ



## 中央委員會一般報告

### プロレタリア文學運動の當面の諸情勢 及びその「立ち遅れ」克服のために

—

既に明かなやうに、一九三一年度の我が同盟の大會はその方向轉換によつて、劃期的なものだつた。然しその後の約一年間を経て持たれる第五回大會は、その置かれてゐる未曾有の國際的國內的情勢の重大さから云つても、文學活動がプロレタリアの闘争の構成部分としての名實にそむかない組織的方向轉換をなした後の最初の大會としても、更に我々がこの困難なプロレタリアの課題を果たすためには、たゞ我々の具體的成果をもつて武装すること以外に斷じてその道が有り得ないといふ意味から云つても、この第五回大會は我々の同盟が過去に於て持ち得たあらゆる大會のうち、特殊の重要性を占むるものであると云はなければならぬ。

昨年我が同盟の組織の劃期的な方向轉換は、我々が正しく理解したやうに、それは我がプロレタリアの當面してゐる階級闘争の客觀的必要から出發し、それに對する藝術運動の適應といふ觀點からなされた。云ふまでもなく、我々の運動の如何なる方向もすべて全運動の觀點に立つてのみ、常に正しく理解することが出来る。

此の一年ほど資本主義内部の決定的矛盾が未曾有の尖鋭さをもつて現はれた時期がない。それは基本的にはソヴェート同盟に於ける社會主義的建設が進歩し、腐朽しつゝある各國資本主義體制と言葉の眞實の意味に於ける決定的對立のうちにはあらはれ、資本主義體制に對する社會主義體制の「優越性」が最早誰の眼にも明瞭となつた。

( 3 )

そしてこの國際關係の樞軸たる二つの體制の間の對比が、かくも増大しつゝあることは、恐慌下にあつて特に帝國主義國內に在する諸矛盾に影響し、それを尙も發展させてゐる。即ち、資本主義國に於いては、恐慌は金融恐慌の段階を告げ、隸屬化と労働強化、失業者軍の増大が大衆の左翼化を激發し、資本主義の一般的危機の切り抜け、その獨裁維持のために、ブルジョアジーがファシスト的政治支配に移行し、その政策を強行することによつて、プロレタリアと決定的に對立してゐる。我々は階級と階級との對立が、このやうな尖鋭な姿をもつて現はれたのを未だ嘗て見なかつたと云はなければならぬ。——しかも我々はこれらの事實から、恐慌の加速度的テンポの成長と資本主義體制の崩壊の不可避性と社會主義建設の勝利的擡頭といふハツキリした見透しをつかむことが出来る。

プロレタリアはこの決定的な時期を最も成功的に闘ひ抜くために、何よりも緊急に自己の陣營を大衆的基礎の上に建て直さなければならぬ。如何なる時期に於ても、我々の場合このことが要求されなければならない事は云ふまでもないが、然し現在に於てほどそれが必要とされることはない。こゝから第一に労働階級の多數者を我々の側に獲得し、第二には労働者階級以外の勤勞大衆（農民、都市小ブルジョア）の基本的部分を我々の組織的影響下に置かなければならぬといふプロレタリアの戰略的目標が、建てられた。——従つて、それは又我が藝術運動が組織的・實踐的に果して行かなければならぬ課題でなければならなかつた。

我々が昨年の第三回大會、第四回臨時大會を通じて「文學サークル」を廣泛に企業農村内に組織することによつて、同盟の劃期的再編成を行つたのも、その基本的根據をこの「多數者獲得」といふ課題に適應するためだつたことは、既に明かなことである。——そして今では、そのことがたゞに正しかつたといふばかりでなしに、この過去一年間の實踐によつて、益々その正しさが證明されたことが云はれなければならぬ。

我々はその再組織の過程に於て、在來我が作家同盟のうちに頑強に存在してゐた種々な段階に種々な扮装のもとに立ち表はれた所謂非政治主義・文化主義に對する闘争を成功的に成し得た。然し、それは逆に、この傾向と決定的に闘ふことなしには新しい方向轉換はなし得なかつたといふ方が正しいのである。それは政治闘争、經濟闘争及び文化闘争との間の統一と差別の問題に關するマルクス主義的な理解を深めることによつて、一方では藝術組織が政治闘争や經濟闘争を指導し得るといふやうな極左的政治主義と完全に手を切ると同時に、他方では（これが當時の最も主要な危険であり、我が同盟の再組織を執拗に妨害したのであつたが、）あたかも政治闘争や經濟闘争と離れて、プロレタリア藝術が獨自に建設し得るかのやうな傾向を克服

( 4 )



することが出来たのである。——藝術組織は同時に廣汎な意味での政治組織であり、それを統一するものは階級闘争の實踐である。と同時にブルジョアが自己の獨裁を維持するためにファシズム的政治支配形態をもつて武装し、第二次帝國主義世界戦争とプロレタリア革命の直接的危機をハラんでゐる現段階に於ては、單に政治と藝術の統一のみでなく、更に「政治の指導的任務」が最前面に押し出さなければならぬことが理解された。かくして我々は「政治」と「藝術」の關係を最も正しく、辯證法的に把握し得た。こゝから我々は藝術運動が廣汎なプロレタリアートの文化・教育活動の部分であるといふ正しい認識を導き出し得たのである。こゝから我々は企業農村内の「文學サークル」が、文學的な任務と同時に、それが基本的組織への「補助組織」でなければならぬといふ根拠が、理論的に明確化されたのである。

このことは、その後「主題の積極性」我々の「文學の黨派性」といふ問題に發展せしめられる基本的な素地を作つたといふ意味でも、偉大な收穫の一つであつたと云はなければならぬ。こゝで注意しなければならぬことは、後で詳しく觸れるやうに、政治と藝術のこのレーニンの把握、主題の積極性、黨派性の擁護等々、これらを強化することなしには——即ち共產主義的方向を強化することなしには、我々が「多數者の獲得」といふ戰略的目標に近付くことが出来ないといふこと、それなくしては我々はたゞ烏合の衆の獲得といふ一個のナンセンスに終らざるを得ないといふことが銘記されなければならない。多數者獲得」といふことは、必然の前提として「共產主義的方向の強化」を持つてゐる。(例へば、同志徳永直の「プロレタリア大衆文學論」の如きは、「多數者獲得」といふ問題を我々の方針の強化といふ基本的觀點と結びつけずに提出されたところに一つの大きな誤謬が存在してゐたのである。)

ところが、我々がその上に立つて「サークル組織」の編成替を行ひ、唯物辯證法による「創作方法」の確立を提出したところの國內的・國際的客觀情勢は、その後著しく發展した。その最も特徴的なものゝ一つは、ブルジョア獨裁のファシズム的支配形態への移行である。殊に我國に於て、ファシズム的傾向は、所謂「滿洲事變」を契機として、昨年の下半期から擡頭し、政友會内閣が民政黨内閣にとつて代るや、その最も露骨な姿を表面化するに至つた。

經濟恐慌の底止するところのない深化の結果として、資本主義の一切の基本的矛盾の層一層の深まり、廣汎な國民大衆の増大しつゝある不満、それに對應する共產主義の成長とプロレタリア獨裁の國の増大しつゝある影響、これらの情勢は一方では革命的昂揚の成長と多くの國々に於ける革命的危機の前提條件の成長をうながし、それは他方ではブルジョアをして、あ

りとあらゆる強制と暴力による獨裁を公然且つ露骨なものとさせる。ブルジョアは最早それなしには己れの獨裁を維持することが出来ない。従つてそれはプロレタリアートの階級的諸組織の粉碎、X黨の弾壓、特殊な軍事的、テロリスト的組織の設立の目的を明らかに表へ出す。ファシズムへの移行は勿論その國々によつて種々なる段階と種々なる扮装を伴ふ。或ひは所謂「乾いた道」を通るか、濡れた道」にクレーターを通るか、議會主義の眞つ向からの否定として現れるか、その幻影の尾をひいてあらはれるか種々ある。然しその本質及び役割にはいさゝかの差異があるものではない。

然しブルジョアの獨裁のファシズム的形態は、單に支配階級の陣營内部で行はれてゐる「客觀的」過程の産物であると見てはならぬ。それはまた階級の力關係の所産である。その樹立はプロレタリアートの退却(闘争を伴ふにせよ、伴はぬにせよ)か、その一時的敗北かに關聯して行はれる。しかもファシズムは社會發展の辯證法的矛盾を反映し、その中には二つの要素——支配階級の攻撃とその崩壊——を包含してゐる。この意味からファシズムの擡頭を宿命的必然性に於て理解し、その攻勢のみを見て、その質的崩壊を見ないことは決定的な誤謬である。然しながら、同時にファシズムを單に支配階級の崩壊の開始、危機の表現であると見ることは極めて極左的な敗北主義の見解である。ファシズムは、資本主義的方法によつて、この危機を克服するための諸要素をうちに含んでゐる資本攻勢の一形態であることを銘記し、我々の攻撃をブルジョア獨裁打倒の主要目標たるファシズムに對して強化しなければならぬ。

次に我國に於いては、ファシズムと今度の戦争は切り離して考察することは出来ない。支配體制としての政治反動は、帝國主義的侵略性の第二の面、内部の面である。——ブルジョア及びその廻はしものである社會ファシスト連が、それが飽く迄も「事變」であつて戦争でないといふ所謂「滿洲事變」及び「上海事變」が如何なるものであるか。それは國內的危機の(ブルジョアの)切り抜けのための「植民地の再分割」を意味し、その強盜戦争強行の不可缺の條件として「中國革命の殺戮」を目論見、更にそれは「ソヴェート同盟の干渉(ブルジョアの脅威となつてゐる社會主義國の壊滅とその植民地化)を意味する帝國主義戦争であり、第二次帝國主義世界戦争の直接的危機をハラんでゐるものである。——より具體的に云ふならば「土匪」「便衣隊」の出没を理由にすることによつて、我帝國主義がアメリカ帝國主義との對立にも拘らず、滿洲の植民地化に安々と成功することを得たのは、それがソヴェート同盟への干渉を強化する地盤を用意したものと見て、列國帝國主義の完全な歩調の一致を見ることが出来るからであつた。ところが一度中國本土への我が帝國主義の進出が始まるや果然アメリカ帝國主義の抗議的聲明書となり、英佛諸國のそれに對する默殺的態度となつた。このことは所謂「滿洲事



變」を契機とする戦争が完全に第二段階に入り、それは全く新しい様相を示してゐることを意味する。即ち中國本土の分割を中心、各國帝國主義の對立が尖鋭化し、こゝに第二次世界戦争の危機をバク露してゐるといふことである。しかも強調されなければならぬのは、各國帝國主義のこのやうな矛盾の尖鋭化にも拘らず、ソヴェート同盟への干渉といふ點では一致するといふ意味から、この第二次世界戦争は嘗て見なかつた意義を持つものであらうといふ事である。

ブルジョアジーは戦争を強行するために、しかもその戦争が決して國民の利益のために行はれたものでないことを隠蔽するために、逆に戦争が層一層の恐慌と飢餓と失業を深刻化させることから大衆を僞マンするため、及びこのやうな絶望的な状態から革命的プロレタリアートを先頭として捲き上つてゐる労働者農民の闘争を壓殺するために、ブルジョア獨裁の最も露骨な表現としての「ファツシズム支配」に移らざるを得ないのである。こゝに戦争とファツシズムの我國に於ける緊密な關聯を見る事が出来るのである。

ラヂオ、講演會、あらゆる國家機關、ブルジョアジーの諸々の記念日、旗日、青年團、在郷軍人會、青年訓練所等々を總動員しての反動教化宣傳、國粹主義、祖國愛、排外帝國主義、反ソヴェート・デマの散布のうちに、我々は彼等の側の攻勢を見る事が出来る。勿論支配階級は既に新しい指導的思想を創造し得ない。その故にかくの如く彼等はその思想的假裝を過去に求める。従つて彼等が古臭く化粧されて登場してきた思想の陰には、常に實際には資本主義國家の最も近代的な帝國主義的侵略性、ブルジョアジーの公然たる獨裁の樹立が隠されてゐることを見なければならぬ。

ファツシズムのこの傾向は又當然に、ブルジョアジーのイデオロギーの下働きとしてのブルジョア文化にもその全面に渡つて、あはたゞしい編成替を捲き起してゐる。——既に明かなやうに、ブルジョア大衆文學が最も積極的にファツシヨ化の波に乗つて、露骨な反動化を示した。大衆文學がその本質として、科學的眞理、客觀的眞理の無視と背反、封建的イデオロギーと結びついたブルジョアの愛國主義、小ブルジョアの協調主義の混合であつたことに、ファツシズムの重要な支柱となつた必然性を見ることが出来る。ファツシズムが資本主義の一般の危機の時期に於ける支配階級の露骨な政治反動として、著しい特質をなすところの上層の危機が、ファツシズム化した文學に於ける「無理論」「支離滅裂」「自己撞着」(直木三十五を見よ!)に直接に反映してゐる。このやうに彼等の文化的反動も又自己のうちに質的崩壊を包含してゐる。然しこのことが彼等の攻撃を過少評價してゐることを少しも意味するのではなく、反對に最も強力なプロレタリアートの正面敵として認識し、それへの攻撃を強化しなければならぬことは、既に述べた通りで、彼等のその論理的矛盾、その崩壊の必然性を執拗に示すことによつ

て、彼等の下に大衆を獲得しなければならぬ。

ファツシズムが「ありとあらゆる暴力と強制」によつて、プロレタリアートの革命化に對して必死に立向つてゐるとしてもそれは又社會ファシストのヨリ巧妙な助力なしには成功的に己れの獨裁を維持することは不可能である。こゝに社會ファツシズムに對する闘争が、我々に課せられてゐる。「組織化された資本主義」「國家(又は國粹)社會主義」「階級を超越した國家」の理論等々、これらのファツシズムの理論はそれを社會民主主義からそのまま借りてくることによつて、遅れたプロレタリアート及び小ブルジョアを自己の側に僞マン的に引き寄せる手段としてゐる。社會ファツシズムはファツシズムの理論的支柱であり、その掩護射撃なしにはファツシズムは充分に強力な進出をなし得ない。勿論社會ファツシズムはプロレタリアートの基本的組織の執拗な闘争によつて、その駆引きと重要さに——役割に差異が生ずるが、しかし「ブルジョアジーの主要な社會的支柱」として、特にその僞マン的性質の故に、更にファツシズムへの移行の複雑な段階と種々な扮裝の故に、最も危険な敵であることが云はれる。

社會ファツシズム文學の上に、その事がどのやうに現はれたか一例を挙げやう。前田河廣一郎は、自分が「ファツシヨ」と云はれたことを否定するために、最近のファツシズムの嚮頭が一個の主觀的な「流行」でしかないと規定した。このやうにファツシズムの社會階級的基礎を抹消することによつて、それは如何なる役割をブルジョアジーに奉仕してゐるか。——ファツシズムは既に何べんも繰り返した如く、ブルジョア獨裁の最も露骨な支配形態である。従つてブルジョア獨裁とファツシズムとは何等切り離れた別個のものではなく、有機的な形態であり、ファツシズムに對する闘争それ自身がブルジョア獨裁に對する闘争である。ファツシズムはブルジョア獨裁に對する闘争の主要目標である。ところが、前田河は、プロレタリアートがファツシズムに對して闘ふ時に、そのファツシズムは根も葉もない主觀的な流行であるといふことによつて、プロレタリアートからブルジョア獨裁に對する闘争目標を奪つてしまつて、結局に於てブルジョア獨裁に對してプロレタリアートが闘争することを放棄させるのである。

前田河は又「戦争」についても、ヨリ巧妙なブルジョアジーへの走狗の役割をつとめてゐる。社會民主主義者は「帝國主義戦争」に對しては、(世界を通じて)一應の反對を表明する。然しそれは表面だけのことでしかない。大衆の憤激を抑へる爲に、ブルジョアジーにとつて、この社會民主主義の一應の反對——斷引は最も必要とするところである。——前田河は、今度の「滿蒙事變」と「上海事變」(支配階級は今度のことは飽くまでも「戦争」でなくて、「事變」であると云つてゐる



ことを想ひ起す必要がある)が、帝國主義戦争の一形態(?)の局部的(?)あらはれであるとか、戦争へ第一歩をふみ出さんと、してゐることは敵ふべくもない(彼はこのことを今年の三月七日に云つてゐる)とか、誰の眼にも明かな戦争の事實を、しかもそれが具體的には如何なる意義を持つてゐるか、軍部や陸海軍大臣すらもハツキリと言明してゐる事實を、前田河は極めて曖昧な言葉をもつて抹消してゐる。革命的プロレタリアートが帝國主義戦争に反対して立ち上がったとき、このやうにその戦争の事實を否定することが如何なる意義を持つかは自明のことである。また「文戦」の指導理論家である青野季吉は、戦争とファツシズムについて色々おしやべりをやりながら、一度も現在に於けるソヴェート同盟擁護の任務を口にしないばかりか、ファツシズムについてみても、ただ「民族主義的なバアバリスティクな権力至上的な」(改造四月號)と云ふ現象的規定を述べたてゝゐるに過ぎない。彼が、日本はソヴェート同盟よりフランスのプロレタリア文學に學ぶ方が近道だ等と云つて、プロレタリア文學の裏切者と化しつゝあるバルビュスの「超黨派的」プロレタリア文學論を支持してゐるのは、有名な事實である。——すべてこれらは社會ファツシストの典型的な本質である。

更にファツシズムの波は、ブルジョア藝術派其他の諸流派のうちにも、それ〴〵の特殊性に於て分化と發展を與へた。その第一は、新興藝術派の「新社會派」と「新心理派」との分裂のうちにはあらはれてゐる。新興藝術派が無氣力な、消費的小ブルジョア層と有閑金利生活者のイデオロギーの上に立つてゐたことは、その據り處がエロテシズム、ナンセンスであつたことによつても明かである。彼等のうちのあるものが、その題材に社會的なもの(彼等に從へば)を取り上げることがあるとしてもそれに對する彼等の態度は、エロテシズムとナンセンスに對する彼等の關心と本質的には何等異るところがないのである。従つて彼等の二派の分裂が、當面する急迫せる情勢のもとに新しくプロレタリア文學に對する闘争を立て直す必要からでありそれは又客觀的にはファツシオ化への助力者たる役割を持つものである。即ち「新心理派」の主觀主義から神祕主義的反動への發展、「新社會派」の主觀主義の地盤の上に咲いた客觀主義——彼等の藝術に於ける現象的リアリズムはイデオロギーとしては觀念論に結びついてゐる——によつて、この二派は意識的反動を示してゐる。

殊にブルジョア藝術に於ける著しい事實は、彼等のうちの自由主義的立場(それは小ブルジョア階級の立場である)に立つ作家たちが、ブルジョア階級の側に移つるか、プロレタリアートの陣營に自己の道を發展するかしなければ、既にその存在を失ひかけてゐることである。ファツシズムがその支配確保の重要な支柱として、小ブルジョア、中間層の獲得を必死の條件としてゐる。従つて彼等が現在のまゝでゐるならば、情勢の進展は彼等を反動化へ追ひやること云はれなければならない。既に

に島崎藤村はその「夜明け前」に於て、民族主義的觀點を示すことによつて、帝國主義とファツシズムの國粹・排外主義の擁護者として立ち現はれてゐる。

其他の正宗、谷崎、佐藤を初めとする古きブルジョア作家及び小林秀雄を理論的先頭とする若きブルジョア作家たちは勿論その陣營内に於て、それ〴〵が獨立し同一の規準に立つてはゐない。然し實は彼等のエゴイズム(個人主義)、と己れ自らを社會關係から切離して人間を純「生物學的」な概念に抽象する事によつて、社會に對する反動的「無關心」を示してゐるといふ意味で完全に歩調をともししてゐる。これらの作家は概括して現實主義的、唯物論的立場をとつてゐる。然しそれは、社會的なものを生物學的な觀點に置きかへるといふ意味での卑屈な現實主義、素朴唯物論の立場である。——社會に對するかゝる態度、及びこれらの作家群のうちのあるものが、ファツシズム及びファツシズム文學に對して並々ならぬ關心を示してゐる事實から、我々はその反動性がファツシズムの傾向への道を拓く充分の危険性が存在してゐることを見るに困難ではない。

以上を概括して特に云へることは、嘗つてこれらの作家、理論家たちが我々を攻撃するとき、藝術に於ける「政治的價值」の否定をひッさげて肉迫してきた彼等自身のあることを想ひ起す必要がある。彼等が政治的價值を拒否したそのことの中に實は彼等自身のブルジョア的な政治的立場があつたのである。それがこの急迫した情勢のもとで發展し、その假面をかなぐり捨てたものでしかない。ブルジョア階級はその階級の必要から、勤勞大衆に對して政治的無關心が必要であるときに、そのイデオログである藝術家が藝術に於ける政治的立場の拒否を立場とすることに何等の不思議はない。と同時に、ブルジョア階級が自己の獨裁維持のために、自己の下に大衆の動員が必要であるとき、彼等の作家たちがそれに適應して、政治的觀點を露骨にその作品に示すことにも少しの不思議はない。——政治と藝術は、その實踐に於て美事に統一される。政治と藝術の問題を「あれ」か「これ」といふ風に提出して、その機械的差別と機械的結合を色々いぢくり廻はしたのでは、問題の解決には成らないことをこの事實が示してゐる。しかも同時に我々は、單にその統一のみではなしに、彼等の藝術に於ける彼等の側の「政治」の指導的任務を具體的に知ることが出来る。それは我々がブルジョア・ファツシズム、社會ファツシズムの文學について既に見てきたところである。

我々はこれらの事實によつて、階級闘争の未曾有の激化及び社會民主主義がファツシオ化しつゝあることを見ると同時に、プロレタリアートの闘争に於ける基本的組織及びその側に立つ諸組織の持つ意義が増大し、嚴重にボルシェヴィキ的黨派性に立つことが要求され、こゝに階級對階級の對立が鋭化しつゝあることを知ることが出来る。



さて我々は、これらの置かれた、急迫せる諸情勢——「帝國主義戦争」と「ファッシズム」の段階に於て、労働者階級の多数者獲得、及び労働者階級以外の勤勞大衆（農民、都市小ブルジョア）の基本的部分を我々の組織的政治的影響下に置くなればならないといふ革命的プロレタリアートの戦略的目標の上に立つて、今迄の街頭的存在だつた我が同盟の根を廣汎な層を含む工場、農村内の「文學サークル」の組織に置き、革命的プロレタリアートの世界觀である辯證法的唯物論をもつて我々の創作方法を貫らぬき、その實踐的解決に立ち向つてきたことは、これらの發展せる情勢のもとに於ても依然として正しいばかりでなく、尙一層の必要性和重要性が増してきたと云はなければならぬ。

従つて我々は次に當然、その正しい方針のもとに、如何に闘ひ、如何なる實踐的成果を擧げ得たかを見る順序となつた。

## 二

こゝで我々は、簡単に我々の持つ「大會」についての理解に觸れて置く必要がある。云ふ迄もなく「大會」は年一度持たれる「おきまりの行事」ではない。又ブルジョア議會の如き「既引き(偽マン)の場所」でもない。それは「最高の裁判所でありこゝにあつては何もかも公然と發表され、何一つ隠して立ててはならない」。我々はこの立場から、過去一年間の具體的成果を、その弱點をも缺點をも無慈悲に検討することによつて、新しい年度に於ける正しい方針の樹立に進むためのものとして大會を理解しなければならぬ。従つて、大會は一年間の實踐の結果、同盟の方針が全く新しく方向轉換せられる「方向轉換のための大會」と、前年度に立てられた方針がその後の實踐によつて、益々その正しさが實證され、新しい大會に於ては更にそれを質的に躍進させるために「具體的成果の検討の大會」の二つに考へられる。——我々の「第五回大會」は、まさにこの後者の大會として、具體的實踐的成果、失敗と成功の検討の場面としてつかまされなくてはならぬ。しかも、この大會がソヴエート同盟に對する干渉の直接的危険をハラんでゐる情勢のもとで、「國際革命作家同盟」日本支部としての最初の大會であるといふ意味に於ても、更にファッシズムと社會ファッシズムとの斷乎たる闘争によつて、「獨立的なメーデー」が、革命的プロレタリアートの指導のもとに持たれやうとしてゐる時の大會であるといふ意味からも、極めて重大な大會であると云はなければならぬ。——我々はこの課せられた諸任務を成功的に遂行し得るためには、たゞ具體的な成果の蓄積と急速な「立ち遅れ」の回復を措いてしか、その方法が無いことを知らなければならぬ。

一九三一年の上半期の——即ち僅か一年前の我が作家同盟の實際を知つてゐるものにとつては、後で明かになるやうに實は

この一年間の著しい立ち遅れの成果にも拘らず、我が同盟が全く劃期的な躍進の姿を以つてあらはれてゐることを知るであらう。——我々は昨年の第三回大會、第四回臨時大會以前、たゞ一つの「支部」をも持たなかつた。人は、プロレタリアートの組織に於て、凡そこのやうなことを考へることは出来ないといふであらうが、それは事實であつた。然しヨリ正確に云ふならば、各地方に於て（殊に大阪方面に於て）自然發生的に支部結成の機運が起りつゝあつたにも拘らず、指導部はその創意性を取り上げることとせず、この問題に對する無方針を暴露した。これらのことは他方では中央部としての全國的活動を東京地方活動のうちで解消することによつて、全運動にとつては最大の誤謬を重ねたものと云はなければならぬ。然しながら我々が支部の問題を新しく解決するに當つて、嘗つての支部の單なる復活としてではなくして、企業農村内のサークルを基礎とし、その上に建設しやうとしたところに、劃期的な意義があつた。——僅か一年前にたゞ一つの支部を持たなかつた我が同盟はかくして現在七つの支部と、十四の支部準備會を持ち、百二十名足らずであつた同盟員が三百何十名といふ躍進を示してゐる。

だが、一二の支部を除いては、方向としては正しく企業農村内サークルを基礎とする組織方針に向つてゐるにも拘らず、その困難さから未だ街頭分子の集合に終つてゐるところが多いことを指摘しなければならぬ。このことは更に企業内サークルの積極的分子をもつて同盟を構成する努力の極めて不充分であつたところにその根拠を見出すことが出来る。その意味から作家同盟が依然として街頭的存在であることには變りがないといふ結果を生んでゐるのである。この後者の缺點は今年に入つてから、急速に回復されつゝある。この缺點を埋めることなしには、我々の組織をプロレタリアートのヘゲモニーをもつて置くことは不可能である。しかも大衆團體としての我が同盟を、言葉の眞實な意味に於ける大衆的基礎の上に大衆化させることも、一片の空語でしかなくするのである。同盟員の構成に於て、何より職場内の労働者の文學的働き手のパーセンテージを高めること、それが要求される。かくしてのみ、我々の運動内に於ける小ブルジョア性にその基礎を置く日和見主義的傾向としての極左的、右翼的偏向に對して常に正しく強力に闘ひ得るのである。

サークルの組織活動について云へば、サークルの問題が我々の日程に登つてから、未だ一年も経過しないにも拘らず、既に全國に於てその總數二百六十を突破し、人員四千五百名といふ多數を數へてゐる。然しながら、二三の支部を除いては、そして全體としては、それらのサークルが「京濱、阪神、北九州、北海道、名古屋、中國地方」等の重要地方の「金屬、交通、電氣、鑛山、纖維、化學」等の重要産業の、特に大工場には組織されずに、(勿論このことは我々の同志がそれへの方向に努力しな



つたといふ事を意味するのではない。そこでの名状すべからざる困難さから、所謂抵抗線の弱い、街頭の場面に比較的多く組織を擲けたことになつてゐると云はざるを得ないのである。東京支部を初めとして多くの支部に於ては、経営内サークルの數と街頭・學生サークルとの比率がまさに逆を示してゐる状態である。我々は單にある産業經營、學生、一般街頭に幾個のサークルがあるといふ風でなく、その質、數の増減、メンバーの移動、活動状態に留意し、常に重要經營内へのパーセンテージを高め、強化して行かなければならない。——従つてそこにたとへ如何なる事情が存在するとも、このやうな現状に對しては我々の組織活動に於ける日和見主義——プロレタリアートのヘゲモニーの放棄が嚴重に批判されなければならぬ。組織活動に於ける「立ち遅れ」の克服は、大會のスローガンに具體的に示されてゐるやうに、こゝに最も重要な面があるものと云はなければならぬ。

更に各支部が示してゐる一般的な弱い環は、「文學新聞」の配布數と「サークル」の組織數との間に存在する著しいギャップである。殊に大阪支部の如きは、企業經營内に「文學新聞」が非常に大きな割合をもつて入つて居りながら、そこにサークルが殆んど作られてゐない。我々は我々のあらゆる刊行物の影響を、常に單なるイデオロギー的影響として分散させることをしてはならない。これはイロハである。殊に「文學新聞」の場合、その特殊性から云つても、直ちにそれらの讀者をサークル結成へもつて行くために執拗な努力がなされなければならない。——このギャップを急速に埋めることが各支部に背負はざるべき緊急の任務となるであらう。

同時に、我々はサークルの指導に際して現はれた最も危険な日和見主義的傾向を指摘しなければならない。——それは例へば、サークルが「文戦」も菊池寛も「キング」の讀者をも廣汎に含むものであるといふ一點のみを強調することから、サークルが全體として階級的に高められ、指導されて行かなければならぬことを殆んど見ない所に現はれてゐる。これは在來のセクト的な「讀者會」に機械的に反撥する右翼的大衆追隨主義である。サークルでは選舉の問題やメーデーの話を強要することは出来ないといふ多くの同志の云ふことは、たゞ強要といふ點だけでは正しいだらう。然しながらこの場合、それらの同志は無意識のうちに、サークルは菊池寛や「キング」の讀者である労働者も入つてゐるのだからといふ前提のもとに立つてゐる。それは正しくない。問題は如何にしてそれらの廣汎な讀者層を含むサークルで、選舉とメーデーの話を徹底させ、サークル員の階級意識を昂揚させ、そこへ動員するところまで持つて行くかにある。——サークルに於ては、菊池寛や吉川英治の批判から、唯物辯證法による創作方法の問題もメーデーの話を、如何なる困難があらうとも（強要するといふことでは絶対にない、強要

するといふことは最もたやすいことである）必ず問題にしなければならぬ。

この日和見傾向は更に、企業農村内のサークルがプロレタリアートの基本的組織へ労働者農民の多數者を動員する「補助組織」であるといふことの極めて機械的な適用となつて現はれてゐる。極言すれば、例へばサークルの方は文學の話でもして一固りに固めて置くから、他の組織がそれを必要とする時は「利用」してくれといふ態度である。又例へば「文學新聞」がプロレタリアートにとつて、政治的任務を果たすといふことを、組合のオルグが新聞を利用して、自己の組織の擴大のために使ふことにあるとする考へである。——およそ之等の考へ方から如何なることが出てくるか。まづそこには企業内サークルが「藝術組織」であると同時に「政治組織」であるといふことの分裂的な理解が潜んでゐるといふことである。我々は「藝術」と「政治」の關係を一方が他方を利用するとか、しないとかといふ風には理解しないし、又しては誤りである。我々の諸活動が常にプロレタリアートの當面する諸課題に答へて行くことによつて、それが統一される。従つて「補助組織」といふことを機械的な「利用」とする分裂的な理解の結果、サークルの指導に新しい文化主義的傾向が生れる。即ち文學團體のサークルの指導が獨立した意味での所謂文學的なものとなり、又文學新聞の立場が新聞の内容そのものうちに於て、プロレタリアートの全課題を統一的に取上げて行かなければならないのに（即ち、内容そのものうちに政治的指導的任務、基本的組織への補助的任務が示されるのだ）ところが、それをせずに内容を分裂させて、それを組合のオルグの機械的利用にまかす。我々はこの誤謬の克服に立ち向ふべきである。事實この場合でも、若しも新聞がその内容に於て問題を政治的（廣汎な）課題に統一されて取扱はれてゐないとすれば、オルグによつても眞實な偉力をもつて利用され得ないし、サークルの場合でも同様に補助組織として充分に役に立たないと云へるのである。——我々はこのやうな組織活動、諸刊行物を通じてなされる活動に於ける文化主義、日和見主義を即刻マルクス・レーニン主義的方向に強化せずには、戦争」と「ファッシズム」の困難な段階に於て、充分に堪え得る、基本的組織への補助組織としての役割を果たすことが不可能である。

以上述べたやうな觀點から、この約半歳の組織活動の経験が我々に教へた最も著しい點に觸れれば、次のやうである。それはまづ第一に、サークル組織問題の上に現はれた新しい發展段階である。今まで我々はサークルとは如何なるものであるか、又それを如何に何處に組織すべきかといふ——原則的な基本的な問題により多く關心を集中してきた。今や我々は組織されたサークルを如何に「教育し」高めて行くべきかといふ教育的活動にその主力が強調されなければならない、處に來てゐる。常に清新なテーマを與へて、そのための教育的宣傳煽動の活潑な場面とし、次の會合へ一人の難脱者もつくることなく興味を持



たせ、プロレタリアートの陣營へ緊密につなぎ止める仕事が必要ならなければならない。あるサークルの例を見るのに、幾度開かれても問題が少しも發展せず、單調で無興味のため、メンバー数の減少、サボタージュの傾向を示してゐる如きは、その指導的立場にあるものが、サークル活動に於ける新しい段階に立ち遅れてゐることを示すものであらう。——そのためには、今まで研究会活動のうちに自己を解消してゐた傾きのあつた教育部が、組織部との緊密な連繫のもとに、その具體的な教育活動の方針を立て、直ちにサークルの場面で實踐に移されるやうに、或ひはリーダーについて、或ひはフアッシュンズについて、或ひはソヴエート同盟について、極めて解説的具體的テーマを興へること、しかもそれらが動勞大衆の日常生活と、どのやうな聯關があるかを示す仕事が必要ならなければならない。

第二の點は、通信員の組織化といふことである。我々は昨年の大會に於て、「ハリコフ會議」の決議に立つて、通信員の問題を取り上げたいにも拘らず、それが實踐化され始めたのは、僅にこの一二月以前に屬する。——通信員はプロレタリア刊行物の基礎であり、それは大衆とその刊行物の強固な結合點となるものである。通信員は單に通信をその刊行物に送るといふ任務があるから、通信員と云はれるのではない。我々の場合色々な闘争の通信が書けるためには、自らがその闘争のうちの最も勇敢な積極分子でなければならぬ。例へば企業農村内で文學新聞を讀んできかせ、プロレタリア文學の影響の傳達者となり、自己の周圍にサークルを組織し、その文化的指導者となり、それらの仲間から活潑な批評活動を捲き起し、それを新聞、刊行物に反映させることによつて、その國の文學活動の根を大衆の中に据ゑる任務を持つてゐる。従つて、我々は通信員の中から、秀れた作家を獲得することが出来るのである。通信員の組織については、何よりこのことを明確に把握させることによつて進めなければ、それは無意義である。通信員の組織化に拍車をかけよ！

闘争の發展が我々に教へた第三の點は、我が同盟の「地區組織」の必要といふことである。昨年の第三回大會以前、我々はたつた一つの支部を持つてゐなかつたばかりでなく、中央執行部の活動は又たつた一つの専門部にも分化されてゐなかつた。しかるに今や我々は全國二十餘の支部及び支線の基礎の上に、書記局を含めた九つの専門部を持つ中央部を確立するに至つたのである。が、支部のもとに數多のサークルが作られ、それが殊に企業経営内に作られる時、廣汎な地域にわたる支部に於ては、自己の組織の基礎を更に地區に編成する必要が出來てくる。——神奈川、大阪、神戸、新潟、福岡、長野等々の地方支部は、既に自然發生的に地區組織の上に支部を形成してゐる。東京支部も漸次下からの必要としてこの問題を日程に上せつゝある。地區組織については、その置かれてゐる地方の客觀的情勢と支部の力關係及び必要さに適應して解決して行くべきであ

つて、單に圖式的に觀念的に、あらゆる條件を無視して劃一的に類型に押し込むことは危険である。それはかへつて支部の力を分散さすおそれがあり、又組織の道具倒れに終つたりする。然し、具體的な情勢から出發して、各支部は地區組織確立のために進むべきである。

第四には、ブルジョア文學組織内に於ける「反對派」活動に對して、今迄殆んど方針が樹てられてゐなかつた。これからうける弱さは、例へば「文戰」の分裂の際にあらはれてゐる。我々は彼等のうちに反對派を持つことによつて、外からの攻撃と共に内から彼等を壊滅させなければならなかつた。この「反對派」組織の問題については、それ／＼のブルジョア文學組織の特殊性の誤らない調査、それに従つての屈伸性ある具體的方針の樹立、更に反對派活動がその中で解消するのではなしに、活動の獨自性が保たれるやうに考慮されなければならない。

最後に、我々の組織活動が工場、農村に根を張り始めるや、勞働者組織との關係に於いて、政治、經濟闘争と文化闘争の機械的結合、文化闘争の過少評價、依然たる文化主義、文化闘争に於ける政治的指導的任務といふことの認識不足から指導権をやるとかやらぬとかといふ問題、……勞働者クラブと文化サークルとの混同及びその統一を見ない點……等、兩方の側からのこの問題に對するレーニンの理解の不足が組織活動を押し進めて行く上での大きな障害であつたと云はなければならぬ。我々は組織活動の指導に於ける日和見主義の克服、藝術活動に於てプロレタリアートの課題に立ち遅れることなく指導を高めてゆくことが、眞實の意味で「補助組織」たることを得ることを實踐に於て解決し、示して行かなければならぬ。この正しい方針を刻々に當面する具體的事情に貫徹してゆくことが、これらの諸關係を最も正しく解決して行く方法である。

最近三月の末から四月にかけて、支配階級が「文化聯盟」及び我が同盟を始めとして各文化團體に對して狂暴な彈壓を下しつゝある。若しも我々が組織活動に於て、依然として菊池寛、「キング」の讀者に追隨して、その教育活動及び組織の高まりをその程度に押し止め、又政治的問題に關する動員は他組織のことであるといふやうに分裂的態度をもつて指導して行くことを續けるならば、この彈壓に對して斷乎たる大衆抗議、例へばサークルの決議による抗議を彼等の面前にタ、キつけることによつて、我々の組織を守ることが殆んど不可能であることを知らねばならぬ。

——組織活動に於ける日和見主義の克服へ！それは今や單なる言葉の問題ではない。



我々が一應「組織活動」と云ひ、又「創作活動」と云ふも、この兩者は切離された別個のものとして論ずることは絶対に不可能である。一般的に、我々が優れた作品を作ることによつてのみ、我々の組織活動の擴大と旺盛化が可能であり、又逆にそれらの作品が我々の組織的開拓の線に沿ふことによつて、そのイデオロギー的影響を組織化することが出来るのだ。このことは既にサークルその他の場面で経験が實證してゐる。——而して、この關係に於ける組織活動と創作活動の統一的發展は、その何れもが當面のプロレタリアートの課題に統一されたときのみ、眞に可能である。我々は無規準に、創作活動と組織活動の辨證法的統一を云々することは出来ない。然しこのことは、運動の置かれてゐる一定段階の必然性によつて、ある時はヨリ前面に組織活動が出され、又他の時には創作活動が強調されることも矛盾するものではない。否むしろ、組織活動と創作活動の統一の把握をハッキリとつかんでゐることによつてこそ、一方の正しい解決が直ちに他方の解決への鍵となり得るのである。

我々が「文學サークル」組織による編成替を敢行した根據は、既に明かなやうに、在來の我々のうちにあつた文化主義、即ちプロレタリアートの政治闘争、經濟闘争と離れたところに「プロレタリア文化」を建設しやうとした非政治主義の克服にあつた。従つて、革命的プロレタリアートの當面する戰略的目標は、又我々の活動がそれに從屬され統一されなければならぬ課題である。——こゝから、我々の活動がプロレタリアートの文化・教育活動の部分として、「多數者獲得」のための補助組織となるために、企業農村内に廣泛な層を含む「サークル」の組織へ立ち向ふに至つたのである。

こゝで大切なことは、我々が「創作方法」の問題を提出する根據も、實は同じ基本點から出發されてゐるといふことである。——組織的課題も創作的問題も、それがバラ／＼に、別個な根據から無關係に——あたかも思ひつきの如くに提出されることは、我々の場合としてあり得ない。それは常にプロレタリアートの基本的課題から出て、その點に統一されてゐる。即ち創作方法の重點である「主題の積極性」といふことも、我々の「文學の黨派性」確立といふことも、それは我々の創作的實踐のうちで反映されてゐた文化主義、右翼的偏向——機械論、觀念論に對する闘争として日程に上つてきたのであつて、その解決は組織問題に於ける解決と相まつことなくしては不可能である。

しかも、我々の陣營に於けるこれらの偏向は、我々の陣營内だけに偶然に發生した偏向ではなくて、革命的プロレタリアートの文化闘争に對する「過少評價」が、我々の分野に於ける「文化主義的傾向」となつて現はれてゐるのである。従つて我々は常に「我々の」運動も、それが全プロレタリアートの立場——革命的プロレタリアートの立場に立つことなくしては、その

正しい全面的な解決に近づくことは不可能であることを知らなければならぬ。

レーニン主義による創作方法のための闘争は、昨年の我が同盟の「活動方針書」のうちにはあらはれた右翼的傾向、及びそれにつながる創作的實踐の批判から始められた。——右翼的脱落はその階級的基礎を小ブルジョア的見地に持つてゐる。我々の作家、理論家たちが一般的に（多かれ少なかれ）この見地への脱落を示したことは、（一九三一年上半期）一つには我々の組織内に於てプロレタリアートのヘゲモニーが強固に貫徹されてゐなかつたことにあつたと云はなければならぬ。従つて、その克服の道は、我々の組織の根を直接に企業内に下ろすことによつて、新しい労働者作家を絶えず組織内に獲得して、労働者作家數の比率を高め、その集團的研究のうちに求められる。しかもこの組織的方面の轉換によつて常にプロレタリアートの日常的革命的實踐とに密接に結びつくことが、文化主義の清算を可能なものとするのである。我々の方法はこの困難なジグザクな道程から獲得され、強固なものとなる。これ以外にその道はあり得ない。

創作方法の問題が日程に上るやうになつてから、我々の陣營内では、あたかもそれが教科書の勉強の中から圖式的、公式的組立によつて獲得出来るかの如く考へる傾向が生じた。これは「理論」と「實踐」との極めて恥づべき分離を意味し、福本イズムの漫畫化する復活でしかない。階級闘争の實踐に自己を結びつけることから、創作方法の問題を全然孤立化させ、公式化するものは、唯物辯證法の觀念的な理解であり、抽象化であり、マルクス主義とは無縁な試みである。——マルクス主義は常に「具體的」である。具體的であるといふことは、その理論が現實の要求する實踐的任務と結びついてゐるかどうかに懸つてゐるのだ。

我々があらゆる偏向と闘ひつゝ、特に創作方法（方法は同時に世界觀の問題である）をレーニン主義を以つて貫かなければならぬのは、前にも述べたやうに、労働階級の多數者獲得及びその他の動勞大衆に對するヘゲモニー確立のための不可缺の條件として共產主義的方向の強化といふことが、今の段階に於ける程要求されることのないからである。資本主義の一般的危機に當面してゐるブルジョアジーが、露骨なファシスト的政治支配に移行することによつて我々の陣營に對する攻撃を強化し、社會ファシストを巧妙な手先として、動搖せる小ブルジョア中間層及労働者層（殊に封建的要素を多分に殘存せる農民層）を自己の側に引き入れやうとしてゐる。即ちこゝでは、ブルジョアジーも又己れの獨裁維持の爲に、必死に動勞大衆の多數者を獲得する爲に狂奔してゐる。まさに彼等と我等との階級對階級の對立が尖锐化してゐると云はなければならぬ。この



ことは更に「戦争」の強行によつて拍車されてゐる。——我々はこのブルジョアジーとプロレタリアートとの決定的闘争を成功的に闘ひ抜くためには、ブルジョアジーとの闘争の緩和、或ひは社会民主主義者との妥協から多數者を獲得することによつては絶対に不可能である。正にその反対である。一步も妥協せず共産主義の影響を成るべく多くの大衆に普及せしめ、それを我々の陣営内に確保すること、これ以外に闘ひに勝つ道はあり得ない。創作方法を黨派性によつて武装すること、即ち××黨の世界観である辯證法唯物論をもつて貫くことの必要さが、全くこゝにあつたのである。

我々が約この半歳の間、或ひは「主題の積極性」「生きた人間」「愛情の問題」「前衛と大衆の問題」「偶然と必然」「階級分拆」、或ひは當面の「戦争とファツシズム」の理解の問題等々……について、その些々たる偏向をも見落すことなく、無慈悲に問題としてきたのは、種々な題材（客觀的現實）に對する我々の取扱ひ方をレーニン主義をもつて貫徹することによつて、これ等の當面してゐる闘争に充分堪え得る作品を創造することが何より要求されてゐたが故である。

レーニン主義による創作方法の問題がどのやうな根據から提出された については、以上の通りである。然しながら、我々がこの問題を正しく提出できたことは、ソヴェート同盟の理論・哲學戰線に於ける（ブレハーノフ・デボリーン派批判に於ける）レーニン主義のための討論、及びロシア・プロレタリア作家同盟（ラツプ）の唯物辯證法に於ける創作方法のための闘争の成果を、緊急に我々のものとし、國際的水準の高さに立つて問題にし得たところにあつた。

殊に我國に於けるマルクス主義の理論は、マルクス、レーニンから直接に學び取られたといふよりも、むしろブレハーノフ、ブハーリン、デボリーンを通じてなされた。藝術理論の分野に於ては云ふを言ない。ソヴェート同盟に於けるマルクス主義藝術理論も又その例外ではなかつた。従つて、ブハーリンの日和見主義的理論、その哲學的基礎をなすところの機械論、ブレハーノフの政治的日和見主義（メンシエヴィキの立場）と密接に結びついてゐる一般哲學的見解、及びデボリーンのメンシエヴィキ化しつゝある觀念論に對する闘争が徹底的に捲き起され、哲學のレーニンの段階の意味が明確にされるや、藝術理論の分野にも同じことが起つたのである。

「藝術」と「政治」との關係に於ける在來の曖昧さから脱却して、政治的指導的任務、文學の黨派性の確立を問題にしたこと、それは殊にブレハーノフの見解の特色をなす政治的觀點を藝術へ不徹底に導き入れた階級的觀點とは鋭く對立してゐる。又我々が今までそれを目標として闘つてきた「プロレタリア・レーアリズム」を、新しく發展した見地から再検討し、藝術上の

レーアリズムと非レーアリズムとの區別を哲學上の唯物論と觀念論との區別にのみ求めてゐた誤りから、更にそれが可知論と不可知論との區別に對應してゐることが明かにされた。のみならず、プロレタリア・レーアリズムのより正確なる規定である藝術に於ける辯證法的唯物論が、ハツキリと黨派性によつて貫かれてゐること、（辯證法的唯物論は分けの觀點、即ち××黨の哲學である）この觀點から、社会民主主義者の偽マン的な「プロレタリア・レーアリズム」と手を切るに至つた。——だからこそ、一聯の社会民主主義者たちは（「文戰」の連中は）我々のこの發展に極めて無理難題を付けて、我々の發展した武装した立場をもとへ引き戻さうと焦つてゐる。

其他我々の批評的創作實踐のうちには現はれてゐた「内容と形式」の分裂的理解、藝術に於ける社會的なものとの生物學的なものとの相互關係の問題の解決に於ける誤謬、殊に我々の理論活動のうちにはあらはれた最も大きな弱點だつた論理的分析と歴史的（社會階級的）分析との統一の排除、藝術の價值問題に於ける社會學的分析和藝術的分析との分離の要素——等々を、實際的基準に立つことによつて、基本的に正しく解決してきた。今後の我々には、これらの到達に立つて、種々な問題を常に正しく押し進めるための具體化とその發展が殘されてゐると云はなければならぬ。

我が同盟はこの一年間に於て、「ハリコフ會議」が日本に課した多くの任務を實踐に移してきたばかりでなく、正式に「國際革命作家同盟」に加入し、國際的連繫を組織的に確保するに至つたが、このことは、今後國際的成果を更に組織的に取り入れることが出来るといふ點から云つても、極めて重要であることが銘記されなければならない。

このやうに、我々の理論・創作方法上の到達は國際的高さに於ては、ドイツを凌ぎ、直接にソヴェート同盟に迫つてゐると云へる。人間は、その解決し得る問題のみを問題とする（マルクス）——然しながら、我々はこれらの到達を如何にその理論活動、創作活動のうちに實踐的に移してきたかといふ點では、客觀的情勢に對する我々の完き主觀的要因の「立ち遅れ」を肯定せざるを得ない。勿論我々がそれに向つて努力しなかつたといふのではない。我々の同志によつて、それは精力的に實踐に移された。が、依然として不充分であつた。

しかも他方立ち遅れどころか、これらの困難な重要な段階に於て、この問題の意義を全然理解しやうともせず、それを何等か創作的實踐を離れた煩瑣な理論上の遊びであるかの如く提出することによつて、我々の組織的集團的建設を退却せしめやうとした傾向が存在した。更に、ある同志は、最近のブルジョア文化のファツシヨ化の攻撃に對して、そのうちに内包する彼等



の文化の破滅性と危機を見ない右翼的評價の上に立ち、創作方法のレーニン主義のための闘争を放棄して、そこから彼等に追隨して「プロレタリア大衆向長篇小説」の敗北主義的理論を展開した。だが我々の新しい段階に對して全然の無關心を示した同志も、客觀的には以上の我が陣營内の危険な傾向に對して同罪者であると云はれなければならぬ。

これらの諸傾向は單に一人二人の同志の誤謬として見ることが出来ない。それは最近の情勢が明瞭に示してゐる如く、階級對階級の對立が決定的となつてゐる資本主義の一般の危機は彼等の陣營のみでなく、我々のうちにも、その反映を見せ得るのである。従つてこれらの偏向と徹底的に闘ふことなしには、我々の觀點をレーニン主義的に武装することは不可能である。またブルジョア的偏見との闘争においてのみ、理論上のマルクス・レーニン主義の陣營の強化を達成する（「スターリン」）ところが我々はこれらの新しい段階の意義及びこれらの偏向に對して、廣汎な解説的な活動、あらゆる場面での宣傳活動を全く放棄してゐた。殊にサークル等に於いて、同盟の水準を全體として高めるといふ見地からは、たゞ一片の「中央委員會の決議」を發表することによつては何事もなし得ない。問題は我々の活動のあらゆる分野が、それ／＼の分野の特殊的活動を通じて、統一的にその普遍化の活動を展開することによつて、そこから「新しい文學的幹部（働き手）」を養成することに向けられなければならない。批判活動はサークル、一般同盟員から、下から大衆的に捲き起される必要がある。——彈壓の嵐に抗しながら、我が運動を常に基本的線の逸脱から防衛するものは、文學的働き手の新幹部を次から次へと送り上げて行くところにある。最近、我々の陣營内の諸偏向に對して、一般同盟員のなかゝら積極的にその批判に立ち向つてゐるのを見るのは、我々の運動にとつて最も喜ばしいことでなければならぬ。

次に見なければならぬのは、我々の創作方法・理論上の到達に、作品活動がどのやうに適應してゐるかといふ事である。我々の場合、正しい理論は常に實踐の指針であり、それは又實踐の過程を通じてのみ正しさが證明され、且つ發展される。——一つの理論が我々の場合、「物質的な力」となる所以はこの關係に求められる。だからこそ、ブルジョア側が、機會ある毎に我々の文學に於ける、理論の指導的役割を剝奪しやうと現つてゐる。理論からは藝術が生れない」とか、「テーゼで小説を構成しやうとするから、面白くない、一樣化したものが出来るのだ」とか、これ等がその場合の彼等のお極り文句である。然し實はそれらの言葉のうちに、資本主義の没落期に當面して、發展する統一的な指導理論を持たずに、己れの道を見失つてゐる彼等自身の立場が曝露されてゐる。

然しながら、若しも我々の創作的實踐・作品活動とその指針である理論的高さとの間に「ギャップ」が存在してゐるとすれば、我々はそれを即刻埋めなければならぬ。そのためには、何がギャップの原因となつてゐるか、それを見極めることが必要である。凡そ、如何なる場合でも、正しい方向は幾多の困難な闘争と努力を伴はずしては、達成することが出来ない。個々の作品にこれらのギャップがどのやうに現はれてゐるかに就いては、創作活動の副報告に譲るとして、このギャップを生んだ客觀的、主觀的困難の主なるものは、第一にこの問題も又我々の組織上の活動の發展をまたすには單獨に發展することが出来ないといふ點にかゝつてゐる。然るに、我々の全運動（殊に組織活動）はその過渡期に當面してゐる。既に述べたやうに、我々の方法「世界觀の獲得、その藝術的概括は教科書の中からの勉強によつては得られない。作品活動も従つて我が作家たちが組織の中で、プロレタリアートの日常的、革命的實踐に正しく参加することの中から得られる。ところが、我が作家たちは未だ充分にそれに立ち向つてゐない。何よりサークル活動の中に作家たちは緊密に結びつかなければならぬ事が見えなければならない。

第二に、企業經營内及び農村に於けるサークルで、作品を取りあげての具體的批評活動が系統的になされてゐない。特定の選らばれた、職場を離れた専門家にのみ、その批評が委かされてゐる現状が即刻改められなければならない。大衆の面前での中での（勿論我々の専門的批評家をも含めての）批評活動が、我が作家たちのうちに現はれてゐる觀念的傾向の最も手厳しい批判となるであらう。この點に就いては、勿論その置かれてゐる社會的情勢に差別があらうと、肉體的労働と精神的労働とのギャップを埋め、所謂専門作家の「浮き上り」克服のために、ソヴェート同盟のラップが、作家の工場突撃隊の編成、赤衛隊海軍文學同盟（「ロカフ」）と云ふ新しい活動形態等に重點を置き、その方向に進んでゐることに學ぶべき點があると云はなければならない。

第三の點は、組織の中で闘争の經驗を持つ企業内の最も近代的なタイプとしての労働者作家の比率を、我が作家同盟がまだ極めて不十分にしか（否、殆んど）持つてゐないこと、結びついてゐる。プロレタリア文學の建設者として、これらの作家の獲得の重要なことは云ふをまたない。我々は獲得しなければならぬ作家を、特に労働者出身の作家といふ風に云ふだけでは充分ではない。殊に多くの労働者はブルジョア階級の反動文化のもとにさらされてゐる關係上、封建的な卑俗な現實主義的傾向を持つてゐる。



然しそれらはたゞプロレタリアートの組織の中で、その闘争の中で訓練されることによつて、新しい型(タイプ)の労働者たり得る。我々はまさにかかる労働者を獲得することによつて、我が同盟全体の水準をプロレタリア的に高めなければならぬ。——これと同時に云へることは、(丁度その裏返しとして)小ブルジョア出身の作家は、己自らを組織の中の活動に結びつけ、その名状すべからざる困難な闘争の過程で、種々な挾雑物を發展的にふるひ落さなければならぬ。この両方のことがなされなかつたために、(その両方のことがなされるためには矢張り新しい労働者作家の獲得が前面に押し出されなければならぬのだが)創作方法上の獲得が、作家にとつて具體的なものとならなかつたのである。

最後の點は、我々の作家たちの、政治的、經濟的情勢に對するマルクス・レーニン主義的觀點の不充分さと、従つてそこから何時でも起る客觀情勢への後かゝの「追ひ掛け」といふことが原因に數へられる。このことは、殊に最近の戦争とファシズムを取扱つた同盟員及び同盟員外からの澤山の作品のなかに共通にあらはれてゐる。——この點でも、我々の作家たちはプロレタリアートの前衛に劣らぬ、否それと同じ政治的教養の達成に進まなくてはならぬ。

基本的には、之等の諸點が我々の理論と創作的實踐のギャップを生んだ困難と云へるであらう。然しながら、これらも、單に一般的なギャップとして存在してゐるのではなくて、この困難は我々の當面してゐる客觀情勢と結び合つて居り、それによつて我々の主觀的要因の「立ち遅れ」となつて現はれてゐるのである。我々は今まで口を開けば創作活動の立ち遅れを問題にしてきた。——然し我々は積極的な解決を前面に提出してゐない。「自己批判」なるものを考へることは出来ないものである。具體的に困難の有り場所が示されなければならぬ。我々の新しい大會は、従つてこれらの點に詳細に、無慈悲に入りこむことによつて、創作活動に於ける立ち遅れ克服の方策が立てられなくてはならぬ。これが第五回大會に背負はされてゐる大きな任務の一つであらう。

作品活動に於て、極めて概括して云へることは、我々の新しい到達を、兎にも角にもその作品の中に實踐しやうと積極的な努力を拂つた作家たちと、理論と作品實踐との分裂的理解から、舊體依然として在來の自己の態度を續けた作家たちと、「主題の積極性」といふことの觀念的な理解に未だに提はれた多くの作家たちがあつたことである。又、戦争と飢饉とを取扱つた作品が、同盟員、同盟員外から集つた全作品の七〇%以上を占むるにも拘らず、それには殆んど優れたものがなかつた。我々は作品活動の「立ち遅れ」といふことを、單に「何を」描いた作品が少いか、多いかといふ點からばかりでなしに、それを「如何に」描いたかといふ質の問題にも入ることによつて、全面的な立ち遅れの姿を示し、その回復の策が講ぜられなければならぬ。

なり。

#### 四

この一ケ年間の實踐に於て、最も我々の誇るべき成果の一つは、「文學新聞」の發刊であると云へる。「文學新聞」は我々の新しい組織方針である「サークル」組織に適應して取り上げられた。それは廣汎な(機關誌の持つ高さを保持しながら、特殊性によつてより廣汎な)労働者農民の層に入つて行くことによつて、そこへサークルが結成される素地を作り、同時にサークルメンバーの可及的多數に讀まれ、愛されることによつて、サークルの組織的確保と階級意識の昂揚を目的としてゐる。今では百をもつて數へる通信員を自己の下に持ち、大衆と密接に結合してゐる。——「文學新聞」はこのやうな大衆的、組織的任務を背負はれてゐる我が同盟の機關紙である。

「文學新聞」がこの一年間をどのやうに實踐してきたかに就いては、既に十一月に持たれた「第一回擴大中央委員會」其他の場面に於て、幾多の點が批判された。その重要な點は次のやうであつた。編輯記事に於ける理論的政治的見地の歪曲、「文學新聞」とサークル組織との關係に對して明確な把握の不足、ブルジョア新聞に追隨した記事の取上げ方とその卑俗的傾向、ブルジョア・ファシズム・社會ファシズム文學に對する批判の排除、國際的記事、婦人、農民に對する記事のない事、新聞独自の配布網を確立することの放棄等々だつた。

然しながら、「文學新聞」はその後これらの批判を直ちに充分には取り上げてゐない。殊に最近「文學新聞」の發刊部數は著しく後退してゐる。一般的に、我々の仕事が若しも正しい方向に立ち向つてゐるならば、その部數が躍進してゐなければならぬ。従つて、我々はこの激減の現象のうちに、我が「文學新聞」が未だ正しくない多くの部分を持つてゐることを見ないわけには行かない。

その重なる理由を、二三挙げれば、第一に新聞の内容の固定化が、これである。しかも、それが文學新聞であるにも拘らず、最近號(四月五日號)の如きは、文學上の記事が殆んど取上げられてゐない。それは雜報的記事(これは勿論不必要だといふのではない)によつて満たされてゐる。これは讀者を深い興味を以つて、新聞に結びつけて置くことは不可能である。作品の月評、文學講座、我が同盟の理論的到達點の解説的記事、所謂「大衆小説論」のサークル内での批判を誘發せしめるが如き記事、及び作家同盟の大會に對する全き無關心、と同時にメーデーの準備闘争をサークル内で捲き起させるための記事等々：



…これらが——戦争とファシズムへの闘争と結びつけられ、統一的に取り上げられてゐない。  
第二には、「文學新聞」がその紙面の上で、「文學新聞」の讀者をサークルへの結成に持つてゆくための執拗な指導がなされてゐない。及び新聞の財政的活動の不充分と、その問題を配布網の確保と擴大とに結びつけられてゐない。  
我々は「文學新聞」のうちに残存してゐるこれらの偏向を克服し、「決議」は即時に實踐に移さるべきであることを銘記して、發行部數の倍加運動に取りかゝらなくてはならぬ。

我々は更に、當面してゐる情勢と新しい組織活動の必然さが創造した活動形態として「文學の夕べ」「講習學校」を擧げなければならぬ。「文學の夕べ」は大講演會形式にのみそのイデオロギー的影響の擴大の方法を求めてゐた在來の方法を發展させて、地區的に——暇打的な効果をもつて——即ちそのイデオロギー的影響をそのままに放任するのではなく組織化するためのより小さい形式の會合であつた。このことはサークル組織の活動と結びつけられて、最も大きな實踐的意義を持つたものであつた。たゞ、この場合も、運動の過渡期に制約されて、テーマは主に組織問題の範圍で行はれた。「文學の夕べ」でありながら、實質的には、組織問題の場合でも理論的作品的問題と充分に結びつけられなかつたこと、及び「戦争」「ファシズム」「選挙」等の問題が殆んど其處では上程されなかつた事が云はれなければならぬ。「講習學校」の企ては、プロレタリア文學運動に於ける働き手養成と、我が同盟の理論的、實踐的到達の大衆化の一つの手段として行はれた。この成果として數ふべきは、「講習學校」へ参加したメンバーを組織的に確保する仕事が行はれたこと、それらのメンバー内から相當優秀な同盟員が獲得出来たことであり、各メンバーにそれ／＼の場面で、サークルを作ることを義務付けたところにある。これらの仕事の第一層の強化——及び更に發展した運動の段階が要求する形態を我々が創造的に逸早く取り上げることがなされなければならぬ。

同時に、我々は今後それに主力が傾注されなければならぬ一つの活動形態として、企業経営内サークルでの「催しもの」を考へることが出来る。我々は、まさにサークルの活動が新しい段階——教育活動を強化しなければならぬ段階に來てゐることを云つた。このサークル内での「催しもの」は、まさにそれに適應し、その發展のためのものであることが云はれる。しかも、在來のやゝもすれば街頭的だつた活動形態に對して、この形態は明かに正しく持たれるものであらう。今後我々はその具體的な活動に於ては、最も豊富なテーマと、創意性が發揮されなければならない。

五

我々が農民文學の正しい發展のために努力してきたことは、この一年間の我々の實踐にうちに、特に擧げなければならぬものである。初めそれは「國內に大きな農民層を持つ日本にあつては、農民文學に對するプロレタリアートの影響を深化する運動が一層注意される必要がある」といふ「ハリコフ會議」の決議に基いて、我が同盟内に「農民文學研究會」を作ることによつて具體化の一步を踏み出した。然し、第一に當時我々は、この問題が基本的に、プロレタリアートの當面してゐる戰略的目標たる「多數者獲得」の任務に適應するものであることを、明確には理解してゐなかつた。即ち、労働階級以外の勤勞大衆（農民、都市小ブルジョア）の基本的部分を我々の組織的政治的影響下に置かなければならぬことが、農民文學に對する我々の關心の最基底に置かれてゐたのである。第二には、農民文學そのものに對する規定に、大きな認識不足（農民文學をプロレタリア文學の一部、或ひはそのものとする考へで、農民文學がプロレタリアートの同盟者としての革命的貧農の文學であるといふ風には理解されてゐなかつた）のために、我々は同盟内の研究會活動——研究といふ枠内にそれを閉ぢこめて、直ちに農民文學に對する組織的解決といふ風に問題を上提しなかつた。——然しその後の發展によつて、我々は「農民文學委員會」を持ち、農民文學のために、革命的農民作家の獲得のために、「農民の旗」が出され、反動的農民自治派其他に對する闘争を開始することによつて、廣汎な農民層への彼等の影響を切り離す仕事になされた。この發展の道行は（その成果は未だ極めて不十分ではあるとしても）疑ひもなく我々の正しさを示してゐるものと云はなければならぬ。

我々がプロレタリア文學と農民文學を明確に區別して規定するのは、今迄それが混同されてゐたために農民文學に對するプロレタリア文學の影響の深化、指導といふことが全然抹消せられたが故である。當時、多くの場面で疑義が出たやうに、それは決してプロレタリア文學から切り離すための區別ではなかつたのである（その後、我が同盟から獨自に農民作家團（或ひは同盟）を作らなければならぬといふが如き意見の出たことは、これらの疑義と同じイデオロギー的誤りを含むものであつた。）

農民文學の組織的問題としては、今迄の農民文學委員會のより廣汎な、活潑な活動の強化と、組織部との緊密な連繫のもとに（メンバーの交換による）農村の文學サークルに對する働き掛け、そこに通信員及び農民作家を獲得して我が同盟に大膽に引き入れること、「農民の旗」其他あらゆる場面、あらゆる刊行物を通じて、「資本主義社會に對する、國民的偏狹性及び愛國主



義に對する、ブルジョアのファツシヨ的及び社會ファツシズム的影響に對する、文學に於ける所謂中立的並びに非政治的態度に對する、帝國主義戰爭とその準備に對する闘争に活潑に参加させ、社會主義思想をひろめるために、農村の勤勞大衆をプロレタリア的革命的國際主義の精神に教育するために、プロレタリア的指導と農民の革命的闘争部分との間の結合を固めるために、これらの教育活動を（今迄我々は殆んどそれをやつてゐないといふ）繰りかへし、繰りかへし、廣汎な範圍に涉つて行つて行かなければならぬ。これらの問題は、當面最も緊密に戰爭とファツシズムに結びつけられることが要求される。其他種々な創意性に富む形態の諸活動を、例へば、農村巡回座談會などその一つであらう。農民文學委員會は先頭に立つて、取り上げて行くことが考へられる。

農民文學委員會とともに、我が同盟が昨年九月、常任中央委員會に「婦人委員會」を作つて今迄閉却されてゐた勤勞婦人の全階級闘争のうちに置かれてゐる社會的、經濟的闘争及び文化的闘争に注意を集中し、そこから婦人作家、婦人の通信員等の廣汎な獲得の問題を前面に押し出してきたことも、特に取上げなければならぬ意義を持つてゐる。この分野に於ける我が同盟の活動は、勤勞婦人の置かれてゐる特殊な隸屬關係（同一労働について、男子労働者に倍加する苛酷な搾取をうけ、社會的・歴史的的地位についても封建的な隸屬關係に置かれてゐること）から、文化的位置の極めて低いことから、多くの困難さと執拗さを要することは云ふ迄もないが、全プロレタリアートの半數を占めてゐる勤勞婦人に對する働きかけは、決定的な重要さを持つものである。

婦人委員會は、その後東京支部にも設けられ、その活動によつて婦人作家の獲得にも見るべきものがあり、三月八日の「國際無産婦人デー」に際しては、それ独自の活動をなし、相當の効果を擧げてゐる。然しながら、我が同盟各支部で、この問題の重要さを理解して婦人委員會を設け、活動してゐるものは殆んどなく、各組織されてゐる「文學サークル」内の婦人のメンバーの比率も、極めて低い。擴大中央委員會は既にこの缺陷を指摘し、中央部婦人委員會も各支部が即刻婦人委員會を作つて、この立ち遅れの回復に立ち向ふべきことを慫慂した。多くの人の眼にも明かなやうに、戰爭をキイ機として、如何に勤勞婦人が反動的分野に動員されてゐるか！我々は婦人独自の問題をプロレタリアートの革命的課題と巧みに結びつけ、その特殊性によつて効果的に宣傳、煽動することを學ばなければならぬ。これは我々の全活動を通じて云へる缺陷ではあるが、我々は常に一般的原则から出發し、そこには、立ち止まつて、極めて無興味な千遍一律の説法をやつてゐる。生きた特殊性をつかんでの縦横な戰術の適應といふ點では、まだ、不十分であり、拙劣であると云はざるを得ない。新鮮な、魅力あるテーマを次から次へと與へることによつて、（我々は常に逸早く客觀的情勢の基本的なポイントを見抜き、それに應ずる策を「創造的」に生み出し）立ち遅れを回復しなければならぬ。

## 六

今度の第五回大會では、特に各地方支部のための委員會を持つことになつてゐる。我が同盟としては、それは初めてのことであり、我々の活動を支部活動の上に強固に置くものとして、大きな意味を有する。そこでは一つの支部のあらゆる問題が隅から隅まで検討され、その成功と缺陷が示され、その具體的討論によつて正しい活動方針が建てられるであらう。——従つて、こゝでは單に極めて一般的な點について支部を見る。

各地方支部はその置かれてゐる特殊に困難な客觀的情勢のもとで、（東京支部と比較すれば、地方支部はその活動の困難さに於いては、非常な差がある）かも支部が結成されてから平均して半年位の短期間に、我々の力の弱さにも拘らず、可なり成果を擧げ得たことを認めなければならぬ。殊に各支部が中央部で日程に上つた問題を直ちに取り上げて、その具體化に努力してゐる。然し、我々は今むしろ缺陷について語るべきが、各支部の活動をより旺盛にし、發展せしめるものであることを知つてゐる。

まづ第一に、中央部は支部設立の問題について、常にその自然發生に委かしてゐたといふことが云はれる。本部は意識的、計劃的に支部を作ること努力しなかつた。このことは、一定の見透しのもとに、オルグを派遣することをしなかつたことと結びついてゐる。従つて、今迄我々は何時でも「棚からボタ餅」の落ちてくるのを待つてゐたといふことになる。これはマルクス・レーニン主義と最も縁の遠い態度でなければならぬ。（これらのことはサークル組織の場合についても同様云へる。）次に、本部と支部との連繫が、殆んど原始主義的な素人細工を以つてなされてゐたこと、組織的、定期的（定期的といふことは最も大切なことである）になされてゐなかつた。こゝからある一定の支部の問題が、具體的な報告に基いて、詳細に討議されたことが殆んど無かつたと云はなければならぬ（地理的な關係から東京支部だけは、この例外をなしてゐる）。従つて、中央部は支部に對しては、一般の方針のイデオロギー的な影響でしか繋つてゐなかつたと云つても、それは取上げて過言ではなかつた。——我々は、各支部に對して、自己のうちの活動の缺陷をも大膽に示した報告の定期的提出を要求すると同時に、中央部はその慎重な討議による正しい指導を、これ又定期的に與へることが要求されなければならぬ。然し支部強化といふ點



から今迄幾度も計劃されながら、實行に移されなかつた「黨回オルグ」の派遣を、中央部は即刻具體化しなければならぬ。

第三は、地方支部に於ては、特に「教育活動」の面を重視しなければならぬ。中央部が國際的基準——國內的には全國的高さに立つて建てた組織問題、創作方法の問題、及び政治的諸問題について、支部はそれを機械的に再プリントして押しつけるのではなしに、必ず當該地方の特殊的情勢、そこでの勤勞大衆の日常生活の關心事と結びつけることによつて、——別な言葉で云へば、その日常的・革命的實踐のなかに含めてのみ問題化しなければならぬ。それは、すでに、マルクス主義のイロハであるにも拘らず、未だ極めて不充分にしか行はれてゐないと云はなければならぬ。——然しこの點については、中央部の教育活動方針が全國的な規模に於て建てられてゐなかつたところにも、重大な責任があると云はなければならぬ。

第四は、サークルについて述べたところでも觸れたが、地方支部に於けるサークルの指導方針のうちに、「補助組織」であるといふことの機械的適用が存在してゐることである。それは地方支部に著しいやうである。一方では戦旗社時代のセクト的傾向の清算と他方ではサークルの正しい教育方針の樹立によつて、この機械的、極左的敗北主義を克服して行かなければならぬ。

第五は、創作活動の不振である。これは各地方支部全體を通じて現はれてゐる最も弱い一環である。地方支部がそれらの機關誌を持つことは、單に創作活動の旺盛化のためばかりでなく、運動全體にとつても望ましいことである。然しこのことは支部の力關係から問題にしないと、支部自身の活動を阻害し、そのために「プロレタリア文學」「文學新聞」の配布組織化の活動其他が全然放棄されたりすることがある。然し支部機關誌を持つてゐる支部であつても、その創作活動が充分活潑でない。なほ支部員の創作活動が充分に中央部に反映されてゐないといふことも云へる。勿論、他の點についても云へることだが、創作活動は單獨にそれ自身だけの旺盛化といふことは不可能だし、有り得ないが、それは創作方法の問題を組織問題及びプロレタリアートの當面してゐる課題と結びつけて、全體的に高められることによつて可能なのだが、特に創作活動を刺戟するための方策——各種パンフレットの發刊、批判會、講習會、講習會については、東京支部の企てに學ぶべき點がある。などを積極的に企劃することが要求されるであらう。

第六は、地方支部の多くは、直接農村と密接に結びついてゐる。従つて、それらの支部では、その特殊性を具體的につかんで、一般の方針の鑄型のもとに運動の發展の良き萌芽を害することをしてはならぬ。これらの支部では、「農民文學」の問題、文學サークル内に於ける農民的要素のそれらの分化に注意を拂はなければならぬ。

最後に、地方に於ては、我が「文學新聞」の持つ役割は極めて重大である。しかるに、その文學新聞配布数とそれがサークルへの組織とのギャップは（既に述べたことではあるが、その重要さの故に又繰り返して置かう）非常に大きい。このギャップを埋めること、これが大會に集まつてきた代議員がその各地方に持ち歸らなければならない最大の任務の一つであらうと考へられる。

以上は極く一般的な點であり、その他の點については、この報告全體で問題になつた凡てのことが、又各地方支部の問題でもあることは云ふ迄もない。殊に、さきにあげた重要地方に當る諸支部は、全プロレタリアートの鬭争の觀點から、その構成部分として課せられてゐる我が文學運動の任務を理解し自覺することによつて、その活動を強化して行かなければならぬ。

### 七

我々は極く簡單ながら、我が同盟が如何なる客觀的情勢のもとで、その主觀的要因が、即ち我が同盟の正しい階級の方針がどの程度に貫いたか、其處にはどのやうな主要成果があり、そして他面に於ては、如何なる弱點と缺陷が存在し、それがどのやうに克服されなければならないかを問題にしてきた。——立ち遅れの克服による同盟の強化！ 然しながら、この問題は直ちに藝術運動を含めての全プロレタリア文化運動の統一の指導部である「日本プロレタリア文化聯盟」の強化と結びつき、又結びつけなければならぬ。このことは、我が「日本プロレタリア文化聯盟」（略稱コツプ）に對するブルジョアジエの彈壓のホコ先きが極度に暴化してゐるとき、特に強調されなければならぬ。

「文化聯盟」の結成は、我が日本のプロレタリア文化運動史に劃期的な意義を持つことについては、既に明かなことである。この「文化聯盟」の結成によつて、我々の全運動が全く新しい段階に發展したのみならず、それは又加盟各團體の力を飛躍的に強化した。ブルジョアジエが、文化聯盟中央協議會を起しかへし、繰り返しかへし彈壓し、文化聯盟發行の諸刊行物を残らず發禁し、文化聯盟主催のあらゆる「催しもの」を解散をもつて妨害し、連續的な事務所の家宅搜索を行ふ等々は、資本主義の一般の危機に當面せる彼等の上層の危機をそれ自身示してゐるものに外ならない。彼等は我々への彈壓を、今では最早「劣惡極まるデマゴギー」と「ありとあらゆる強制と暴力」によつてのみしか行ふことが出来ない。それは彼等の反動の強化のうちに、必然にその崩壊と破産の危機が含まれてゐるからである。我々は勿論、彼等の彈壓によつて、拭ふべからざる打撃を受けたし、飽く迄もそれに抗して、我々の組織を即刻に補充し、大衆的抗議を各同盟、サークル等下から捲き起すことによつて更に



活動を強化して行かなければならない事は云ふ迄もないが、然し我々は彼等と我等との基本的關係——政治的・經濟的基礎の上に立つ我々の文化の優位性をハッキリと理解することによつて、暴虐の過重評價からくる敗北的見解を嚴重に警戒し、かゝるモメントを我々の陣營の層一層の躍進のモメントとしてつかまなくてはならぬ。

ブルジョアジーは、當面してゐる恐慌を切り抜けるために戦争を強行して、植民地の分割に進み、他方國內に於ける大衆の憤懣を抑壓するために露骨なファツシスト的支配に頼つてゐるとき、革命的プロレタリアートの非妥協性をもつて帝國主義戦争とファツシズムに反對して果敢な闘争を續けてゐる文化聯盟は、彼等にとつて最も恐るべき敵であることは云ふ迄もない。彼等は己れのかゝる意圖を偽マンするため、あらゆる刊行物、ブルジョア新聞を動員して、デマをネット造し彈壓の合理化をやつてゐる。彼等は「文化聯盟」と「日本××黨」を意圖的に混同することによつて、一方では再建××黨が壊滅したと云ひ他方「文化聯盟」の公然たる活動の自由を奪つて、非合法に追ひ込まんとしてゐる。この一石二鳥的な彼等のデマを、我々は

大衆の面前で執拗に曝露粉砕しなければならぬ。

我々は、我々の機關誌、文學新聞、サークルの會合を通じて（そのために全國的にサークルの會合を開くことが緊急の任務である）文化聯盟及加盟各團體に加へられた不當な彈壓の正しい階級的意義を明かにすること、かゝる抗議運動を組織的に廣汎に下から捲き起すことによつて、各支部、各サークルは抗議の決議文を即刻作つて、ブルジョアジーの面前にク、キつける必要がある）それを我々の組織活動・創作活動の擴大強化をはかる活動と統一されてなされるべきであること、今迄極めて不充分だつた文化聯盟と各文化團體との組織的連繫を強靱に建直すること、朝鮮、臺灣、太平洋沿岸の革命的な文化團體及び世界各國の文化團體、文化聯盟に機を發することによつて、抗議運動を國際的な問題とし、それをまた結成されてゐない「國際プロレタリア文化聯盟」結成の契機としてつかみ、この運動のイニシアテヴを我々がとり、先頭に立つことがなされなければならぬ。——これらすべては「戦争」と「ファツシズム」に對する闘争、同志原惟人を始めとする我々の輝ける指導者採捕反對闘争、及びこれらの諸闘争を、全く未曾有の時期に持たれやうとしてゐる「獨立的メーデー」闘争への力の盛り上りとして、統一されるための活動は、如何なる困難があらうと絶対に敢行されなければならぬ。そして、それはすべてたゞ我々の決定的な闘争力の發揮に背負はされてゐることが銘記されなければならぬ。

## 結 び

同志諸君。これで中央委員會の一般報告を終る。これはこれに續くそれらの副報告と結びつけられることによつて、過去一年間の我々の實踐の全展望と、そこから我々が如何なる方向に向つて新しい年度の第一歩が踏み出されなければならないかを示されるであらう。

我々が組織活動に於ける日和見主義の克服へと云ふも、創作的・理論的活動の立ち遅れの克服へと云ふも、現段階に於ける政治的指導的任務を明確に把握することによつて主題の積極性、我々の文學のボルシェヴィキ的黨派性を確立しなければならぬと云ふも、マルクス主義者として現在ほど高き政治的教養が要求されなければならぬ時が無いと云ふも、それらすべては我々が見來つたプロレタリアートの當面する客觀的情勢を闘ひ抜くために、我々の「立ち遅れ」克服の不可缺の任務であつた。我々の行手は、最早脱落した。輝かしい「社會民衆主義者が喚いたごとく、單なる戰場でもないし、むろん墓場では絶対にない。今日我々プロレタリアートは既に世界の六分の一を獲得し、それを支配してゐる。我々は既に輝かしい社會主義文化を建設しつゝあるのだ。我々のこの確信は、殘された世界の六分の五を獲得するために、更に強められてゐる。同志諸君、我々はこの確信と希望と決意とをもつて、我々の「立ち遅れ」克服の闘争へ躍進すべきである！

我々は大會の前にして、幾多の同志を支配階級の手に奪はれ、又一二の同志は彼等の執拗な追及のなかに置かれてゐる。従つて大會の仕事は多くの困難な事情のもとで進められなければならない。然しながら、そのことが我々の大會を押し潰すことが出来るだらうか？ 斷じて否である！ 我々は幾多の優れた同志を次から次へと持つてゐる。今や、重大な任務は同志諸君の双肩にかゝつてゐると云ふべきである。諸君が、若しも一致團結して大會を守り、最も無慈悲な批判の上に正しい方針を建てるために、如何なる困難をおかしても押し進むならば、我々は鐵の如き確信を以つて、次の如く云ふことが出来るであらう——

勝利は我々のものである、と。  
決定的闘争へ！

(完)



## 副報告

### 創作活動に關する報告

我々は過去一ヶ年足らずの間に、プロレタリア文學運動の巨大な方向轉換を行つた。この方向轉換はその性質の深刻さに於て、その國の廣大さに於て、我がプロレタリア文學運動にとつて、まことに劃期的なものであつた。それは我が作家達の創作活動の上にもあらはれねばならなかつたし、またそれは既にあらはれつゝある。しかしながら、そのあらはれは未だ微弱であり、現在の客觀的條件が我が作家達に負はせてゐる諸任務に比べれば、大きな「立ち遅れ」が存在することは確かである。

何よりもまづ注意しなければならないことは、端的に云つて、創作活動に於ける方向轉換は、組織活動に於けるそれに比して、時間的にもはるかに遅れて着手されたといふことである。組織的方面では既に早く第四回（臨時）大會に於て、方向轉換の基本的方針が樹立され、その後直ちにそれは實踐に移されたが、創作的方面ではそれよりも遅れて、昨年末の擴大中央委員會を中心にして、新たな段階への飛躍が漸く一般的關心に上るに到つたのである。大體この時期を境にして、我々の創作活動はこれを二つの時期に分けることができる。最初の時期は、非政治主義的、文化主義的、日和見主義にその基礎をおくところの、主題の積極性の喪失によつて特色づけら

れる期間であり、その後の時期は創作活動に於けるレーニン主義のための闘争によつて特色づけられる期間である。

まづ前期に於ける創作活動についていへば、この期間に於て最も多く我々の關心をひいた問題は、所謂「作品の固定化」とこの固定化の克服の問題であつた。「作品の固定化」とは何を意味してゐるか？それは第三回大會における報告の中でもいはれてゐるやうに、題材が主として前衛的活動やストライキやその他これに類するものに限られてゐたといふこと、云ひ換へれば、作家が所謂「題材の革命性」（？）に頼りすぎてゐたといふことを意味してゐた。かゝる認識からして我々は「作品の固定化」に對して、「題材の廣汎化」「主題の強化」なる標語を對置したのである。

「題材の革命性」とか「主題の強化」といふことが、主題と題材との關係に對する辯證法的理解の缺如を意味してゐることは、既に我々の間で明らかになつてゐる。だがこの曖昧な誤つた標語から我々の創作的實踐に於ては結局何が生れたか？それは主題の積極性の喪失以外の何物でもなかつた。

例へばこゝに「愛情の問題」を取扱つた一聯の作品がある（片岡鐵兵「愛情の問題」、立野信之「四日間」等）。これらの作品は「愛情

の問題」を取り扱つてゐる。そして今までのプロレタリア作品が殆んど取りあげなかつた新しい題材、「愛情の問題」を取りあげた限りに於て、これらの作品は疑ひもなく題材の範圍をより廣めたといふことができる。また例へばこゝに「生ける人間」を描かうとした幾つかの作品がある。（小林多喜二「獨房」はその典型的なものである。）これらの作品もまた、從來のプロレタリア作品に缺けてゐた人間性を描かうとした限りに於て、同じく題材の範圍をより廣めたといふことができるかも知れない。だが、これらの作品は、階級關係に基づかない愛情一般或は人間性一般を主題とすることによつて、プロレタリア文學の基本的主題である階級闘争はどこか後の方へ押しやられ、作品の階級の機能は全く歪められ、かくて主題の積極性は殆んど失はれてしまつたのである。

このやうな偏向を生んだ原因は、我々が「作品の固定化」といふ現象から出發して、それを「題材の革命性（前衛的活動やストライキ等）」に頼つた結果と解釋し、革命的な主題と方法の問題を離れて、單なる題材の廣汎化を試みた所にある。即ち我々は局限され固定化された二三の題材に對して、これもまた局限され固定化された、しかも積極性のない、他の二三の題材を以てすることによつて、我々の誤りをなほ一層深めたのである。だが問題の眞に正しい解決は、我々が唯一の革命的觀點に立つて、現在及び過去の社會的現實の中から、積極性ある主題を廣汎に取りあげて、これを唯物辯證法的方法に従つて、類型的ではなく、具體的に描くことにあつたのである。とはいへ、これら一切の問題は、こゝでくどくどしく述べるまでもなく、既に我々の間では明らかになつてゐることだ。

次に、右にあげた事柄と並んで、しかもこれと關聯して指摘され

ねばならぬことは、我が作家達の間で、所謂「大衆もの」への漠然たる要望が試みられたことだ。この試みは大衆により親まれ易い作品をつくらうといふ意圖から出發したものであるが、こゝに於てもまた革命的觀點の問題が顧慮されなかつたために、その結果に於ては、作者の態度の安易化、従つて作品の卑俗化が生れてきた。小林多喜二の所謂「アタラをかけた作品」に數へられるもの、例へば小林の「壁に張られた寫眞」、立野信之の「噂ばなし」、その他貴司、徳永の諸作品等がそれである。これらの作品に於ては、作者が主題の追眞性を棄きあげてゆくことを怠つて、ストーリーの興味性のみを狙ひ、その結果、作者の態度は著しく安易化し、できあがつた作品は卑俗なものとなつてゐる。この安易な卑俗な傾向は小林多喜二の「オルグ」の中にさへあらはれてゐる。この作品は一應積極性のある主題をとりあげてゐるにも拘らず、作者がそれ以前の作品に示した緻密な確かな寫實性、具體性、必然性（そこには自然主義的リアリズムの殘滓があつたとは云へ）は失はれ、單に現象の表面を上江りする傾向が強くあらはれてゐる。これは作者が「簡明」、「スピード」、「映畫的モニター」等、要するに筋の運びの面白さといふことに専心して、對象の正確な把握とその具體的表現を缺いてゐたからである。

このやうな誤りもまた、階級の規定を含まない「作品の多様化」「題材の廣汎化」といふ標語の、文學的實踐への一つの現はれに他ならないこと勿論である。

次に、この一年間を通じて農民を扱つた作品は著しい數に上つてゐるが、このことは前期について見ても、正しくその通りである。これはハリコフ會議における日本委員會の決議と同盟第三回大會に



おける決議の實踐的なあらはれである。この領域に於ては、たゞに中堅作家の著しい努力（中野「開墾」、立野「小作人」等）が見られるばかりでなく、そこからは幾人かの新しい作家も生れてきつゝある。（金鏡「暴徒」、細野「吹雪」、須井の「綿」等。だが作家と作品の量的増大にも拘らず、質の點ではなほ幾多の缺陷を免れなかつた。既に明らかやうに、右にあげた諸作家の所謂「農民物」の大部分は、何よりもまづ農村の具體的な階級的分拆を缺いてゐた。そこでは、農村における闘争は「横暴な地主」と「貧乏な小作人」の對立といふ漠然たる一色に塗りつぶされ、帝國主義下における現代日本農村の複雑な階級的分化——金融資本家に轉化したある大地主、富農、中農、貧農、農村労働者等々の階級の差別は殆んど抹殺されてゐる。況んやこれらの階級の差別の基礎をなすところの、農村における生産と搾取關係は全く觀察の外におかれてゐる。農村におけるやうに、封建的搾取關係と資本主義的搾取關係とが、二重に相交錯してゐる所に於てこそ、作者は最も鋭い唯物辯證法的認識方法の武器を用意しなければならぬにも拘らず、我々は正にこゝに於て自らの最も致命的な缺陷を暴露してしまつた。我々はこゝで、農村における階級關係の具體的分拆は勿論のこと、理論的分拆さへも持つてゐなかつたことを示したのである。このことは我々の政治的把握の力がいかに少ないかを物語するものである。（須井の「綿」は右にあげた諸作品の中では異色を持つ作品である、これについては後で觸れる。）

こゝでついでに指摘しなければならぬことは、農民文學の問題における我々の二つの任務についてである。我々が最初農民文學の問題をとりあげた時、我々は、現在の階級闘争における農村・農業問

味に於てこれらの作品の意義は極めて大きいといはなければならぬ。それは就中これらの投稿作家が、工場や農村における生活と闘争とをよく知つてゐて、それを具體的に、忠實に再現してゐるといふ點にある。勿論そこには缺點がないわけではない。しかし大體に於てこれらの作品が、はつきりした經濟的階級的分拆の上に立つて戰場乃至農村の現實を具體的に正確に描いてゐることは確かである。このやうな作品は或は特殊の場合であるかも知れぬ。だが、彼等にとつてこのことがしばしば可能なものは、彼等が自分自身を一モメントとしてその中に織り込んでゐるところの社會發展の辯證法的實踐的獲得者たり得る地位にあるからである。こゝに於て我々は多くのものを學ばなければならぬ。

さて、前期における我々の創作活動を通覽すれば、そこに我々は最も主要な缺陷として、政治と文學との機械的結合に反響したところの、今度は政治と文學との觀念的分離の傾向を明らかに見ることが出来る。だがこの兩者の偏向はいづれも同じ階級的イデオロギー的基礎より發生したものであり、一方を以て他方を克服することは斷じてできないものである。それ所か一方は必ず他方を助長するところのものである。従つて、これら二つの偏向との闘争は、文學運動における單一的なレーニン主義的方向のための闘争の二つの戦線となつてゐる。かくて開始された創作活動における方向轉換とは、實にレーニン主義的方向のための闘争に他ならなかつたのである。就中それは、レーニンによつてより高い段階に高められた革命的辯證法を文學へ適用すること、イデオロギー（哲學、科學、文學）の黨派性に関するレーニンの原理を文學の中に確立することを意味してゐた。これこそ我々が當面するところの最も緊急な重要任務であ

題の重要性から、プロレタリア作家として、我々が農村及び農民を大いに描かなければならぬと考へた。最初問題はこのやうな面においてとりあげられたのである。所がその後、革命的同盟者としての貧農の文學が獨自に存在することが明らかになつた。これは疑ひもなく重大な實踐的意義を持つところの我々の大きな理論的成果であつた。この理論的成果は實踐においていかに生かされねばならなかつたか？それは農村における精力的なサークル活動を通じて、そこから貧農作家をできるだけ廣汎に獲得し、更に彼等に對するプロレタリア作家の影響と指導を強化することによつて生かされなければならなかつたのである。所が我々の間では、やゝもすればこの中心的課題が背後に押しやられ、二三の漸次的問題（例へば、或る作家なり、作品について、プロレタリア的——農民的一に分類して見たり、新成員の獲得を押し進めず、頭の中でその組織關係を組み立て、見たり）の論議に日を送る傾向があつた。このやうな誤りは斷然改められなければならぬ。そして我々は一方に於てプロレタリア作家として精力的に農村及び農民を扱つた作品を生産すると共に、他方に於て新しい貧農作家を獲得し、彼等に對するプロレタリア的指導を確保するといふ、この二つの任務を同時に遂行しなければならぬ。

最後に、投稿作品は最近に到つて急激な質的發展を示してゐるが、この傾向は既に前期に於ても明らかに觀察される。中でも比較的目的さるべき作品として、須井「綿」、黒江勇「省電車掌」、神田錦三「未組織工場」等があげられる。これらの作品は、我が同盟の作家達が、文化主義的日和見主義にわづらはされて、多くの致命的な缺陷を示しつゝあつた時に、あらはれたのである。この意

る。

我々は既に昨年の擴大中央委員會を契機にして、この任務のため既に戦つてきたし、またいまも戦つてゐる。この間における我々の自己批判は嘗てなき厳格さと深刻さを持つてゐた。組織活動の旺盛さに此べて、一時相對的減少を示してゐた創作活動も、所謂「組織活動」と創作活動との辯證法的統一なるスローガンの下に、新鋭な氣を以て蘇つてきた。だが現在に到るまでのその期間の短かさとは負はされた課題の困難さとは、一般的に云つて、我々にまだあまり多くの成果を齎らしてゐないといふことができる。否、それにも増して重要なものは、客觀的任務からの繼續的な政治的「立ち遅れ」である。歴史的發展のテーマはいま急激に増大しつゝある。このテーマに歩調を合はせるためには創作活動に於てもポリシエグイキー的テンポが必要である。我々はあげられた僅かの成功に満足して停滞してはならぬ。昨日の成功も、もしそれがそのままに留るならば、今日は缺陷として批判されねばならぬだらうこと、即ち成功が不成功に轉化し得ることをはつきりと意識しなければならぬ。

さて後期における創作活動を見るに、まづ全體的な傾向として、主題の積極性は一般的には徐々に回復されつゝあるが、その文學的方法に於て未だ多くの缺陷があるので、折角の積極的主題も眞に生かされてゐないといふことができる。

我が作家達の間では、最近、時代の廣汎な客觀的把握に赴き、この種の仕事に精力をうち込んでゐる人々が少ない。そのために規模の大きい長篇小説が相次いであらはれつゝある。例へば小林多喜二の「轉形期の人々」、沼尻村「立野信之の「春」、徳永直「未組織工場」「フアツショ」、中野重治の「村のあらましの話」等々がそれで



ある。これらの人々が大きな社会的テーマをとりあげ、階級闘争の現實を全面的な姿で描かうとしてゐることは、それ自身としては少くとも大きなプラスを意味してゐる。しかしいかに積極性ある主題をとりあげようとも、もしレーニンの方法に於て欠ける所が多ければ、それだけ多くその積極性は失はれるであらう。右に挙げた諸作品の中で、徳永の作品はその最も好例である。

徳永は産業合理化の下における労働の強化とこれに對する労働者の闘争をテーマとして取り上げてゐる。このテーマはそれ自身として見れば決して積極性のないものではない。所が彼はこのテーマをいかに描いてゐるか？ 彼は或る印刷工場の生活と闘争とを他のすべての世界から切り離して、文字通りそのままに描いてゐるのである。徳永の描いてゐる工場の生活と闘争とは、どこにもありさうに見えて、實は（といふよりも、その故にこそ）どこにも存在しないところのものである。だが實際に於てはそれは、現代日本の資本主義機構の一部分であり、またその中に於て行はれる階級闘争の一表現である。そこにおける労働の強化と、労働者の生活水準の低下は、經濟恐慌に起因する産業合理化の必然的歸結であり、労働組合の分會員によつて指導される闘争は、革命的プロレタリアートの組織網と有機的な關係を持つてゐる。これらの關係及びその他一切の現實的モメントを全體的に把握して、具體的に即ち「多くの諸規定の總括」として、従つて「多様の統一」として描くのでなければ、それは現象の表面的羅列ではあつても、決して現實の眞に正しい反映ではあり得ず、従つて主題の積極性を發揮し得る所以ではない。我々の間では、方法の問題は主題の問題と密接に結びついて居り、反對に、主題の問題は方法の問題を離れてはあり得ないこと、我々

の危機の所産以外の何物でもないこと、従つてそれは労働者農民に對する搾取と抑壓の増大を意味するといふことを、日常生活における具體的な事實と結びつけて描くこともなされてゐない。長澤佑の「部署」も、従來の反戦小説に比べれば多くの進歩を示してゐるとは云へ、やはり反戦の主題が社會發展の一定の具體的狀勢との關係に於て描かれてゐないといふ點で、やはり本質的な缺陷を持つてゐるといはなければならぬ。

右の問題と關聯して注意されなければならないことは、主題の積極性の發揮といふことが、政治的スローガンの文學への機械的適用となつてはならないといふことである。我々は既にこの點では幾多の苦い經驗を持つてゐる。そしてその克服を意圖することによつて、今度は主題の積極性の喪失を結果したのであるが、今やその回復の途上に於て、決して昔の誤りに再び逆行してはならぬ。もし主題の積極性の喪失が、表立つた非政治主義的日和見主義の文學への現はれたとすれば、政治的スローガンの機械的適用は、裏返しにされた非政治主義的日和見主義の文學へのあらはれに他ならぬ。それは革命的言辭に隠れて困難な具體的現實的闘争を回避することを意味する。我々は常に主題の問題を方法の問題にまで結びつけて、二つの戰線における闘争を行はなければならないのである。

次に、直接闘争しつゝある場面からの投稿は、最近に到つて更に急激な勢ひで増加しつゝあるが、このことは、プロレタリア文學運動の大众的基礎への移行行きが、既に創作活動の領域にもあらはれ始めたといふ意味で、我々にとつて甚だ重要な意義を持つてゐる。殊に「文學新聞」はそれに對して重要な貢獻をなしてゐるといへる。我々はこのやうにして出てくる労働者農民作家を育成するため

の文學は記録文學から藝術的概括にまで高まらなければならぬこと——これらのことは既に一應明らかになされてゐる。だがこのことの意義がいかに重要であるかを、徳永の場合において我々は見ないであらうか！

主題の積極性は一般的には徐々に回復されつゝあるといふことは既に述べたが、これはあくまでも前期におけるそれに比して、主題の積極性が我々に要求してゐる、具體的な特殊な任務を考慮に入れれば、我々にはまだ多くの缺陷のあることが認められなければならない。就中、現在における我々の中心的課題たる戦争及びファシズムとの闘争を、我々の創作活動の中で精神的に押し進めてゐないといふ點で、ファシズムとの闘争の問題は殆んど取り上げられてゐないし、また帝國主義戦争反對ソヴェート同盟擁護の問題は詩人によつては比較的多くとりあげられてゐるとは云へ、小説の場合には僅か一、二の作家によつて取りあげられてゐるにすぎない。（黒島傳治「前哨」長澤佑「部署」等）。しかもこの少數のものでさへ、方法の上に幾多の缺陷があるので、實際には單なる消極的意義しか持つて居らないのだ。

例へば黒島傳治の「前哨」は、なるほど今次の滿洲戦争をとりあげ、戰場における革命的兵士の交戦を扱つたものだ。だが、彼はこれをいかに描いたか？ 何よりまづこれを現在の國際的國內的情勢から切り離して、「孤立化された戦争」として描いたのである。滿洲戦争の本質は具體的に描かれぬ所か、この小説の中の話は滿洲での出來事だ、位の説明しか與へられてゐない。また今次の戦争が、労働者農民大衆を失業と飢饉に陥れてゐるところの、日本資本主義

にあらゆる努力を拂はなければならぬ。だが彼等の作品を單に稱揚するだけで、これに對して親切な、しかも嚴格な批評を與へないことは、決して彼等を眞に育成する所以ではない。投稿作品が概して現實をよく知つてゐて、それを辛直に表現してゐるといふ點では、多くの優れた特色を持つてゐることは確かだが、投稿作品のすべてが傑作でないことはいふまでもない。否、特殊の例外を除けば、これらの作品の多くは漠然たる動勞者の觀點を抜け切つてゐないのが通例である。特に「文學新聞」への投稿に於てそれが見られる。我々はこれに對してレーニン主義的な教育を施し、唯物辯證法的創作方法のための闘争に彼等を引き入れなければならぬ。この點で我々の間にはなほ多くの缺陷があつたことが認められなければならない。最後に、文學的手段を通じての啓蒙・宣傳活動について見るに、この場合何よりもまづ問題になるのは、最近重大なセンセーションを起した所謂「プロレタリア大衆文學」論であるが、その誤謬については既に常任中央委員會の決議によつて明らかである。にも拘らずこの誤謬の殘滓は未だ我々の間で清算しつくされてゐない。「大衆文學」といふ言葉を「非文學」といふ言葉に置き換へることによつて、粉飾された形で元の誤りを再生産してゐる貴司の意見の如きものがそれである。貴司は「非文學の仕事」を以て、「明らかに唯物辯證法的創作方法の確立のための仕事ではない」と云つてゐるが、文學的手段を通じての直接的アチ・プロ活動に於ても、唯物辯證法的觀點が抹殺されてならないことはいふまでもないことだ。更に「大衆的讀物」といへば必ず講談、落語、川柳、都々逸、俗話等のブルジョアのジャンル（様式）のみを考へて、このやうなジャンルに「プロレタリア」といふ名を冠して利用しなければ、一般に文學的手段



を通じての大众的啓蒙活動はできないかのやうに考へるのも誤りである。それなしでも（例へば、物語、讀物、紀行文、報告、紹介、記録、通信、實話、隨筆、感想等々で）、我々は舊「戦旗」や「大衆の友」、「働く婦人」、各種の藝術新聞で立派に仕事をやつてきたし、また現在も今後もやり得るではないか！

所でこの領域における我々の従来の仕事を見るに、全體としてわかりよくなつたといふことは明らかに看取されるが、本當の意味の具體性がまだ不足してゐるといふはなければならぬ。いかに叙述が平明で、文章がわかり易くならうと、大衆の日常生活と闘争の動きと充分結びつけられなければ、眞のアチ・プロ的效果をあげ得るものではない。この意味で文學的創造的活動に於て我々が持つてゐると同じ缺點を、我々はこゝに於ても持つてゐるといふことができる。さて以上に述べたすべてのことを通じて、我々は結論として何を持つだらうか？ 他でもない——我々の全體的な政治的立ち遅れである。革命的主題がとりあげられる方向に一應向ひながら、その方法に於ては多くの不十分さを持つといふことは、取りも直さず、

## 理論的・批評的活動に關する報告

第三回大會以後、一年間に於ける我々の理論的・批評的活動は、専ら文學（藝術）理論に於けるレーニン主義のための闘争に、集中

我々の政治的把握の力が、未だ政治一般の範圍を出でず、現實の政治たる階級闘争の具體的實踐の闘争にまで及んでゐないことを示し、更にこのことは舊來の厚しき遺産たる非政治主義が未だ我々の實踐の中に残存してゐることを意味する。文學に對する政治的指導的地位の確保、即ち文學における黨派性の確立とは、正に一切の文學的活動を現實の闘争の具體的な事象、具體的な動きと結びつけることによつて、これを政治的高さにまで高めることに他ならないのだ。これこそ當面最も重要な我々の課題である。そのためには、我々は、自らの政治的理論的水準のより以上の向上をはかりつゝ、サークル活動その他への参加を通じて大衆の日常闘争に對する關心を深化することによつて、自分自身を教育すると同時に、一方闘争する大衆の中から更に多くに多數の新しい作家を廣汎に獲得して來なければならぬ。特に新成員の獲得並びに新幹部の養成といふ點では、他の領域におけると同様に創作活動の領域に於ても、なほ非常に僅かの成果しかあげられてゐない現狀であるから、我々は特にこの任務の實現のためにより一層の積極的な努力を拂はなければならぬ。

このことは日本プロレタリア文學運動が、躍進しつゝある社會主

義體制と、腐朽しつゝある資本主義體制との間に基礎を置く國際的規模に於ける、階級對階級の闘争の未曾有の激化の中で、特殊には日本に於ける「戦争とファシズム」の波の只中で、我々の活動を強化し、武装するために、全く重要且つ、不可避的な條件をなすものであつた。

事實、この一年間に於ける我々の理論的・批評的活動は、日本プロレタリア文學運動の劃期的な方向轉換に關する諸實踐の指導に、多くの寄與をなして來たことは、夫々の成果が示してゐるところである。このことを通じて我々の文學理論は、著しく高められると共に、それはまた、國際的な規模の上に打ち立てられた理論戰線における、レーニンの段階の重要な一環としての任務につくことができただのである。

しかし乍ら過ぐる一年間に我々の理論的・批評的活動が提起し、解決した問題は、文學運動が立つてゐるこの重大な歴史的時期に比すれば、まだ全く不十分であり甚だしく「狀勢」に立廻れてゐることを免れなかつた。

なるほど我々は、創作方法の問題において、從來の不徹底なプロレタリア・レーニズム論の批判の上に、文學の「黨派性」の意義を打ち立てた。プロレタリア・レーニズム論の無批判的前提から誤つて導き出されたところの創作の實踐における非政治主義的傾向は克服され、創作方法における辯證法的唯物論の方法の問題は、一應確立された。

また、運動の大众的基礎への再組織の問題に關聯して提起された創作活動と組織活動との統一の問題においても、それが機械的にではなく辯證法的に、いひかへるならば兩者がプロレタリアートの當

面する課題に答へるといふ觀點においてのみ統一されることが明かにされた。ハリコフ會議の日本問題委員會によつて特に注意を喚起されたところの革命的農民文學に對する、プロレタリア・ヘゲモニーの確立の問題も、一應その方向を決定することができたのである。

しかし乍らこれらの方向轉換の諸實踐の指導に任じた我々の理論的・批評的活動は、まだ全體として、概して問題の基本的部分の解決にとどまつてゐるか、乃至は、方向の一般的指示の程度から多く抜け出してゐないことは、缺陷の最大のものとして指摘されなければならぬ。これら對年度において上程され、促進させられた重要問題における、更に詳細な、更に具體的な解決、發展こそは、新らしい年度にのこされた、マルクス主義文學批評家の第一の重要な任務である。

第二の重要な任務は、マルクス主義的作品批評の確立、強化に求められねばならない。舊年度において、我々はこの方面の活動に、極めて僅かにしかその努力を示さなかつた。ここからして、我々の文學の個々の作品を含むところの種々なる問題（成果、偏向、長所、缺陷等々）は、多く見逃されたまゝとなり、また最近の文化運動の急激な進行の中で、一段とその重要性を増大させつゝあるところの社會民主主義文學並びにブルジョア文學との闘争における、著しい消極性が導かれてゐるのである。

我々はいまやこの怠慢を清算して、直に階級的な、即ち眞に黨派的な、コムニニスト的な批評活動を確立し、旺盛ならしめ、以てそれを、我々の文學の成長、發展と、社會民主主義文學、ブルジョア文學の擊破のために、實踐的に適用して行かなければならない。



我々の第三の任務は、マルクス・レーニン主義的文學理論と對立する文學理論との徹底的な闘争である。我々はその重要なものを、一、陣営内における誤つた理論、二、「戦争とファシズム」の嵐の中に、次第にその反動性をむき出して來つゝあるところの社會民主主義文學理論（社會ファシズム文學理論）、三、いはゆる「滿蒙事變」以後、擧げて反動文化の奴隷と化し去りつゝあるところの一切のブルジョア・ファシズム文學理論との闘争に分けることができる。右の中第一のものは、舊年度においては、同盟内の一部に現はれた、「プロレタリア大衆文學」の名による右翼日和見主義的理論の克服によつて、現在、一應この種の問題は一掃されてゐるかの如く見られないでもないが、階級對階級の闘争の激化が導く勢の發展と運動の困難化は、更に種々なる形における、「極左」的、右翼的見解を生み出さないともかぎらない。陣営内における誤つた理論との無慈悲な闘争を忘れて、我々の理論におけるレーニン主義のための闘争の發展、強化は——例へば「プロレタリア大衆文學」の一應の克服は、今度は「非文學」といふちがつた扮装のもとに立ち現はれてゐる如きがそれである。我々はいかゝる偏向を徹底的に擊破しなければならぬ。——斷じてあり得ないことを知らねばならぬ。

第三のブルジョア・ファシズム文學理論との闘争も、當面最重要な任務である。危機の産物であることをそのまゝに示してゐるブルジョア・ファシズム文學理論が、理論それ自身支離滅裂であり、あれやこれやのつきはぎ理論であるからといつて、これを見逃すならば、それは全く誤りである。しかも昨年度において我々は、明かにこの誤りを犯して來た。ブルジョア・ファシズム文學理論の擊破は、同時に、ファシズム的文化反動の最大の一翼をなしつゝあるところのブルジョア・ファシズム文學の擊破の道であることが最大の關心を以て理解されねばならぬ。

## 組織活動に關する報告

序

第四回大會以來十ヶ月の月日が経過した。この十ヶ月は日本のプロレタリア文學運動の企業農村に大衆的基礎を持つ所の偉大なる方向轉換の時期であつた。而もこの方向轉換は當面せる日本プロレタリアートの組織的任務と結合され、多數者獲得の問題の部分として提出されたものであつた。今日、この方向轉換は、過去十ヶ月における國際的國內的に見た階級對階級の勢力關係の顯著な變革によつてその必然性と必然性が一層裏書きされて居る。即ち、近づきつゝある新たな革命的危機の問題が、資本主義世界の崩壊、その唯一の抜け道としての對サダエート、植民地再分割、（特に東洋における中國革命壓殺）の戰爭の危機の深化と共に、その必要さは緊急を迫られ他方、大衆の革命化とブルジョアジエの文化的危機とが、文化におけるプロレタリアートの自主的解決を必然ならしめて居る。

我々は尙ほ缺陷を持つて居るか、を詳しく見極はめ、そこから、我々の組織活動における當面の戰術的任務を引き出すこととだけならぬ。

一、我々の到達點と立ちおくれ克服の問題

以上の如き基本的觀點から、概してこの十ヶ月の組織活動の内容は次の如く總括することが出来る。

(一) 同盟員獲得の問題——

先づ我が同盟の同盟員獲得について述べるなら、我々は現在三一人の同盟員を擁して居る。これは第四回大會當時における一二〇人の同盟員に比較すれば一六〇%の増加である。これらの同盟員は東京地方における一八三人を除く、一三〇人が、新なる方針と共に全国的に組織された地方支部の同盟員である。増加の内容は主として、プロレタリア詩人會、プロレタリア歌人同盟、労働藝術家同盟の如き同伴者組織からの加盟が五六%を占めて居り、經營内農村から獲得された同盟員の率はそれに比して極めて低い状態にある。特に、現在三一人の同盟員中、労働者が三〇名弱、農民一二人弱といふ數字を示して居ることは、増加率の相當な成績にも拘らず、



十ヶ月間の組織活動の弱點を示すものである。

性別に見れば、婦人同盟員は東京地方の二〇名と他に一名、合計二一名である。これは東京地方以外における婦人委員会の不確立、その無活動の現れである。

概して、以上の数字から學ぶことは、我々は相當の同盟員増加を成功せしめて居ると云へるが、この増加は、第四回大會の方針の妥當性を客觀的條件の成熟が實證して居ることを意味するのであつて、我々自身の計畫的活動が、充分にその妥當性を實現せしめて居るのではない。即ち、數の上の絕對多數である同伴者諸組織の加盟について見ても、それらの同盟員は自發的に數回に亘つて、同盟に加入したのであり、これらの諸組織と同盟との協同的活動を通じて、組織的に加盟を促進したものでない。その結果、歌人同盟の如きは、作家同盟への全體的加盟以前に組織を解體し、その一部をして、より右翼的な同伴者組織「短歌クラブ」を結成せしめる如き誤謬をおかして居る。一般に、同伴者組織内に作家同盟員を獲得してフラクションを構成し、社會民主主義文學ブルジョア文學組織内に反對派を結成する具體的な方策が講じられて居ない。組織活動の中心をなす經營内労働者の率の低いことは、サークル組織と同盟員獲得の問題の有機的な結合の不充分に基づくものである。更に、農民の率の決定的弱少さは、この十ヶ月間におけるこの分野における組織部の活動及びそれと當然結びつけられなければならない農民委員會の活動の弱點をしめすものであり、農民文學の問題の一九三一年における提案の實踐における不十分さを證明するものである。經營内、農村のサークル組織内に同盟員を獲得することは當面の問題とならねばならない。この基本的な弱點は現在の組織活動の同盟員獲得の上に

示された主要な立ちおくれである。

### (二) 支部組織の問題

以上の立ちおくれは、これらの同盟員と同盟支部組織の現状とを對比して見るならば、更に明瞭となる。今日我々は七つの支部と十四の支部準備會とを持つて居る。この十四の支部準備會のうち同盟員の居ない準備會が七つである。この事實の中には二つのことがふくまれて居る。一つには、もはや同盟員の活動能力を有し、同盟活動に参加して居るに拘らず、中央部がそれを同盟員に獲得する何等の具體的指示をなし得ない場合であり、他の一つは、具體的に何等の同盟活動をなし得ない微弱なグループの「支部準備會結成」の申込みを無批判に、許容して居た場合である。かゝる場合、指導部は屢々無條件にこれを準備會と認め、その内容が不明であるためにも、同盟員としての獲得を見合はせる如き態度をとつて居る。而も、これらの多くは、「サークル」と「支部組織」との差別に關する理解を缺いて居り、指導部はその點の適當な指導を缺き勝ちであつた。これらの弱點から我々は今日次のことを學んで居る。即ち、これらの「同盟支部組織の申込み」に對しては詳しく具體的項目を示して報告を求め、それによつて適當なる個々の方策を指示すること。根本的にはサークルを組織せしめ、サークル活動を通じて、その中心的部分を同盟員とし、これらの同盟員をして、支部準備會を構成せしめることである。

示がなされなかつた爲で、地區組織は今日漸く問題にされ始め、部分的には各支部において獨自の解決を見て居る。地方支部の下に地區組織の確立すること、それを同盟員獲得の計畫的方法に結合すること、これが今後の問題となるべきである。

支部組織における根本的な弱點は、それが重要地方において、特に京阪、北九州において、組織力が微弱であるといふことにある。更に重要農村諸地方、(中部諸地方、殊に北海道)に微弱であるか、全然組織の根を持つて居ないといふ點にある。これは支部組織の自然成長性に追隨した結果であり、計畫的に目標地帯の開拓の方策が講じられなかつたことに歸因する。現在、二一の支部並びに支部準備會を組織し居る我が同盟の組織的成果にも拘らず、これはその内容が示す、大きな立ちおくれである。

### (三) サークルの問題

サークルは、現在、我々は、全國的に、略二六〇を保有して居る。このサークル全員數は總體で略四五〇〇である。これは、量の上から見れば一應の成功である。殊に、この報告年度の前半における、巨大な「立ちおくれ」の克服が、一九三一年末の擴大中央委員會において問題にされ、その結果、第五回大會までの短い期間を立ちおくれ克服の期間としたのであつたが、現在のサークル數の略九〇%がその期間における成果であることを明らかにするならば、今日の組織活動の現状は量的に見れば、決して、不成功であつたとは言ひ得ない。

だが、これらの数字の中にも、上述の支部組織におけると同様の「自然成長性」への追隨を見ることが出来る。即ち、二六〇のサークル中、重要産業大工場の組織率が決定的に低いことこれである。こ

これはサークル組織が、自然成長性を追ふ結果、最弱抵抗線に伸びて居る事實を物語るものである。詳しい統計が我々の所になが、最も代表的な支部である東京を引例すれば、經營サークル數は三〇であり、東京地方における全サークル數八三のうち三五%を占めるだけである。而も、それを従業員二〇〇人以上の經營について見れば更に二三%に低下する。目標工場に對する働きかけておいてこれらの缺陷は、至急克服されなければならない。計畫的な働きかけの不充分さは、サークルの日常活動の指導において特に現れて居る。サークル内に同盟員を獲得することの消極的であつたこと、並びに、サークルに現在の同盟員を計畫的に接觸せしめ、それによる教育的活動を強化することが充分なされて居ない、その結果、これらのサークルは、屢々同盟とは切り離され勝ちであり、同盟の指導的影響の外に置かれ勝ちであつた。他方、同盟の諸出版物を通じてサークルの教育が計畫的にされて居ない。それは組織的には、通信員養成、その組織の無計畫性に特に鋭く現れて居る。同時にこのことは、出版物の編輯上の缺陷としても指摘されなければならない。特に文化聯盟出版物讀者をサークル内に開拓する仕事に於いて我々は消極的であつた。このことは、サークル内に文化聯盟の統一な指導の影響を持ちこむことを妨害して居り、文化聯盟の各種の催しに於ける(特に東京について見れば)サークルの動員を不成績ならしめて居る。サークルの教育に於ける最大の缺陷は政治的教育並びに動員の立ちおくれである。プロレタリアートの革命的實踐と結合せしめられこれを文學サークルの問題として、サークルの擴大を實踐的に採り上げ得なかつた點に、具體的には、十一月革命記念日失業闘争、三デー、その他のカンパニヤに於てサークルに對する何等の指示を







支部並びに、その組織部の以上の如き構成は、現在のサークルと同盟との遊離せる情態を克服する根本的な方策である。同盟は、かくの如くして経営内に文字通り基礎をおくところの全国的な支部網を内容として、確乎と打ち築かねばならぬ。

### 三、サークル組織の諸形態について

さて、以上、我々は同盟そのもの、構成の現状を述べ、その點の批判から我々の今日の必要を導き出した。更に我が同盟そのもの、大衆的基礎であり、同盟の展開する大衆獲得の手段であるサークル活動の形態について述べる必要がある。

サークルの組織を先づ、種類から見ると、今日一般に、経営サークルと農村サークルと學校、官廳、商店等のサークルと街頭サークルとが我々のところにある。

#### (一) 経営サークルの問題

経営サークルは既に述べたやうに概して、數量的には微力である。一つには目標工場を以ての計畫的な手段が不足して居るからであり、一つにはサークルの指導に於ける方法の誤謬がその發展を妨げて居るからである。経営サークルは概して、敵の防禦の嚴重さのために、セクト的に陥り勝ちである。サークルは経営内に於いて公然と大衆的な活動形態を持たねばならぬ。屢々極めて少數のメンバーがこつそり文學新聞を讀んで居るだけのサークルがある。かゝる方法は急速に改められる必要がある。かゝる方法は敵の攻撃に對して結局無力である。活動形態を豊富にし、例へば、朝日新聞その他のブルジョア刊行物の小説の批判會、又は、同盟から講師を招いて、質問應答の會、討論會等を組織し、芝居や映畫の共同見物とその批

判會、ピクニック等を催す必要がある。文學雜誌を發行することは最もよき方法の一つである。これらの集會並びに雜誌には、経営内の諸問題を必ず、効果的に問題にし、日常生活を政治的問題に結合することを實現しなければならぬ。集會はサークル員のみが知つてゐるのでなく、公然と経営内に於いて宣傳しなければならぬ。出來得る限り、敵の攻撃をさける形態を工夫し、若し、これらの活動に壓迫が加へられる時は、「労働者の文化的欲求の擁護」を経営内に組織するやうにしなければならぬ。文化的欲求並びにその組織を経営内労働者が自己の者として守るためには、活動が大衆的形態をとることを必須とする。この場合、攻撃は最善の防禦であることを具體的に理解しなければならぬ。更に、今日、大衆新聞が屢々、無料で配布されて居り、サークルの必要な會費が徴集されて居ない例を見て居るが、これは、組織並びに出版物を自己のものとしての責任を感じさせるために、絶対に金をとるやうに改められねばならぬ。

経営サークルの計畫的な開拓のためには、同盟地區組織はその具體的方法を講ずる必要がある。労働者街に於ける講習會、文學の夕等の活動形態と共に、目標工場内の生活を扱つた手軽なビラ型の出版物をその中に配布する如き方法がとられる必要がある。この點については最近に於ける神奈川支部の「小説突撃隊」の活動は高く評價されなければならぬ。この種の活動と、サークルの雜誌内の活動とは我々の創作的活動を、大衆の日常的活動に基礎づけるためにも必須の方法である。

農村に近接せる経営サークルは、農村訪問隊を組織し、農村サークルと共同の集會等を催す必要がある。これは、労働提攜を文學的活動の上に現實化せしめる方法である。更に、動搖せる経営内に、

その方面せる闘争的内容を扱つた文學的作品を送り込み、又は地區同盟員の突撃隊編成によつて、その闘争を應援し、作家同盟をこれらの労働者に親しましめ、闘争を通じてサークルを組織することが必要である。又、ストライキ中に、サークルが、それへの参加を決議し、罷業労働者の文化的教育、宣傳活動の活動の先頭に立つことは必要な活動である。かゝる活動を通じてサークルは全労働者のものとなり、それによつて、サークルが革命的實踐の補助的任務を現實化せしめることが出来る。サークルの政治的動員は從來極めて消極的にしかなされなかつたが、この誤謬は、上述の諸問題と共に急速に克服されねばならぬ。

#### (二) 街頭サークルの種類

街頭サークルは今日、數の上からは絶対多數を占めて居るが、街頭サークルの認識は一般に極めて、あいまいである。従來の理解によれば、それは、経営サークル組織の手がかりをつかむ手段であるか、又は明確な目標を持たぬ一般的な街頭サークルであつた。根本的には、それに、我々が、尙ほ、サークルの組織活動を政治的に理解し得なかつた事情による。東京地方に於いては、最近、經驗からして、街頭サークルを次の如く類別して、計畫的な方法がとられやうとして居る。

第一に、労働者街に於ける街頭サークルは、主として失業者の大衆的確保の方法として計畫されねばならぬ。これは、居住を基礎とする就業労働者の組織と結合され、就業労働者と失業労働者との結合のために計畫されねばならぬ。居住を基礎とする労働者のサークルは、最も屢々、その活動を通じて、その地區に労働者のクラブ、失業者の家等の運動を誘發すると共に、又経営内サークルの有

力な手がかりとなり得る。

第二に、我々は、今日の情勢に於いて、ファシズムに對する闘争を組織するためには小市民の間の街頭サークルを組織しなければならぬ。ファシズムの大衆的基礎となり易い小市民(中間層)の間に革命的な文學活動の影響を、確保することは當面の必要の一つである。これらの各種のサークルは、それぞれの性質に應じて活動形態や、そこで問題にする題目等を特殊的に工夫することが重要である。從來の一般的な街頭サークルにはかくの如く、その目的によつて特殊化されねばならぬ。

#### (三) サークル代表者會議

サークル相互間の協力を強めるためのサークル代表者會議は如何に組織されて来たか。この點については、我々は最近東京地方に於いて、學校サークルの代表者會議が持たれ、又若干の地區に於いて、メーデーを前にして、サークル代表者會議が組織されて居る實例を有するだけである。サークル代表者會議は、サークル相互間の協力、相互の經驗の交換、を通じて、他工場、他産業労働者との緊密な結合を組織するために最もよき活動形態である。それは、サークルの創意性を誘發するために、同盟によつて召集されるよりも、サークル内同盟員の内部からの活動によつて積極的なサークルをして自主的に提唱せしめるべきである。自主的にこゝでは、作家同盟の批判、同盟に對する要求をまとめ、同盟支持の方向に導き、同盟とサークルとの結合を、それを通じて組織しなければならぬ。

メーデーその他のカンパニー、示威等への参加、職争反對、ファシズム反對等の決議がなされることは最も重要である。サークル代表者會議には適當な方法によつて同盟からの代表者が参加し、そ



れを指導することを必要とする。

#### (四) 通信員養成の問題

サークルの教育上の問題として、文學新聞その他の出版物の通信員組織の問題がある。通信員は單に教育的活動の問題ではないが、その養成はサークルの組織並びに教育のための必須の活動である。この點についての過去十ヶ月の我々の成果はどうであるか。サークル内に通信員を組織して居る所は今日の所では比較的少数である。而も、これらの通信員の特別の教育は全くなされて居ない。勿論通信員の組織は根本的にはそれぞれの出版物の任務であるが、特に、文學新聞について見れば、通信員が具體的に問題にされ始めたのは一九三二年二月以後である。而も、通信員の任務が系統的に各出版物に於いて詳細に説明され、活動の方法を指導することは殆んどなされて居ない。更に此等の通信員をして、自己の周圍にサークルを組織せしめることはなされて居ない。メーデーその他のカンパニーにおける組織的な通信の要求、その必要な内容の指導等を計画的に遂行し、かゝる實踐を通じて通信員を教育すること、サークル内においては、自己のサークルの通信員の記事を批判、援助すること、この兩點からの通信員を高めるための活動を結合することは今日の困難である。

#### (五) 若干の技術的な問題

最後に、サークル組織における若干の技術的問題を調べて見よう。第一に、今日組織されて居るサークルの中に、名稱を持つて居ないサークルが可成り多数に上つて居る。これはそのサークルが日常的に活動して居ないことを裏づけるものである。若しもサークルが日常的に活動を旺盛にするなら、必ずその名稱を問題にするだらう。

評價されねばならぬ。

第五に、サークルの會合は、可成り頻りに持つ必要がある。一月に二回、又は三回以上持つことが至當である。會合の少ないサークルは今日までの經驗によれば、成長して居ない。

#### 四、朝鮮、臺灣委員會の問題

報告年度の後半に於いて我々が收獲した重要な成果の一つは朝鮮委員會の確立である。これは、東京地方に於けるプロレタリア文學講習會によつて、現實の問題となつた。同講習會は二〇名に近い朝鮮人を動員し、そのうちの多数を同盟員に獲得した。これらの同盟員は作家同盟内に於いて朝鮮委員會確立の中心を形成した。朝鮮委員會の任務は今日以下に如く規定されて居る。革命的な朝鮮民族文學の擁護、日本在住の朝鮮労働者の文學的啓蒙とその組織、朝鮮プロレタリア作家同盟組織の援助並びにそれとの提携。

今日、失業労働者の組織の問題と結合され、朝鮮人労働者の組織は必要を迫られて居る。東京地方には若干の朝鮮人のみサークルが結合されて居る。これらのサークルの組織、その指導に當る朝鮮人同盟員の獲得は重要な問題の一つである。文學運動に於ける國際的提携は、かゝる問題に於いて具體化されねばならぬ。

臺灣委員會の確立も又、東京地方に於いては漸やく日程に上りつゝある。

#### 五、結 語

さて、我々は結語に來して居る。

この報告年度に於ける總決算はどうであるか。

名稱は單に形式上の問題でなく、實踐的な意義を有する。

第二に、サークルの集會に集るメンバーは現在では一般に固定して居る。これはサークルの活動形態が固定して居る事實と相應する。活動形態を多様にし、各種の異つた集會を組織することによつて、この固定性は破壊され、サークルは激進を描いて擴大するだらう。

第三に、サークルはニュース、又は雑誌を發行し、サークル員のみならず、廣く經營内に配布し、サークルを經營内労働者に親しませる方法を講じなければならぬ。雑誌を發行して居るサークルは今日に於いては二六〇のサークル中二〇%に達しない情態にある。雑誌が單獨に持ち得ない場合は同一産業の近接せるサークルが共同で持つべきである。かゝる場合、それらのサークルは世話役の協議會を組織すべきである。

第四に、同盟員がサークル雑誌に執筆する場合、水準を低下することが今日一般に許容され勝ちである。これは重大な誤謬である。同盟員はサークル内の指導者であり、随つて同盟員の活動は教育的任務を持つ。更に重大な誤謬の一つは、或るサークルでは、サークル員獲得のために、出版物の取りつぎを始め、その目録の中に、キング、講談クラブ、等を扱つて居ることである。我々はキング、講談クラブを讀ませることによつて、大衆を獲得(?)してはならぬ。これは、最近同盟内に於いて嚴格に再批判された「卑俗な大衆化」の方法と共通するものである。キングの讀者の多い經營で、「キング批判會」を組織すること、我々自身がキングを讀ませるやうにすることゝは混同されてならぬ。然し、圖書の取り次ぎを同盟支部、又は、サークルが組織したことは、最も積極的な活動の一例として、

我々は相當サークル並びに支那組織形態に於ける新しき問題を開拓し、特に、朝鮮委員會の問題の如き未開拓の部分に手を着けて居る。又、我々の、サークル並びに支部組織は量的には相當の成功を收め得てゐる。

然し、これらの成果は今日の成熟せる客觀的情勢から見れば、尙ほ大きな距離を持つて居る。

サークル、及び支那組織は質の點から見れば、これらの組織的成果の中にまだ、重要な立ちおくれが内容されて居る。

第一に、重要地方重要産業、大經營の組織率の弱小において。

第二に、支那及びサークルの政治的文學的指導の弱さに於いて。然しながら、これらの「立ちおくれ」克服は不可能の問題ではない。

最近に於ける組織的發展のテンポは、立ちおくれ克服を急速に埋めるために、我々に確信を抱かして居る。この發展の事實は、第四回大會に於ける新たな組織方針の妥當性を確信せしめると共に、階級對階級の決算を決定的に近づかしめつゝある。今日、「大衆獲得」の必要に向つて、そのための同盟の組織的武裝に向つて、我我を勇氣づけるものである。



# 機關誌部報告

機關誌「プロレタリア文學」は嘗つての藝術運動の綜合的機關誌であつた。舊「ナツプ」からの發展的分化として、一九三二年一月創刊された。従つて、それは舊「ナツプ」が闘争を通じて獲得したところの幾多の諸成果の上に立つて仕事を開始されたといふことが出来る。しかも「プロレタリア文學」創刊の時期は、非常に重要な時期であつた。中國再分割のための帝國主義戦争が進行して居り、國內では經濟恐慌の一環としての凶作飢饉等……それらの資本主義體制の諸矛盾を蔽ふてブルジョア政治支配のフアツシヨ化の只中であり、プロレタリアートの決定的闘争を要する重要なモメントであつた。従つてプロレタリアートの當面の闘争である帝國主義戦争反對のための闘争及びフアツシヨムに對する闘争は、わがプロレタリア文化運動にとつて最も緊急の任務であつた。

然るに「プロレタリア文學」創刊號は、この緊急當面の任務を取上げなかつた。一方では文學運動がプロレタリアートの闘争から立ち遅れてゐることが指摘されつゝあつた時、このことは明らかに我々の政治的敗北を意味するものであつた。これは何によつて生じたか？ 我々は其處に、古くから我が文學運動に付纏つてゐた文化主義乃至は非政治主義の殘滓を見出すことが出来る。このことはまた

三月の「プロレタリア文學」所載貴司山治の「これからだ」といふ非階級的感想文を、無審査のまま掲載したことの中にも現はれてゐる。

機關誌部は、創刊號に對する自己批判の上に立つて、二月號より毎號當面の政治的諸情勢の分析とそれに対する文化運動の任務を闡明するために「巻頭言」を掲げ、文學運動が積極的に取上げなければならぬ主要問題を明らかにしてきた。この仕事は、我々の「立ち遅れ」を現實的に示すと同時に、その克服への方針を與へるために大きな役割をなした。ある。

だが我々の運動は、單に「立ち遅れ」に對する現實的分析や、克服の方針を示すだけに止まることは出来ない。我々は方針を知ると同時に具體的實踐を通じて、運動を推進しなければならぬ。だが、「プロレタリア文學」創刊號より四月に至る四號を通じて見ると、其處には「立ち遅れ」の克服に對する具體的實踐といふ點で、多くの弱點を有つてゐるのを、容易に見出すことが出来る。

例へば、戦争及びフアツシヨムに對する闘争が我々の當面緊急の目標として、繰返し叫ばれてゐるにも拘らず、具體的に作品の上には、極めて不充分にしか現はれてゐない。我々はこのことを批判して、

二月の巻頭言で次のやうに書いた。

「われわれの作品には、當面緊急にして切實に要求される主題は、殆んど取上げられてゐない。今日の切迫した社會情勢の下におけるプロレタリアートの新しい闘争は、われわれの作品のうちには、脈打つてゐない。戦争と飢饉の社會情勢を外にして、昔ながらの紋切型の主題を繰返すことは、プロレタリア作家として決定的な無力を表明するものでなくてはならぬ。」

この批判は、それから二號を重ねた現在でもなほ遺憾ながら通用されなければならぬ。次に理論活動に於ても略々同様のことが云ひ得る。フアツシヨム及び社會フアツシヨム文學に對する検討、ブルジョア文學の動向に對する系統的批判等の重要さは繰返して云はれてゐるにも拘らず、これら當面緊急な諸問題はわが理論家達に積極的に取上げられてゐない。例へば文學時評では、毎號それらの問題の時評的批判が機關誌部によつて企畫されてゐるにも拘らず、實際には、プロレタリア文學に對する時評しか掲載されてゐない。従つて月々の編輯プランと實際上の編輯との相違は、これは我々の理論活動の不十分さを示すものである。

機關誌部はまた「プロレタリア文學」の發行期日の定期的確保に向つて努力しつゝある。それは我々の機關誌がプロレタリア文學運動の全國的指導のための刊行物でありまた組織者である以上、一定の諸問題を一定の期間内に編輯し發行することは、原則的な意味に對する政治的任務でなければならぬ。然しそのためには、わが同盟は今や、一定の問題を、一定の期間内に正確に取り上げて、編輯局へ送らなければならぬといふ實際問題を大衆化し、全同盟員に徹底させることなしには不可能である。

次に機關誌が「投書」に對して、特別の配慮を示さなかつたことを指摘しなければならない。投書（通信、報告文學、評論、詩、小説）に對して一定の方針の下に指導をなすことは、廣く工場、農村の中に新しい働き手を養成するばかりでなく、文學運動を大衆化するための機關誌のもつ基本的任務の一である。單に集つてきた投書の中から、物を採用するといふ消極的なやり方でなく、常に問題を明示し、それらに對して大衆自身のイニシヤチヴを充分發揮せしめる様な教育的任務を持つことが必要である。

尙、機關誌が當面取上げべくして不十分にしか取上げ得なかつた問題の二三を挙げるならば、農民文學の指導及び反戰文學理論の確立の問題がある。農民文學及び反戰文學の重要さは、今更云ふまでもない。しかも農民文學及び反戰文學に對する大衆の關心は、全国的に高まつてゐる。かゝる時機關誌がこの問題に對する指導的理論の確立に努力を惜しむならば、それは決定的な敗北を意味する。

次に勤勞婦人と文學の問題を機關誌は等閑に付してゐる傾きがあることを指摘する必要がある。階級戦における婦人の役割の重要さもまた、いふまでもない。従つて勤勞婦人に對する文學的働きかけ婦人作家の獲得、文學作品に婦人が如何に取扱はれてゐるか等の諸問題は、慎重に取上げられなければならない。殊に、現在婦人層がフアツレヨ化しつゝあるブルジョア大衆文學及び通俗小説等の有力な支柱であるとき、此處での闘争は非常に重要である。

最後に、機關誌に對する彈壓について云へば、「プロレタリア文學」は創刊號を除き、アトは全部發禁である。更に二月號については、同志江口、立野、宮本、松井、新島が「朝憲びん風」の廉で不當な告發を受けてゐる。これに對して我々がなさなければならぬ



ことは、我々の組織者であり、指導者である機関誌防衛のために、サークルからの抗議、直接取次者の組織、防衛基金の積極的参加に

よつて行はなければならぬ。

## 文學新聞報告

### 創刊の計畫

文學新聞はわが同盟が工場農村を基礎とする再組織の方針を採ると同時に計畫された。工場農村内に大衆的な文學サークルを作るために、又その中にプロレタリア文學の影響をひろめ、サークルの中からプロレタリア文學運動の新しい働き手を獲得して行くことによつてわが同盟の基礎を企業内に植ゑつけるため、サークルの組織者、指導者として廣汎に活動することがその任務であると規定された。従つて文學新聞はプロレタリア文學の影響をサークル内にひろめるといふ仕事において、大衆をプロレタリアートの側へ結集して行くところの廣汎な政治的任務を帯びさせられた。

文學新聞をこのような任務のもとに創刊するに當り、中央常任委員會はその内部に専門部として文學新聞部を設け、その責任者の下に、文學新聞發行所を作り、その内部を編輯局、經營部、發送部等に分け十數人の部員を以て各部を構成し、八月より仕事に着手した

### 發行部數。配付區域

文學新聞の基本的な配付はわが同盟支部準備會を通じて行はれた。支部、支部準備會は直接發行所と聯絡し所定部數の配付を了け、各支部區内の工場農村に讀者を獲得し、文學サークル組織の活動と相まつてこれが配付網をひろげて行つた。現在、支部、支部準備會を通じて配付を行なつてゐる地方は次の通りである。

(日本本部) 東京 長野 山梨 神奈川 宮城 秋田 新潟 青森 山形 群馬

(日本本部) 大阪 神戸 京都 石川 高知 岡山 廣島 福岡 愛知

配付部數は常に一定しないが最低一〇〇部最高三〇〇部その總計約一萬部である。發行所は現在この外の全國各府縣の殆んど八〇%に亘つて、取次所、文學サークル、個人讀者を組織し、約八〇〇〇部の文學新聞を毎號配付してゐるが之等とは完全なるレンラクを有し、ニュース、手紙等によつて個人讀者には文學サークルを結成するよう、文學サークルには漸時その中から同盟員を見出してその地方における支部準備會を結成するよう、取次所には、その地方における文學サークルや支部準備會の援助を願うよう、指導しつゝある。

又發行所は京都市内外の各書店販賣店等を通じて毎號約六〇〇〇部を店頭販賣してゐる。これは街頭において廣く労働者及び學生、一般使用人、中間階層を文學新聞讀者に獲得しかつ新聞配付の大衆化を圖るにある。有力なる都市の支部にはこの店頭販賣を實行するよう指導してゐる。

### 讀者層

文學新聞の第一號が發刊されたのは一九三二年十月十日であつた。以來大體において毎月二回づゝ定期的に發行されて來たが、その發行部數は次の通りである。

號數	發行日	部數
第一號	(十月十日)	一〇〇〇〇
第二號	(十一月一日)	一〇〇〇〇
創刊記念號	(十一月十日)	一五〇〇〇
第三號	(十一月二十日)	二〇〇〇〇
第四號	(十二月五日)	二〇〇〇〇
第五號	(十二月廿五日)	二五〇〇〇
第六號	(一月五日)	二五〇〇〇
第七號	(一月廿日)	二五〇〇〇
第八號	(二月五日)	二五〇〇〇
第九號	(二月廿日)	二五〇〇〇
第十號	(三月十日)	二五〇〇〇
第十一號	(三月廿日)	一三〇〇〇

文學新聞は街頭配付をのぞき、大體においてその約五〇%が農村において讀まれてゐる。農村の讀者は大體農民六〇%労働者一〇%一般労働者三〇%に別れてゐる。他の五〇%は都會において讀まれてゐる。都會の讀者は大體労働者三〇%學生を含む一般労働者七〇%に別れてゐる。文學新聞が婦人及少年に讀まれてゐる數は判明しない。が大體においてそれは僅少であらうと考へられる。これを推算すると現在文學新聞の讀者層は大體において次の通りである。

労働者 二〇%  
農民 三〇%  
勤勞者 五〇%

京都市における街頭配付を加へると労働者比率はもつと高まるだらうが、われわれは、文學新聞が主要層の獲得において逆の成果に陥つてゐることを見なければならぬ。

### 通信員運動

文學新聞はその第二號において文學新聞所屬の通信員を組織化する仕事を始めた。これは職場のある讀者の内から又文學サークルの中の讀者からたえず自己の周囲の問題、文學サークルの活動等を通じてしめ、これを紙上に掲載して行くことによつてわが労働者農民階級の文化、文學的生活の高まりを正しく反映し、そこから階級の文學を發生せしめる勞働通信員運動への参加となされた。従つて通信員はこれ等の報告を書くためには、己れ自らを組織の中に結びつけ、組織者となり、指導者となることが義務づけられる。——我







た。

今その批判を報告するならば、文學新聞が(一)平易に大衆の理解にうつたえるように編輯されてきた點。(二)すべての問題を勤勞大衆の生活のうちに具體化して取上げるために努力されたこと。

(三)勞働者農民の文化的欲求をとり上げて彼等の中から文學の働き手を積極的に誘き出すようにして来たこと。(四)勞働者農民の文化的欲求の充足を通じてこれらの政治的經濟的任務を明かに意識せしめるやうに努力が拂はれてきた。

文學新聞は更にその後、通信員運動を廣汎にまきおこし、その産業別的地方的分布において、そのメンバー獲得のテンポにおいて著しい成績をあげてゐる。文學における婦人と農民のための對策を實行するため紙幅の増大を實行した——等がその成功としてあげられなければならないであらう。

然し、文學新聞は「擴大中央委員會」によつて批判されたやうに數々の重大な誤謬を犯かしたことが云はれなければならぬ。  
一、何よりも文學新聞はその政治的理論的見地が不徹底であつたため、編輯方針の上に全體としての日和見主義、大衆追隨主義に陥つてゐた。

二、そこから現はれた最も大きな誤謬は、出征兵士の家族友人の感想文を募集するに當つて、その投稿者へ送るための慰問金を讀者から募集しようとしたこと。創刊記念號の發刊に當つて、ロシア革命記念、滿洲事變の意義を正しく取扱ひえなかつたこと。東北北海道饑饉の階級的意義を頭初から正しく十分に闡明しえなかつたこと——であつた。  
三、文學新聞は文學サークルの作り方を、讀者に十分に教えてゐ

ない。又記事不正確、及その一部に徒らに卑俗化されてプロレタリア的方向を持たないものがあらはれてゐる。

ブルジョア・チャーナリズムに追隨した卑屬化的傾向は、更に、文學新聞がその發行部数を誇大に廣告したこと、又小説、詩の特別募集にあつて懸賞金をかけたこと等のうちにあらはれてゐた。

五、プロレタリア文學の當面も課題の大衆化、ブルジョア文學、社會民主主義文學との作品を取上げての具體的な闘争を文學新聞はまだ殆どやつてゐない。

このことは自己の任務を擔擧するに等しい缺點である。  
六、國際的要素の不足、婦人及び農民への對策の缺如等も急速に埋め合はさなければならぬ。

七、新聞の配付網の獨自的確立への努力が不十分である。大體右にあげたやうな多くの缺點や誤謬が指摘され、之等を急速に埋め合はすための對策や努力が強調された。それ以來文學新聞發行所は、再成編を行ひ、編輯局を擴大し、記事の審査、編輯局内の討論を盛にし、先づ何よりも諸缺點のよつて來たる根本原因たるわれわれの政治的觀點の不充分さを克服することに努力が拂はれた。

その結果、通信員運動において、ファシズム、社會ファシズム文學との闘争において、反戰闘争において、婦人團農民團の創設において、缺點の克服は徐々に實踐されつゝある。

又、文學サークルに關する系統的宣傳等も實行されつゝある。六頁増大をまつて更に之等の仕事は有効にすすむであらう。  
しかしながらわれわれはまだ決して政治的幼稚さを克服しえてゐるとはいへない。  
擴大中央委員會の自己批判を實踐にうつした結果、たしかにわれ

われは前記の如く一步前進した。然しすべての記事を正しく書かなければならないといふ努力が、勞働者農民及一般勤勞者の職場内における日常的、實際的生活と切りはなされて、抽象的に解決されやうとした傾きを示した。これは我々の誤謬を二重に重なるものであると云はなければならない。そのことが第十號における汎太平洋文化採撈週間の問題の取扱ひ方のすべてに現はれてゐる。「ソヴェエト文學便り」においてわれわれはソヴェエトにおける五ヶ年計畫の英雄の表現が問題となつてゐる理由を、日本の勞働者農民の今日の生活の中に見出して書かねばならない。又作家同盟が國際同盟に加盟(第九號)したことの意義を職場に働いてゐる勞働者農民の生活の必要に結びつけて説かねばならないのに、それがなされなかつた。これらの觀念的、機械的傾向は、又例へば戰争反對の問題を十分に具體的に、生活に即して書かうと努力しなかつたために、新聞をして勞働者農民の生活から浮き上らせ、實際に多くの讀者を反撥せしめ、配付網發展の向下線を辿らしむる有力な根據を作つた。

この期間内に文學新聞は三回發禁になつたが、最も悪いことは我々が、この戰争とファシズムの波が激化し、プロレタリアートに對する彈壓が益々狂暴化してゐる時、何等か「技術的に」その發禁をのがれる方法があるかの如く、我々の觀點を歪曲せしめやうとする右翼的傾向が存在してゐたことである。我々は今こそむしろ逆に、我々のレーニン主義によつて武装した立場を最も非妥協的に押し進めて行かなければならなかつたのである。(このことは勿論革命的言辭だけを弄ぶことを少しも意味するものではない。)

更に、文學新聞の政治的觀點の不充分さは、その編輯内容に於ける政治と藝術の統一の取上げ方及政治の指導的任務(藝術の政治への

從屬)といふことの機械的理解等のうちにも現はれてゐる。それは

一方では、文學新聞の最近號に於ける「四・一六」(作家同盟第五回大會の意義)及「文化團體に對する暴壓」に對する極めて不十分な取り上げ方、他方文學新聞が「文學の」新聞でなくて、一つの「難報的」記事の新聞であるかの如き取扱ひ方がそれである。最後に、文學新聞に集まつてくる投稿作品に對する無批判的追隨主義(我々の到達してゐる現段階の放棄)等も鋭く批判される。  
次に配付宣傳活動について云へば、わが同盟各支部準備會の配付金活動が極めて不成績であることである。中には全く失敗に陥してゐる部分さへある。

(紙代拂込率)  
同盟支部支部準 【八〇〇〇】 四〇%  
發行所直屬サークル讀者 【六〇〇〇】 八五%  
同、個人讀者 【二二〇〇】 三〇〇%  
(この%は前金拂込を含むが故である。)

即ちこれによつてみれば、發行所直屬のサークル及個人讀者を合わせたものが、部数においてほと、同盟支部支部準への配付數に匹敵して而も紙代完納となるにもかゝらず、支部支部準の紙代拂込率は配付部数の僅かに四〇%である。  
各支部支部準の拂込割合を示すならば、

- (二月十八日現在)
- 一 京都支部 一一三%
- 二 宮城支部 一〇〇%
- 三 青森支部 九九%



四福	岡支準	七〇%
五廣	島支準	五一%
六山	梨支準	三九%
七高	知支準	二五%
八東	京支準	二三%
九岡	山支準	二二%
一〇大	阪支準	二〇%
一一長	野支準	一九%
一二神	戸支準	一六%
一三石	川支準	〇%
同	神奈川支準	〇%
同	愛知支準	〇%
平均四〇%		

面してこの時の滞納合計金額七百五十圓に達し、文學新聞三回分の印刷費用が支部支準によつて阻まれ、文新発行は第九號に至つて果然發行不可能に陥り發行日を遅延してしかも半數しか印刷できない状態となつた。

發行所は、意納支部支準に對して、その配付網の實地調査を開始し、配付の指導を實行しはじめたが之れによつて、實際は今迄の二萬五千の配付網の内約四千部は全く腐朽したる配付網たることが判明した。

それは、支部活動者が、文學サークル組織の意義を理解せず、サークルの組織を實際に行はず、その代りに文學新聞をたとへば某労働組合、某文化團體へといふ風に何十部づゝか、わけて與へ空しくその成果を待つてゐたようなものを配付網にみなしたのと、支部活

(三月十八日現在)

宮城	一〇〇%
福岡	一〇〇%
東京	一〇〇%
青森	一〇〇%
廣島	八〇%
京都	八〇%
秋田	七〇%
山梨	七〇%
石川	五〇%
岡山	四〇%
愛知	三〇%
新潟	二八%
高知	二五%
神戶	二四%
大阪	二二%
大	二七%

動者が實地に大衆に接しても、ルーズに新聞を與へつばなしにして、集金活動が組織活動の一部分でありしかも組織率を高める有効なる手段たることを理解せず「金はいつてもいゝよ」といふ小ブル的な日和見主義からその讀者を組織の外へ逃がしてしまひ、今はもう紙代をとることが不可能であるといふやうな状態にしてしまつてゐるのが、腐朽の大部分の原因である。

發行所は意納支部支準に對し、これらの腐朽部分の切捨と集金活動の重要性とを嚴格に指導し、一ヶ月間に左の如く拂込成績を高めることができた。

長野 一六  
神奈川 〇  
平均五〇%

紙代意納の問題はこれを紙上に発表して大衆的解決の方法に了つたが故に、急速に恢復の途につくことができた。しかし現在尙六百圓以上の紙代未収があり、金額だけについてみれば何等解決はしてゐないのである。

發行所は著しく拂込率の悪い支部支準には減紙、一時的發送停止等を斷行し、配付網の再建と強化のための實地調査を行はしめてゐる。随つて、意納紙代の現金の回收は依然として殘されてゐるが、全支部支準に亘つて、配付網の再建がすゝみ、その不自然な弱い部分が切りすてられ、ために發行部数は後退したが配付網の健全性が高まり、紙代拂込が新しい部分について活潑になつて來たので

ある。

以上の経過に徴し、これ迄われ／＼は配付活動においても、日和見的な一種の大衆道徳に陥入つてゐたことが暴露される。

文學運動を工場農村内に再建するための重大なる任務についての政治的理論的理解が缺けた結果、文學サークルの性質、その組織、が實際に正しく進んでゐない所が多く、随つてそこでは文學新聞がその役割を十分に果たすやうに用ゐられておらず、意納、配付網の腐敗となつてあらはれて來た。

これらの缺陥の克服——その上に立つての文學運動におけるボルセヴィキ的活動が今やわが同盟の全支部の組織の隅々に迄あやまちなく行はれねばならぬ。かくしてわれ／＼は文學新聞の月三回十萬突破を、現實に闘ひとることによつて文學運動を大企業内へ、農村へ据ゑつけなければならぬ。

## 單行本の出版に關する報告

わが同盟出版部は、一九三一年秋、ナツプがコツプに解消すると共に、機關誌『ナツプ』もまた各同盟の機關誌に解消し、戦旗社も解散した結果、日本プロレタリア作家同盟専屬の出版物をつくる必要に迫られ、數ヶ月の準備期を経て、同年の十一月つひに確立するにいたつたものである。

しかし初めの數ヶ月は、ほとんどすべての努力が、同盟機關誌『プロレタリア文學』の發行經營に傾注され、單行本の出版は、最近漸くその緒についたばかりである。

昨年十一月以降本年三月までの間に、出版部會並に中央常任委員會によつて決定された出版プランを列挙すれば、次の如くである。



- 「創作方法における唯物辯證法のための闘争」
- 「年刊日本プロレタリア創作集」
- 「プロトコール」(ハリコフ大會の報告・決議・議事録)
- 「五ヶ年計畫とソヴェートの藝術」
- 「赤い銃火」(詩パンフレット第一輯)
- 「片岡鐵兵近作集」
- 「三・一五パンフレット」
- 「年刊プロレタリア詩集」
- 「上海の怒號」(中國プロレタリア小説)
- 「文學講習録」

最近の論文集

右の中、すでに刊行済のもの、次の四種である。

- 「年刊日本プロレタリア創作集」
- 初刷五百部(發禁) 二月下旬發行
- 改訂版千五百部 三月上旬發行
- (四六版五八〇頁定價一圓二十錢)
- 「三・一五パンフレット」
- 五百部(發禁) 三月中旬發行
- (謄寫版刷一八頁定價五錢)
- 「創作方法における唯物辯證法のための闘争」
- 初刷五百部 四月上旬發行
- 再版五百部 四月下旬發行
- 「赤い銃火」(詩パンフレット第一輯)
- 千部(發禁) 四月上旬發行
- (菊半截六四頁定價十錢)

これらの中最も重要な出版物は、いふまでもなく「年刊日本プロレタリア創作集」である。これはわが同盟員の作品ばかりでなく、同盟員外の作品でも、「ナツプ」「戦旗」等に發表されて、プロレタリア文學として重要な意義と價値とを有するものは、つとめてこれに網羅したため、重大なる體裁を具へ、従つて定價も、勞働者・農民の間に送るには、高すぎる嫌ひがあつた。

そればかりではない。更にこれの内容の上から見れば、この創作集は、全同盟員の顔ぶれをたゞ揃へただけであつて、作品の採録も配列も全く機械的であり、便宜主義的であつて、現段階におけるこの創作集の意義や役割に對する徹底した階級的見透しのもとに、一定の嚴重なる基準のもとになされたものだとはいへない。これは中央常任委員會によつて指名された編輯委員會がしばしば「流會」になり、つひに完全なる編輯プランを獲得しえなかつたこと、各同盟員に向つて、各自の創作活動に對する報告を求めたるに、その報告が極めて不十分であつたことなどに基づいてゐるのであるが、これについては、出版部も各同盟員も、十分自己批判することによつて、次期の年刊創作集に備へるべきである。

「創作方法における唯物辯證法のための闘争」は、現在のわれわれの運動にとつて重要な意義を有する論文を集めたもので、それがいかに大衆に要望されてゐたかは、發行と同時に品切になつた事實に徴して明らかである。しかしこれも、かつて「ナツプ」に發表された不完全なる翻譯をそのまま採録したために、難解の非難が多い。大衆に正しい認識を與へるための正しい翻譯は、正しい理論や創作と同様に重要であることを知り、今後この種の出版には、嚴重なる機關と改訂を加へることによつて、わが出版部に對する大衆的

信頼を裏切らないやうにしなければならぬ。

總じて單行本出版の活動は、甚だ不活潑であつた。量的にも質的にも、頗る不完全で、同盟員並に一般プロレタリア大衆のすさまじい要求に對して、極めて僅かしかそふことができなかった。最近物凄く勢で激増しつつある反動的出版物の洪水の中で、わが出版部が、辛うじて四種の單行本しか勞働者・農民の間にもちこむことができなかったといふことは、重大なる階級的誤謬として批判されるべきである。

この出版部の決定的な立ちおくれの原因として、大體次の四つの點を指摘することができる。

一、財政の窮乏。資金の不足、機關紙並に單行本の連續的發禁、賣上金の回收不能もしくは遲滞のために、出版部の財政は、極度の窮乏に陥り、折角のプランも、僅かに一部分しか實現することができない状態である。またこれがために發行の時期を逸することも多い。一日も早くかゝる窮乏を脱するには、一方大衆的威力によつて發禁に抗すると共に、出版部を守るための大衆的、全國的カンパを起さねばならぬ。

二、出版活動に對する同盟員一般の積極的關心の不足。いふまでもなく、われわれの出版活動は、ブルジョア出版のやうに、出版部だけに一任すべきものではなく、同盟員全體がこれに積極的關心をもち、その發展を援助すべきものである。然るに、一方では出版部の同盟員に對するはたらきかけが不十分であつたと共に、同盟員一般も、出版活動に對して甚だ無關心であつた。その具體的な反映は、「年刊創作集」の内容となつて現れてゐる。殊に誌代の滯納は、われわれの階級的出版を破壊する最も恥づべき行爲として、徹底的に批判されねばならぬ。

三、配布網の未確立。最近支配階級が、文化屠殺のために手段を選ばなくなつたことは、われわれの出版物に對する驚くべく兇暴なる彈壓に徴して明らかである。これに抗する最も有力な方法は、われわれの階級的配布網を確立することであるが、それは現在のところ、まだ極めて弱い。一時「ナツプ」がブルジョアの配布網に頼りすぎた影響が、今も完全に清算されずに残つてゐることもよるが、それと同時に、前にも述べたやうに、一般同盟員の出版活動に對する積極的關心の不足にも基づいてゐるのである。

四、出版事務の遲滞。出版活動は、他の文化活動に比して、甚だ事務的で煩雜であるために、その活動が遅滞しやすい。殊に財政窮乏のため、まだ獨立の事務所をもつことができず、一切の事務が、極めて非能率的にしか行はれてゐない。それが出版部の活動を著しく不活潑にしてゐる。

以上のべたところによつて明らかやうに、わが出版部は多くの重大な誤謬を犯したのであるが、次年度には、一般同盟員の積極的援助によつて、これらの誤謬を清算し、出版活動の立ちおくれを一舉に取り返さねばならぬ。



飢饉地救援金	82.23	備品	46.42
疋田君救援金	1.60	事務費	63.36
		雜費	6.12
		預金	10.00
		賣上未收金	1,146.20
		(内譯サークル支部)	316.30 82.90
		假拂金	49.15
		出版部	1.90
		現金	312.87
	4,854.795		4,854.795

(備考) 未收は漸時整理されつゝあり。  
支部4月17日現在¥758.84。(¥7106減)

### 文學新聞經營部 資産負債表

1931年9月14日より  
1932年4月25日現在まで

借方	金額	貸方	金額
借入金	434.835	預金	10.00
取次部	50	假拂金	49.15
文化聯盟	1.24	出版部	1.90
飢饉地救援金	82.23	新聞賣上未收金	1,146.20
疋田君救援金	1.60	現金	312.87
次期繰越	997.815		
	1,518.22		1,518.22

### 本部財政部貸借對照表

昭和七年三月三十一日現在

借方		貸方	
特別同盟費	350.00	出版部	315.00
借入金	305.52	文學新聞	180.00
支部同盟費	6.20	書記局	25.00
維持費	1.00	組織部	66.40
		財政部	17.70
		東京支部	22.00
		文化聯盟	34.87
		現金	1.75
	662.72		692.72

### 文學新聞經營部 貸借對照表

1931年9月14日より  
1932年3月25日現在まで

借方	金額	貸方	金額
財政部	680.895	新聞印刷費	1,946.50
新聞賣上	3,509.66	發送費	679.73
廣告部	461.34	編輯費	34.44
取次部	50	交通費	200.69
五百圓基金	116.86	通信費	68.215
寄附金	50	保證金利子	48.00
文化聯盟	1.24	給料	241.20







得の闘争を、精力的に展開されん事を切望して止まない。

文學新聞の経営状態も、断じて樂觀を許さざるものがある。ことに寒心に耐へないのは創刊以來今日まで六ヶ月に亘つて各支部支部準備會及一部のサークルからの紙代未納が、實に一、一四六圓二〇錢といふ驚くべき多額に上つてゐる事である。六ヶ月間の總売上高三、五〇九圓六二錢に對して一、一四六圓二〇錢といふ数字は、實に三割一分四厘に當る。かゝる莫大な賣上未收は文學新聞のやうな小企模經營に對しては殆ど致命的な打撃である。

各支部支部準備會並びに各サークルは紙代を極力完納する事によつて、文學新聞の發行總額をあくまで防衛すべき階級的義務のある事を、この場合、特に十二分に注意して置きたい。

又、發送費が六七九圓七三錢の多額に上つてゐるのは大部分文學新聞がまだ第三種郵便物の認可を獲得してゐない事に原因してゐると見るべきである。この機會に認可の獲得のために十分努力しなければならぬ。

出版部の財政も、矢張、甚だ悲觀すべき状態にある。ことに機關誌「プロレタリア文學」に對する二月、三月、四月の三ヶ月に亘る連續的な發賣禁止は、財政上に可なり重大な打撃を與へた。しかも今後に於いても、機關誌は勿論、その他の出版物に對しても尙、しばしば發賣禁止の強要を受けるであらう事は十分見透される。

それに對してわが同盟は今後ますます組織の擴大強化を計ると同時に、出版物配付網の擴大強化を精力的に達成する事によつて、あくまで同盟の出版物を防衛し、かつ、財政的基礎を強化させなければならない。

そのためには各支部、支部準備會、サークルにおける出版物の配

付と收金との速さと確實さとを十分に圖ひ取り、かつ、出版物の取次所を極力に増大しなければならぬ。

更に機關紙文學新聞防衛のために、讀者倍加の闘争を起すこともに、一方、同盟全體の財政的基礎を硬化するための基金募集の闘争を、有ゆるカンパニアと結びつけて闘ふ事を必要とする。

支部は本部に對して嚴重な財政報告をなし、本部財政部の統制を受ける義務あることを強調したい。

#### 附記

特別同盟費に關する規定は次の通りである。原稿料一編二〇圓より三〇圓までは五〇錢を納入するものとす。

原稿料三〇圓より五〇圓までは一圓を納入するものとす。五〇圓より百圓までは二圓を納入するものとす。それより五〇圓を増す毎に一圓宛増すものとす。

原稿料一編四〇圓以上のものは、全額の二分を納入するものとす。

單行本の印税は百圓以下の場合全額の五分、百圓以上の場合八分とす。

映畫上映料、映畫原作料、上演原作料、上演料は報酬、全額の四割を納入するものとす。

## 農民文學委員會活動報告

### 一、はしがき

一昨年来、急激に尖鋭化したわが國の農業恐慌は、勤勞農民の生活を極度に悪化し、農村の反抗闘争は廣範圍にまき起された。小作争議は直接土地問題の解決に向ひ、多種多様な反資本主義的闘争は昂揚し、ブルジョア國家權力との直接的對立、社會民主主義者との精力的闘争は、昨年度における農民闘争の著しい特徴を示した。しかもそれらの闘争の激勢が、勤勞農民に自己の解放が、プロレタリアートとの提携によつて獲得されるといふことを教へつゝある。

われわれの文學運動の基礎を企業農村の生産面におくわが同盟の方針は、尅大なる農民層の中にプロレタリア文學の影響を擴大確保し、同伴者としての農民文學を旺盛化する事に努力されてきた。

### 二、農民文學研究會の活動について

先づ、農民文學研究會について語らねばならぬ。

昨年四月、ハリコフ會議に於ける日本委員會の提案に基いて、わが同盟は農民文學研究會を確立した。該研究會の確立によつてなされた仕事は、次の如くに要約される。

#### (一) 農民文學の理論的研究

(二) 反動農民文學論(主として農民自治主義一派)に對する闘争

(三) 農民に關する文學的遺産の研究檢討

(四) われわれの成果の一體の整理(單行本『農民の旗』刊行)

(一)の點においては、昨年度の大會が農民文學の立ちおくれに就いて考察した『力の不足が十分なる成果を收めしめなかつた』と云ふ原因の究明を發展せしめ、農民文學そのものに對する我々の見解の根本的理解へと突き進んだ。在來のわれわれの考へ方によればわれわれの農民文學とは、農民を取り扱つたプロレタリア文學の『一部』或は『一種』であると漠然たる規定以上に出でなかつた。研究會はまづ農民の階級的基礎を究明し、在來の規定の誤りを正し、それを革命的貧農のイデオロギイに立脚する同盟者の文學であること、を明確に規定した。農民文學研究會に屬した多くの作家評論家がこの討論に参加し發展させた。そしてそれはナツプ七月號の同志柴田和雄の意見によつて正しく統一された。かくて『農民文學に對するプロレタリアートの影響を深化』するといふハリコフ會議の決議を具體的に生かす理論的根據を明白にすることが出来た。

次いで、われわれの側における農民文學に對する關心の高まりは、



ブルジョア及び社会民主主義者の中に動搖狼狽を捲き起した。かくて彼等も亦その立場から農民文學を論じ出した。就中、重農主義の見解を固執してゐた全國農民藝術聯盟、即ち大田卯一派の狂氣的攻撃が擧げられる。彼等は彼等の全力を擧げて『ナツプ農民文學撲滅號』をつくり、千遍一律な彼等のお喋りである『都市による農村の搾取』『強權なき社會』をかつきまはり、農民の階級的殘滓たる反動性、小ブルジョア性(中農のイデオロギー)に追隨し、農民をプロレタリアートと對立せしめ、全體として農村の歴史的發展を無視した反動的農民文學論を叫び出した。それはまた没落資本主義のファッショ化の傾向に添ふものであつた。然し乍ら、農村における急激なる階級分化とそれの熾烈化する闘争は、われ／＼の理論的確立を益々正當づけ、われ／＼は餘すところなく彼等を攻撃して來たのである。だがその後の發展に於いて、ブルジョアの及び社会民主主義的農民文學に對する闘争は、必要性を強調され乍らも具體的に實踐されたとは遺憾乍ら云ひ得ない。それらの反動的な理論及び作品が未だ相當大きな影響力をもつてゐるものである限り、更にこれとの闘争を強化しなければならぬ。最近『農民文學聯盟』といふものさへが出現してゐる。それは同じ農民自治主義の上に立つ別派とは云へ、雜草は容赦なく刈り取らねばならない。

新しき見解に立つ文學的遺産の批判的攝取は、長塚節の『土』から最近次々に生産されたわれ／＼の作品たる細野孝二郎の『吹雪』金親清の『早魃』及び近くは、立野信之の『春』長澤佑の『部著』等である。而して、國際的な農民文學の研究としては、パンフェロフの『貧農組合』につきる。國際的經驗の攝取が特に必要とされる今日、しかもソグエート聯盟の偉大なる文學的成果に對してわれ／＼

### 三、農民文學委員會の活動について

農民文學運動の全國的な指導機關として、中央執行部内に設置された農民文學委員會の活動は漸くその緒についたと云ひ得る。更に詳細に云へば、昨年十二月の擴大中央委員會を期して前後の時期にわけられる。第四回大會(臨時大會)以後、半歳に亘るわが同盟方針の實踐的成果は、この擴大中央委員會を期して、更に具體的に一層發展せしめられた。

昨年九月、農民文學委員會の設置から、同十二月の擴大中央委員會に到るの時期は、一言にして云へば、全く不活潑であつた。農村に捲き起された文學活動のテンポに著しい立ち遅れを示した。農村は農業恐慌の嵐の中から貧農の革命的闘争がもたらされて來てゐた。同時に支配階級の露骨なファッショ政策は強行され、戦争に對する危険は刻々増大した。農民闘争は經濟的な範圍を乗り越えて明らかに目的的な政治闘争に進展した。就中、社會ファッショの巢窟と化した全國農民組合本部派に對し、革命的貧農の組織たる全國農民組合全國會議が明確に革命的反對派として結成された。かゝる状態は貧農の中に於けるわれ／＼の活動を緊急な必要事としてゐたにも拘らず、わが農民文學委員會が取り上げた仕事は『廣汎な農民文學研究會(所謂ブル文壇に於ける農民作家をも含めて)』を組織することであつた。勿論同伴者作家に對する方策を取つたこと自體は問題たり得るのであるが、それにも増して、われ／＼は既に農村から現はれつゝあつた旺盛な文學活動の組織を第一に押し出さねばならなかつたのだ。既に雑誌『ナツプ』の『工場農村編』は毎號農村作家通信員の通信文・感想・詩歌が半數を占めつゝあり、更に『文學新聞』にも續々と農村からの投稿が掲載されてゐる。事實等々にも拘

の努力は充分であつたとは斷じて云はれないであらう。革命的農民文學の理解に到達するまでの、われ／＼の理論的作品的活動の跡づけは單行本『農民の旗』の刊行であつた。

かくて農民文學研究會は、それが到達した理論を大衆化し、關心を高揚し、農民文學運動を廣汎に捲き起す實踐的任務に就かんがために『農民文學研究ニュース』を發刊した。該ニュースは農村における文學活動として文學グループの結成を激し、農村通信員の獲得を提起してゐる。したがつて、それは單なる報導討論の場面の範圍を越え、農村における文學運動の組織的任務を持たしめんとした。

七月、臨時大會を期として、わが同盟支部を構成單位とする全國的規模に再組織され、わが同盟の新たな組織方針は實踐化された。かくて、昨年九月の常任中央委員會は、大體次の如き見解に到達した。即ち『農民文學研究會は各支部に所屬し、その指導は各支部教育委員を通じて受け持つ。然し農民文學研究會が、他の研究會に對して特殊に持たされる任務、即ち農民作家の獲得、組織部との連絡の下になされる農村文學サークルの設置の對策等々の點では、各支部の農民文學研究會に對しては對策係が受け持つ。中央部に新設される農民文學委員會はそれらの全國的な指導の立場に立つべきである』と。中央部における農民文學委員會は、如上の見解の下に具體的構成を取つた。同盟の農民文學研究會は、この時より支部の研究會となり、その組織的活動は支部組織部のそれに解消した。

農民文學研究會を確立してゐる支部は今日までのところでは、東京のみであり、青森支部においては、これが確立に向ひつゝある。

らざ——全體として農民文學委員會は、その任務として掲げた『農民作家の獲得、農村文學サークルの組織』について何等の方針も與へてゐなかつた。

これらの缺陷の原因は何處にあつたか。何よりその理論的基礎が明確に把握されてゐなかつたことである。昨年七月號のナツプ誌上に於いて、柴田和雄はその優れた論文『農民文學の正しき理解のために』の結語で、一、農民文學に對する正しき理解の上に農民文學理論を確立すること、二、農民作家——農村通信員を含めての創作活動を指導すること、そして第三に、特に農民作家を如何に組織すべきかを研究し實行すること——と明確に云つてゐる。これは主として農民文學研究會に與へたものであつたが、研究會と委員會との分離は、特に農民文學運動の組織の點について何等の研究實行をなしてゐない。この理論活動の停滞は農民文學委員會の實踐的活動の不振の根據となつたと云はなければならぬ。

十二月の擴大中央委員會に於いて、農民文學委員會は以上の如きその半歳的活動を下の如く批判した。『理論的確立と、それを契機として捲き起された反動的農民作家との闘争につきてゐる』そして活動の最大の缺陷は『勤勞農民の中から新しい革命文學の擔ひ手としての農民作家を組織し、これにプロレタリアートの影響を深化する仕事のなされてゐない』點を擧げてゐる。それ故、以上の缺陷を補ふために農村に於ける農民作家の組織に關する具體的方針を持たなければならぬことが強調された。直ちに取らねばならぬ仕事としては一、農村に於ける文學サークルの組織方針の確立、二、農村文學サークル及び農民作家——通信員を含めて——その組織のために一定の刊行物を持つこと、三、『文學新聞』に農民欄——農民版を附すこと



が取り上げられた。

農民作家の組織方針に関する問題は、國際革命作家同盟第二回大會の決議報告に發表された『農村プロレタリアート並びに勤勞農民の革命的文學に關する決議』を討論資料としわが同盟の組織活動との連關の下に検討された。國際革命作家同盟は、農民作家獲得のためその組織内に一つのセクションを作らなければならないことを決議してゐる。そして國際革命作家同盟の各國支部に對して、『各國に農村プロレタリアート及び革命的農民作家の支部組織をつくること』を第一に必要なことと規定してゐる。この農民作家の『部』といふことを、我が同盟外に作り、そこで廣汎に農民作家を組織して來なければならぬとす意見が出たが、別個に農民作家の組織を考へることは、農民文學に於けるプロレタリアートの影響を切り離しその指導を放棄するものであり、それは飽く迄も我が同盟内の一セクションとして理解されるべきで、農民委員會の第一層の活動、あらゆる場面を通じて、農民作家の獲得をなすべきであるといふ點に到達した。従つて農民文學委員會はその問題の具體化のために、一、農村文學サークル組織活動の激發、二、農民作家通信員を含めての組織獲得、三、同伴者作家の獲得を當面の仕事として取り上げた。そのために農民文學委員會内の機關を實質的に充實させ、それと同盟内各機關と密接に結合し、農民文學運動のための特別の刊行物たる目標をもつてニュース『農民の旗』を發行した。

『文學新聞』による農村の文學活動状況は次の如くである。

農民作家 —— 一五・  
農村通信員 —— 三三・

一九三二・一

漸くこれを具體的に討論し得る状態になつた。わが農民文學委員會はその擴大會議を開催し、國際革命作家同盟が與へた任務を實踐化する方針を早急に樹立するであらう。

### 三、創作活動について

以上の缺陷にも拘らず、昨年度の農民文學運動は正しく發展の一年であつた。ハリコフ會議の決議に關連して農民文學の問題が上程されるや、この問題に關する理論的活動は今までにない旺盛さをもつて展開され、われ／＼の理解の正しさは實踐によつて遂次證明された。それは、同盟内の作家の活動による成果——金親清の早魃、立野信之の『春』、長澤佑の『部署』、その他細野孝二郎の諸作があるが、それにも増して全國の農村に於ける作家が起した創作活動の旺盛化である。『文學新聞』、『プロレタリア文學』に集まる作品は非常に多數に上つてゐる。

だが、われ／＼の作家の創作活動は、當面の實踐的任務に充分應へてゐない。土地問題の解決のための決死的闘争——全農内の革命的反對派として自己を規定した全國會議の闘争——全體として闘争とファッシュイズムに對する闘争を前面に押し出し、われ／＼の作品に眞實にプロレタリア文學の黨派性を確立すべき活動に於いて全く充分とは云はれない。然し、『文學新聞』に集まる作品の大部分は、飢饉と闘争とファッシュイズムに對する闘争を彼等の日常生活の中に於いて必然的に取り上げてゐる。

われ／＼の組織的立ちおくれはまた、創作活動の立ちおくれでもある。これらの相關的解決に據るわれ／＼の躍進は、今や緊急の課題である。

農村サークル —— 一六二・

又、『文學新聞』第六號に送られた投稿小説の中、勞働者六八篇、農民三三篇であり、約三〇%の比率に於いて農民作家が擁護しつつある。機關誌『プロレタリア文學』に於ける調査は正確な數字を持たないがほぼ同様のことが云はれるであらう。

かくて農民文學委員會は、農村の部落單位に文學サークルを組織する方針を定め、そこから農民作家を獲得すべきこと、同時に各支部及び支部準は農民文學運動對策のために、その執行部に農民文學委員會を特設すべきことを激した。未だその成果は正確に集まつてゐないが、因作地を控えた青森支部が率先して具體的な仕事に取りかゝつた。同伴者作家との第一回懇談會を二月開催した。『農民の旗』は今のところ騰寫版刷であるが、これはその機能を充分ならしめるために、急速に活版刷の刊行物に成長せしめねばならぬと考へる。

だが農民の中にプロレタリア文學の影響を確保し、革命的農民文學を一層激發する任務に對して、これらの仕事はまだ全くその端初でしかない。それは自然發生性にさへ立ちおくれを示してゐる。

直接農村に基礎をもつ多くの地方支部は、その執行部に農民文學對策係を設置すべきである。このことは、わが農民文學委員會が地方支部と緊密な聯絡の下におかれることを示し、従つて經驗並びにその批判的發展は大眾化し、逆に農民文學委員會の方針は、それ／＼の地方に於いて具體化されるであらう。更に農民文學委員會そのもの、構成に現はれた便宜主義の缺點は、同盟方針の實踐的成果を鋭敏にわれ／＼に反映せしめず、仕事の非計劃的の手工業的濫濫をバタロした。然し乍ら、われ／＼は農民作家の組織について、今や

### 四、結論として

かくて農民文學委員會は、昨年度の活動の上に立つて、急速にその立ちおくれを解決すべく次の如き問題を提起し得る。それは先づ第一に『農民文學運動の發展の具體化、國際革命作家同盟農民文學セクションとの一層緊密な結合、雑誌『農民の旗』によつて農民文學激發のための廣汎な働きかけ、そのプロレタリアートの立場からする教育活動の旺盛化等更に廣汎な農村文學サークルの活動を通して有能な働き手を組織し、それらをわれ／＼の運動に参加させることが充分活動になされるならば来るべき年度に於けるわが農民文學運動はその内容を著しく豊富になし得るだらう。

これらの活動と不可分の關係に於いて、われ／＼の理論的創作的活動を推し起す一層の努力が必要だ。反動的、社會民主主義的農民文學に對する闘争の強化とわれ／＼の陣營内に於ける諸偏向との闘争が強化されねばならぬ。

資本主義社會の最後足場として、農民の動搖性が、彼等のファッシュイオと闘争の支柱に利用されんとしてゐる今日、ファッシュイオ及び社會ファッシュイオに對する闘争を強め、闘争に對する闘争を組織し、勞働者農民の正しき利害を代表する組織をそれに對置せしめ宣傳する仕事、特に、ソヴェート同盟に於ける農村を取扱つた作品を紹介する等の仕事は重要である。

プロレタリア文學の巨大なる豫備軍となるべき貧農作家をわれわれの側に獲得すると同時に、農業プロレタリアートに特別の注意が向けられ、そこに新らしき仕事を開拓して行かねばならぬ。

農民文學委員會の活動は以上の如く報告される。諸君の充分なる討論と、發展した方針の設定を心から希望するものである。



## 婦人委員會活動報告

### 一、婦人委員會の設置

一九三一年六月から今日に至る期間は、資本主義體制の深化しつつある「危機」に立つ支配階級が、ブルジョアのなあらゆる文化文化機關を動員して「戦争とファシズム」の反動教化を顯著にしてきた期間であり、これに對して、わが日本プロレタリア作家同盟が、國際的な規準に立つて、勤勞階級のなかにおけるプロレタリアートの「多數者獲得」を自己の中心的任務として、新しいレーニンの段階への××的な方向轉換を全活動の中に示してきた期間である。

わが婦人委員會は、わがプロレタリア文學運動の統一の方針の下に、常任中央委員會の指導に直屬する文學的活動の機能の一つとして、また勤勞婦人の中の廣汎なプロレタリア文化活動の有機的部分として、一九三一年九月に設置された。

經濟恐慌、農村恐慌の深化による資本の攻撃は、廣汎な勤勞大衆を、失業と飢饉の線上につき出している。中でも、勤勞大衆の約半数を占めてゐる勤勞婦人は、全産業及び各職場を通じて、男の約三分の一の勞賃、一日十三時間に亘る勞働強化と最悪の條件で搾取されてゐる。窮迫せる農村及び失業者の家庭で婦人の負ふてゐる重荷は云ひ盡せぬ。支配階級は、處女會、愛國婦人會、希望社等の反動教化の機關から、新聞、雜誌等のあらゆる反動文化機關を動員して

婦人大衆の文化を、封建的な屈從の奴隸的な低さに止め、また、ファシズム、社會ファシズムの影響の下に、勤勞婦人の革命化を抑壓しつつある。

勤勞婦人大衆は、ブルジョア、地主の下に政治的、經濟的、文化的に最悪の條件の下に置かれ二重の搾取に悩まされてゐる。階級闘争の激化は、婦人大衆を急速に×××させてゐる。プロレタリアートの統一指導の下に、婦人勞働者の自主的な闘争が組織され、また、農村では貧農婦人が勇敢に「土地」のための闘争に参加してゐる。これ共、これを全體から見ると、まだまだ廣汎な勤勞婦人が大衆が、その奴隸的地位を自覺せず、ファシズム化しつつある反動文化、文學の影響の下に悩まされてゐる。

從來、わが日本プロレタリア作家同盟は、この廣汎な勤勞婦人大衆を反動文化、文學の影響から引きはなし、彼女達をプロレタリア文學の影響の下に獲得すべきは任務は、プロレタリアートの「勤勞階級の多數者獲得」が中心となつて、現在の我々の緊急任務である。この立ち遅れを克服して、廣汎な勤勞婦人の文化的水準を階級的に高め、「學サートル」ならびに「勞農通信員」の中にプロレタリア文學における婦人の働き手を養成し、又、プロレタリア文學の中に解放運動における婦人大衆の獨特の歴史的實踐が、階級全體の闘争との生々しい聯繫において、もつと限なく描かれるために、婦

人委員會は設置されたのである。

このことは、この期間における我々の一步前進であつた。然し、その設置の當初においては、その活動は活潑であつたといふことはできない。

昨年十二月の擴大中央委員會を契機として同盟は婦人委員會の活動についての一つの大きい缺陷を發見した。擴大中央委員會に向つてなされた各地方支部の報告の中に、各地方の婦人大衆に對する對策が全然取り上げられてゐなかつたといふ事實である。このこと婦人委員會の階級的任務が全國支部にまで理解はされてゐなかつたことを立證した。

それによつてわが作家同盟婦人委員會は各地方支部が一齊にその執行機關の下に、急速に支部婦人委員會を設置すべきことを激し、東京支部は率先して婦人委員會を設置した。

また擴大中央委員會を契機として、從來の活動における日和見的文化主義を批判して、プロレタリアートの「多數者獲得」の見地に立つて、諸活動における立ちおくれの克服のため具體的な闘争に向つてゐる。

### 二、組織活動の成果と批判

一、本年度における國際婦人デー（三月八日）を記念し、このカムバニーヤの一つとして、作家同盟婦人委員會の意義と任務を明らかにして、「作家同盟各支部に婦人委員會を作れ！」の激を發した。それによつて、婦人大衆に對する文學的組織活動が、各地方の支部に於て具體的に取り上げられ、東京支部を始め、秋田支部及び長野支部に婦人委員會が設置された。東京支部及び長野支部婦人委員會は

その後最も活動的であり、また、その他の地方支農においても、現在婦人委員會設置のための準備活動がなされ始めてゐる。

二、昨年十二月の擴大中央委員會の決定以來、現在二萬五千の讀者をもつ「文學新聞」に「婦人欄」を設け、婦人委員會はこの欄を擔當してゐる。また國際婦人デー、四・一六の紀念日に際しての檄及び「婦人委員會ニュース」を發行した。

東京支部婦人委員會は、この期間に東京地方においてもたれた「文學の夕」及び「プロレタリア文學講習會」に出席せる婦人聴講生を招いて「懇談會」並びに「ファシズム研究會」を開き、三月十五日には、三・一五紀念のため、戦旗及び同志黒鳥等の出版法被告の公判傍聴に、婦人同盟員、講習會の聴講生を動員し、あらゆる機會を啓蒙、教育の活動にあてゝゐる。又、白テロのために發病して入院中であつた同志中木たか子の救援金募集もこの期間に於ける東京支部婦人委員會の自主的活動の一つであり、この活動は同盟外の婦人の進歩的同情者にも積極的に働きかけた。更に各地方講演會への参加、「働く婦人の夕」への参加。その不慣れた解散に際しての抗議運動も擧げられる。

わが婦人會の自主的な活動としての「文學サートル」の設置とその教育活動は、最重要なもの一つである。

三、日本プロレタリア文化聯盟婦人協議會には、わが婦人委員會より數名の婦人協議員を送り、「働く婦人」の活動においてはわが婦人委員會に所屬する婦人作家は、他の友誼的文化團體の参加と共に重大なる役割を果しつつある。

四、かゝる諸活動によつて、昨年九月わが婦人委員會の設置から今日までの約半年間に、婦人の同盟員及び婦人のサートル員は、



その数を倍加した。即ち婦人の同盟員は九人より現在の二十三人に増加し婦人のサークル員は、現在二百八十名以上に達した。この顕進的な成果は、わが婦人委員会の方針が全く正しいといふことを、實踐によつて證明したものである。

それと同時に、次の點に嚴密な自己批判を向けなければならない。即ち、現在までの新同盟員の獲得は、たゞ散在せるプロレタリア作家を組織したのであり、工場、農村を中心とする婦人作家並びにサークル員の獲得は、計画的、系統的になされておらず、そこでは我々の活動の甚しい立遅れを示してゐる。われわれはこのことを自己批判し、こゝからして今後における我が婦人委員会の組織的、教育的活動を、重要産業大企業、大経営及び農村を中心に展開してゆかなければならない。

### 三、創作活動の成果と批判

婦人委員会が設置されてから今日までの我々の創作活動の中心的課題は、「創作方法における辯證法的唯物論のための闘争」であり、レーニンの方法の確立にあつた。

我々はあらゆる創作的努力をこの方面に向けてきたが、然しこゝにおいても、今日の一般的情勢と、プロレタリア文學の國際的な新しい段階への我々の甚しい立遅れが見られる。この立ち遅れは、量的にも云はれ得る。

昨年九月の「滿州事變」並びに「上海戦争」以來、戦争とファッシズムは、國際的にプロレタリアートの階級的闘争を抑壓することによつて現在の「恐慌」から脱け出さうとする支配階級の公然たる方向となつてゐる。帝國主義××は十數萬の動勞大衆を中國××の

干渉のための野蠻な戦線に突き出し、數千人の死傷者を出してゐる。

この戦争の一次的停戦は、次のより大規模な帝國主義××のための準備である。戦争によつて働き手を奪はれた動勞婦人は、更に悲惨な状態につき出されつゝある。戦争に對する戦争、ファッシズム、社會ファッシズムに對する闘争は、今日におけるプロレタリア作家の取り上げなければならない最も積極的な「主題」である。然し我々は、戦争反對の作品において、僅に窪川いね子の「千人針」若林つや子の「集團の力」松田解子の「強制慰問金」を數へるに止まるしかもこれら二三の作品も、主題のレーニン主義的な把握において尙多くの缺點を持つてゐた。「主題」のレーニン主義的な積極性不充分と共に、婦人作家のみの特有の缺點でないとはいへ、「方法」における辯證法的唯物論の不徹底が今尙存在する。いふまでもなくこのことは「主題」における缺點とその本質において一致してゐる。我々は當面の重要な「主題」、反帝反戦、民族問題、中國××の擁護、ファッシズム反對、失業反對、農村恐慌等を積極的に實際的な正確な認識に立つて取り上げ、また、特に階級闘争における婦人獨特の立場を描いた作品を、旺盛に作り出さなければならない。

かゝる創作活動の立遅れは、また詩の分野における婦人作家の活動に對してもいひ得るし、わが同盟が時々刻々の闘争の要求に應じて取り上げつゝある特殊の文學様式、即ち壁小説、報告文學、その他のアデプロのための小形式による活動への、婦人作家の參加の不充分についてもいひ得る。こゝでは中條百合子の「サダエートの紹介」における啓蒙的讀物の新しい方向を見るに過ぎない。

### 四、結 語

「戦争とファッシズム」は、腐敗しつゝあるブルジョア文化、文

學を動員してゐる。支配階級のこのファッショ化に抗して、プロレタリア農民の闘争は決然と高まつてゐる。

かゝる情勢の發展に對して、我々の創作活動並に組織活動は明らかに立ち遅れてゐる。我々のこの立ち遅れのために、プロレタリアートの豫備軍たる廣汎な動勞婦人大衆が反動文化の影響の下にさらされてゐる。わが婦人委員会は、重要産業の工場、経営内及び農村を中心とした「文學サークル」の組織活動と、創作活動におけるレーニンの方法の確立との「辯證法的統一」の下に婦人委員会のプロレタリア文學運動における独自の機能を發揮することによつて「サークル」の中に婦人の新しい働き手を獲得し、かゝる闘争を通じて急速にこの立ち遅れを克服しなければならぬ。これら全活動において我々のレーニン主義的な立場が強化されなければならない。それと同時にわが婦人委員会は、全く不活潑のまま放置されてゐる處の文學理論、批評の分野における活動を緊急に新しい問題としてゆかなければならない。



# 東京支部活動報告

## 序、二つの時期について

一九三一年六月より今日に至る期間は我が同盟の偉大な方向轉換の時期である。同盟東京支部のこの間に於ける活動の正確な検討のためには、特にかゝる時期の中に占める東京支部の特殊の位置を明らかにせねばならぬ。我々は特殊の位置、従つて特殊の任務を負はされて来た。特殊の位置とは我が支部が同盟の軌軸をなす強力な支部であるといふ意味からのみでなく、轉換に際しての特別の條件の下に置かれて居たといふ意味からである。

新しい方針の意義はプロレタリアートの「多数者獲得」の問題と結合されて、政治的に提示されたことははや述べるまでもないであらう。而も、それは著しい攻勢を示しつつある文化反動との抗争、企業農村に於ける大衆的活動によるその徹底的破壊の中に、即ち敵階級の文化の破壊の道に自己の文學の大衆的建設を提示して居た。即ち問題は政治的に、プロレタリアートの日常の實踐と結合されて提示されて居たのである。これに對して、第一期に於ける東京支部の實踐に於ける日和見主義は以下の如く現れて居る。

A、方針の觀念的一般化と、實踐に於ける消極性。

新しい方針の具體化は言ふまでもなく、創作活動と組織活動との二つの面に具體化されねばならなかつた。創作活動について見れば、創作方法に於ける唯物辯證法の問題が提示され、支部活動に於いても、各種の研究會が、この問題を中心とする討論を行つた。然しこれらの研究會はやゝもすれと、方法論一般の討議に陥り、創作活動について依然として、著しい立ちおくれが

その後の新たな支部は概して、新方針によつて生み出された新たな出發であるに拘らず、東京支部は構成から見れば舊同盟そのものゝ再構成であり、文字通り、同盟の舊い歴史の上に、その發展として打ち築かれたのである。

かゝる理由から、東京支部の活動の跡はこの間に於ける同盟の轉換の跡を典型的に物語つて居る。

東京支部は歴史の持つ優位を備へて居たと共に、歴史が残した實際との闘争に於いて、轉換期の特殊の困難を経過しなければならなかつた。具體的には新しい方針への轉換の過程に、舊き街頭のグループ的組織方針が必然的にもなつてゐた非政治的、文化主義的殘滓との闘争、セクト的殘滓の徹底的清算を遂行しなければならなかつた。

これらの困難は必然的に支部活動の當初に於いて、新方針の具體化に於ける立ちお

指摘されつゞけた。

組織活動について見れば、全き日和見主義が支配した。新方針具體化の實踐の方法は示されず、機關誌又は集會での討議は、文學サークルの一般的規定から少しも發展しなかつた。その根本的理由は、サークルの組織が實踐的には全く放棄されて居たことによる。實踐のないところに理論的發展はあり得ない。特に、その日和見主義は次の如き具體的事實にあらはれて居る。

第一に、組織部のセクト化。組合その他の組織の持つ地區組織との關聯を無視して、組織部の地區別編成を取らなかつたこと、地區別編成をとらなかつた理由は、組織活動の無計畫性を示すものでもあるが根本的には街頭的傾向、文學運動に於ける組織活動をプロレタリアートの革命的實踐から遊離せしめる非政治的傾向の現れである。

第二に、組織活動を同盟の日常的活動から切り離し、同盟員を全體として組織活動に動員しなかつた。(逆に、それはサークルを組織して居る同盟員に對する指導の放棄となつても現れて

れを招來した。

而も、同盟の軌道をなす東京支部の立ちおくれは當然同盟全體の立ちおくれ、中央部の指導の立ちおくれを相對的ならしめた。(それは逆についても言ひ得る。)

一九三一年十一月擴大中央委員會はこれらの缺陷の徹底的批判、立ちおくれの回復に對する大衆的批判を行ひ、これを機として東京支部の根本的な再編成が行はれたのである。かくて擴大中央委員會によつて、この一年の活動は自から二つの時期に分けられて居る。

第一期、即ち過去の組織が残した日和見の遺産との闘争によつて特色づけられた期間。

第二期、即ち立ちおくれの回復に對する強力な闘争によつて特色づけられて居る期間である。

### 一、文化主義の批判と新幹部養成

東京支部が新しき方針の實踐に於いて遭遇した、最初の困難は、舊同盟の文化主義的傾向の残した新しい方針の實踐に於ける消極性である。

居る) 創作活動の立ちおくれも又、組織活動に於けるこれらの缺陷から、それを組織活動との辯證法的統一的理解に導き得なかつたことに大きな理由がある。

### B、政治的立ちおくれ。

文化主義的遺産は、政治的立ちおくれとして特に強くあらはれて居る。八月一日の赤色デーに於いて、九月六日の國際青年デーに於いて、十一月七日の革命記念日の闘争に於いて、我々は全き立ちおくれを示して居る。

國際青年デーに對しては、東京支部は、中央部の計劃に基づいて、アジ・プロのパンフレット作成の行動隊を編成した。だがその動員の成績は部分的であり、特にその配布の方法は全く無計畫的であつた。(サークルの擴大のためには結合されて居ない。) 十一月革命記念日のために、東京支部は中央部と協力して、反戦文學集を計畫した。然し、それは今日尙ほ實現を見て居ない。のみならず、一九三一年の十一月は日本帝國主義の滿蒙侵略、反ソヴェート戦争の危機の中に迎へられ



た。戦争に對する戦争について、我々は全き消極性を示した。戦争の危機と結びついて、動搖せる日本帝國主義のファッショ的支配への移行が急速に進められた。然るにファッショズムに對する闘争に於いて、我々は全く消極的であつた。

我々の文學確立は、革命的方法に於いてなされねばならぬ。それは「多數者獲得の問題」として、啓蒙的教育的活動と結合され、組織的成果を挙げねばならぬ。これらの政治的目標に従つて系統的宣傳運動を企業内サークルに注ぎ、サークルの組織並びに擴大のモメントを政治的に探り上げねばならなかつた。然し、實踐に於いて我々は全く此等を放棄し、パンフレットその他の刊行配布も、組織活動と結合されず、全き街頭的方法によつて散布された。

C、指導力の立ちおくれと、活動分子の不足。  
これは勿論、單に東京支部だけの缺陷でなく、中央部の指導に於ける缺陷と共通して居る。指導部の日和見的誤謬

は特に、機關誌ナツプ及び新たに發刊された文學新聞の編輯に於いて現れて居る。中央部との直接的な關係にある東京支部に、その指導に於ける缺陷が強く反映したことは當然である。特に東京支部の創立に當つて、支部執行部の構成が、中央部と殆んど重疊して居たことは、その缺陷を強くして居る。指導部の重疊は、同盟活動の著しい擴大に伴ふ一時的な活動分子の不足から或る期間避け難かつたものである。然しながら、これは、新幹部養成の問題と結合されて、發展的に解決を計らねばならず、而も、言ふまでもなく、新幹部養成は實踐を通じて行はねばならなかつた。だが、指導部の指導の弱さは、却つて、支部活動の停滯を生み、新幹部の實踐的教育を遮げる結果に陥つた。根本的には、指導部が新しい方針に具ふ同盟員の總體的成長を正しく評價し得ず、この點に於いても、下からの昇潮に對する全き立ちおくれが示されたのであつた。客觀的には一部の幹部による機關の獨占といふセクト的な形と現れたのである。かくて、支部

獨自の（中央部と重疊せざる）執行部を確立することは急を迫られた。十一月の執行委員會並びに總會は（擴大中央委員會直前の）は支部執行部の全く一新された委に於いて再編成を決定したのである。これは新幹部養成による、支部獨自の執行部の確立の問題であつたのみならず、舊方針並びに組織が殘した日和見的遺產の徹底的克服、舊幹部の再教育といふ觀點からも採り上げられたものである。新しき支部編成に於いては、すべての活動分子を部署につけて活動せしめる方針である。

D、擴大中央委員會の成果  
十一月の擴大中央委員會は、この期間に於けるこれらの同盟活動の徹底的批判を遂行して居る。特に上述の根本的「立ちおくれ」を嚴格に見究めることによつて、その批判の上に、「立ちおくれ」の回復のために具體的の方策を討議して居る。第一に、創作方法のレニンの段階の問題、黨派性の確立の問題。第二に、組織活動に於ける立ちおくれの回復の問題。第三に、文學新聞並びに機關誌の編輯の批判。第四

に、農民文學に對する革命的指導の問題。  
擴大中央委員會並びにその批判は特に東京支部活動の實踐に於いて、明確に一時期を劃して居る。

上のサークル組織を義務づけることによつて、組織活動への總體的動員の方針がとられた。これらの同盟員はサークル組織者として、組織部員を中心とする地區オルグ會議に結合された。

組織活動の成果について、我々が語り得るのは、上述の理由から、明確に擴大中央委員會以後についてである。擴大中央委員會に於ける組織活動に關する批判並びに決議は特に次の點に、具體的か指示を與へて居る。

- (1) 組織部の確立。本部組織部の地方別編成。東京支部組織部の地區別編成並びに農民委員會、婦人委員會との組織的聯結。出版物配布網の確立。
- (2) 組織方針の具體的指示、出版物、特にそのための印刷物による大衆化。
- (3) 同盟員の組織活動への總體的動員。
- (4) 出版物配布網の確保。

第二に、東京支部に於いては、組織部員、並びにオルグ、サークル世話役の教育に力が注がれた。それは印刷物による刻々の組織活動の指示、解説、並びに集會による教育（組織部會、地區オルグ會議の外に、サークル世話役協議會、サークル代表者會議等、最近持たれ始めて居る。）と、二つの方法によつて行はれて居る。

第三に、出版物配布網、殊に文學新聞配布網の確保の方法が講じられて居る。十一月の支部再編成の當初に於いて、我々は殆んど確保されたサークルを持たず、わづかに二〇餘り文學新聞の集體的讀者を持つて居るに過ぎなかつた。今日我々は五六の文學新聞配布者を通じて、全サークルに、一、一五五の文學新聞讀者を確保して居る。更に、文學新聞投稿者、通信員に對する組織的手段が講じられ、これらの積極分子からは新しい同盟員が獲得されつゝある。

以上を指示は、東京支部組織活動に於いて、以下の如く具體化されて居る。  
第一に、組織部の地區別編成によつて、組織部が擴大充實された。同盟員に一つ以

支部再編成（十一月）の當初において、上述の如く我々は、わづかに文學新聞の集體的讀者の手掛りを二〇餘り有して居るに過ぎなかつた。十二月末に於いて我々は、



十八の文學サークル及び三〇の集團的讀者の組織の手がかりを持つた。

一九三二年一月末の統計は、それが以下の如き飛躍的發展となつて現れて居る。

文學サークル數

サークル全員數 一、〇三一  
サークル内文學新聞讀者數 六七八  
同プロレタリア文學讀者數 二四(不詳)

交通 (同) 六  
出版印刷 (同) 八  
紡績 (同) 一  
土建 (同) 二  
學校 (同) 一六  
官廳 (同) 三  
病院 (同) 一  
街頭 (同) 二三

ほゞ一月末から七〇パーセントの増加である。

これを産業別に見れば

サークル數

金 八 學校 一二  
化學 五 官廳 一  
交通 五 商店 五  
出版印刷 四 病院 一  
土建 二 街頭 一三

更に、それは、三月初旬の今日に於いては次の如き發展として現れてゐる。

(文學サークル數) (全員數)

八三 一、四三八(女二四五)

(文學新聞讀者數)

一、一五五

(プロレタリア文學讀者數)

二二八 (不詳)

産業別にこれを見れば

金 一〇  
金屬 (サークル數) 一〇  
化學 (同) 五

を中心とする)の組織活動への結合。メーデーに對する今日よりの計画的な準備に於いて、我々は若干の進歩を示して居る。最後に我々は同盟員倍加運動について述べなければならぬ。

第一に、此等の急激な發展に拘らず、重要産業、大工業の組織率が學校街頭に對比して著しく低いことである、新しい方針が示した文學運動に於けるプロレタリアートのヘゲモニーは、文學運動が大企業内労働者に組織の根を降した時に始めて可能である。我々の成果はまだ遙かにその目標から遠い状態にある。この點に關する自己批判から我々は現在目標工場に對する計画的開拓に努力を向けつゝある。

化聯盟出版物)による組織並びに教育が比較的小おろそかにされてゐたことである。サークル員の中にこれらの讀者數が甚だ低い率にあるといふことは、サークルの發展についての一つの缺陷を示すものである。(一面から見れば、他地方サークルに於ける、今尙ほ讀者會的色彩の強いことに對比すれば、東京地方に於いては、サークルが、文學新聞讀者より遙かに廣く抱括して居る點で特色を持つて居る。)

( 81 )

同盟員倍加運動は、同盟中央部によつて、大會を目指しての我々の「立ちおくれ」の回復のために提唱されたものである。それは一月十五日を出発點とした。活動分野の擴大と相對的に活動分子が多く要求され、今日我々が、同盟自體の擴大の必要を痛感して居ることは述べるまでもない。而も、同盟の擴大強化は、サークル組織の強化、それを通じて企業内からの活動分子を引き上げることに眼がそゞがねばならぬ。ところで、同盟員倍加は如何に行はれたか。我々は次の統計を示すことができる。

成績を示して居る。一月の倍加運動の提唱の時期からはほゞ五五%の増加である。これは決して小さい數字ではない。然し、我々はこゝでもサークル組織について言はれた同一の弱點をこの數字の中に發見することが出来る。即ち、これらの數字を分類すればサークルから獲得された同盟員の數が(殊に労働者が)著しく低いといふ事實である。統計は次のやうに示して居る。

上の統計は最近のプロレタリア文學講習會によつて、更に、相當の増加を示したことを附記しなければならぬ。さて、以上の報告から要約される組織活動の今日の問題は次の如くである。——重要産業大工場の計畫的開拓、並びにそこからの同盟員獲得。次にサークルを多數者獲得の貯水池として政治的文化的に高めるための教育啓蒙の強化。

( 82 )

大會より十一月に至る期間に、同盟員は八九人から一九八人に増加した。増加數二十八人のうち四人が婦人である。十一月より三月に至る期間の増加數は、更に六五人、そのうち婦人十一人である。今日、我々は一八二人の同盟員を擁し、この一年間に於ける増加率は、一一〇%の

プロレタリア詩人會からの加入……三〇  
労働藝術家聯盟からの加入……二一  
プロレタリア職人同盟からの加入……一五  
サークルから……一一  
その他……一〇

三、創作活動について  
創作活動について、我々の新しい方針が指示した方向は、創作方法に於けるレーニン主義的方法の確立である。創作方法について、嚴密に、哲學戰線に於けるレーニンの段階の見地から問題が提起されたことは言ふまでもなく、この期間に於ける同盟の創作的活動の面を特徴づけたものと言はねばならぬ。東京支部に於いても、この問題は研究會その他に於いて、中心的に取り上げられて居る。我々の創作活動が、この時期に於ける程嚴格な自己批判を生んだことは空前といつていゝだらう。では、現實の我々の創作活動の成果は、此の批判に如何に答へて居るか。

( 82 )



特に我々の主要な活動場面である、同盟並びに、ナツアの出版物、——十月以後については文化聯盟の出版物に於いて、それは如何なる結果を示して居るか。概括的に言ふならば、尙ほ我々は、この方面に於ける顯著な立ちおくれを見る事ができる。殊に、十一月以前について見れば、投稿作品の驚異的な量的増大と、その質的高まりに對比して、作家同盟員（主として東京地方の）の活動は、量的にも質的にも停滞し、相対的には減退して居る事情がある。投稿作品の増加と、その質的成長は、一面から見るならば、プロレタリアート自身による文壇建設の必要との問題を客観的に實證し、従つて、文學運動を大衆的基礎にうつすといふ我々の方針の客観的妥當性を實證するものである。殊に、このことは文學新聞の創刊とまつて著しくなつて居る。然しこれらの現象によつて示されて居る我々の有利な客観的情勢は、當然同盟（特に東京支部は大きな役割を占める）による強力な指導によつて、方針の妥當性を現實化せねばならぬ。然るに同盟員による創作活動はこれに對して明白な立ちおくれを示して居る。機關誌ナツア七月號より十一月

號に現れた、九篇の創作のうち、同盟員のそれは五篇であり、而も、それは質的に見て、投稿作品より低いといふことが出来る。その理由は勿論、他の部分に於て指摘された、文化主義的誤謬や指導力の相対的微弱さ等が、創作活動に於ける一時的無氣力を招来して居たことにある。而もそれは投稿作品の優勢との關係に於いて、文學運動は大衆的基礎にうつつた。これらの新しい場面から新しい働き手が輩出するであらう。——といふ自己満足的な合理化が、可成り一般を支配したこと、明らかに指導部、編輯部の中にあつた、これらの見解がその傾向を助長して居ることを見逃してはならぬ。これは有利な客観的情勢を指導する同盟の任務を抛棄することであり、全き追隨的方法である。それは、その後、發刊された文學新聞の編輯に見られた大衆追隨主義の傾向と同一の誤謬である。特にナツア編輯にあらはれた同盟員の活動に對する、セクト的な、清算的な方法、その日和見的な指導だ。同盟員の創作活動は明らかに上昇を示しつゝある。それは、機關誌プロレタリア文學にあらはれた創作の比率の上にあるはれて居るのみならず、文化聯盟の刊行

物の發刊による新しい活動分野の開拓とまつて、又、諸種のアヂ・プロのための刊行物の計畫とまつて、漸く、過去の状態を脱却し始めて居る。特に、東京支部の詩人の創意的な提案による「プロレタリア詩」の發刊の進行、農氏委員會による「農民の旗」の實現は、最近に於ける創作活動の盛り上りを示す例である。之等諸刊行物に現れた創作の内容については、では、如何なる成果が示されて居るか。

#### A 主題の問題

先づ主題の問題である。我々の基本的な指針である創作方法の問題が、今日のプロレタリアートの階級的必要と結合されて、始めて正しい解決を得ることは、大會に於いて、又擴大中央委員會に於いて一層正確に見究められた所であつた。では、主題の點について、東京支部同盟員の創作は、如何にその方針に答へて居るか。

第一に、この期間の創作のうち、農民の闘争を扱つたものが壓制的多數を占めて居る事實が見られる。これは、ハリコフ會議の日本委員會の決議と前大會に於いて、新たに問題となつた「農民文學のプロレ

リア的指導」の具體化のあらはれと見る事が出来る。だが、これらの作品は顯著な量的増大にも拘はらず、質の點に於いて、即ち、現在の階級的必要と結合された主題の積極的な把握が尙ほ缺けて居た。（立野信之の「春」長澤佑の「部署」金親清「早魁」等）

第二に、労働者の仕事場の中に於ける闘争、その日常生活を描いた創作が、大きな比率を示して居るが、そこでも又、屢々、労働者の生活自體抽象されて、主題の明確さの上に缺陷が示されて居る。（橋本英吉の「わかもの」鹿地直の「手」その他）

一般にプロレタリアート當面の闘争目標である、戦争の問題、それに結びつくファツシヨ的支配に對する闘争、ファツシズムと社會ファツシズムに對する闘争が、創作の上で全く立ちおくれを示したことは大きな缺陷と言はねばならぬ。それは特に直接戦争軍隊を主題とする創作が少かつたといふ點に見られるばかりでなく、既に述べた労働者の生活、又は農民の闘争を扱つた作品が、現代のこの中に見られるばかりでなく、既に述べた労働者の生活、又は農民の闘争を扱つた作品が、現代のこの中心的な

闘争目標と充分結合せしめられて居ない點に指摘される。

詩人の活動については、若干この點について、進歩が示されて居る。然し、これらの戦争を扱つた詩及び僅少なそれらの小説すらも、尙ほ戦争反對の意義、その取り扱ひに於いて、明確な革命的觀點を缺き、往々にして、人道主義的、敗北的觀點にすべり落ちて居る。

擴大中央委員會以後に於いては、特にこの點に對する旺盛な自己批判が生れ、東京支部に於いては、特別研究會、作品研究會に於いて、この問題が積極的に討議され、一月の支部總會に於いては、特に帝國主義戦争反對、その闘争に關する決議がなされてゐる。

今日、この重大な立ちおくれは次第に回復される氣運をもたらし居る。特に各種研究會がその活動の中心を示して居る。反戦詩集の刊行の進行は一步前進である。當面、我々はこの状態を促進するために、更に同盟員全體の現在に於ける戦争反對の意義の明確な認識を深める方策をとると共にそれを大衆の日常的闘争と結合し、戦争と労働強化の問題、失業闘争と戦争の問題、

土地問題、飢饉地と出兵等、具體的な問題を創作の主題として採り上げることを強調しなければならぬ。

B 啓蒙的讀物と新たな文學様式の問題。

次に我々は、新しい方針と結びつく新しい創作活動の型について述べなければならぬ。

新たな方針が、啓蒙的教育活動について明確な見透しを示し、この方面に於ける活動として、機關紙その他の刊行物が讀物の形式を必要として居ることを述べるまでもないことである。特に、かゝる必要によつて生れた、青年デーのための「われら青年」又は三・一五記念日を中心とする「三・一五記念日」更にメーデーを日かけて、東京支部が自主的に準備しつゝある「メーデー」を主題とした壁小説の書き方」の如き教育的な小さな出版物の刊行につれて、我々の新しい活動面が開拓されつゝある。これらの出版物も又、特に擴大中央委員會に於ける組織活動の旺盛化ともなつて、それに結合され、次第に效果的に運用されつゝあることを特記しなければならぬ。それらの活動は、更に、教育部を中心として、新たな啓蒙的教育活動の型として、同盟員全體を



その中に引き入れ、計画的な準備が進められることを必要として居る。それと共に、サクルの出版物(文學雜誌)の漸次的な旺盛化とともに、同盟員がいづれかのサクルに属し、サクル雑誌内に於ける創作、それによるサクルの教育に指導に、積極的努力が向けられねばならぬ。かかる仕事の必要は、組織活動の進行と共に現在、次第にその要求を生みつつある。かかる仕事と關聯して考へられることは壁小説の問題である。

短い形式によるアジプロ的讀物、極めて小さい短篇小説に關する研究を我々は實に積極化する必要がある。壁小説はその提唱以來、尙ほまだ充分な研究がなされて居ないし、最近、漸く、機關誌その他に於いて短い形式による啓蒙文學の型として具體的成果が見られつつある状態である。(貴司、堀田、橋本等の壁小説)

それは企業内に喰ひ入る、文化反動に對する我々の闘争の有力な武器である。かかる積極面と同時に最近、一部の間に、これらの積極的活動を正當に評價し得ない所の文化反動に對する敗北的見解が生れかけたことを指摘する必要がある。それは理論的

にはもはや第三回大會に於いて我々が解決した卓俗な方法による大衆文學提唱である(徳永、貴司の見解)東京支部の作品研究會がいち早くそれを批判し、中央部にそれを上申したことは、支部に於ける自己批判の強化の表はれとして、又同時に同盟の前進のための自己批判の強化の表はれとして、我々によつて高く評價されねばならぬ。我々は同盟の前進のための自己批判の傾向を益々促進すると共に、上述の啓蒙的活動の面を二層旺盛化せしめることによつて、かかる日和見の傾向を粉砕しなければならぬ。

さて創作活動に於いて以上述べた所要約すれば

- (1) 當面の闘争目標(戦争とファッショム、社會ファッショム)に對する闘争を創作的實踐に生かすこと。
- (2) 啓蒙的な讀物並びに啓蒙的な文學活動形態の一層の積極化。これらの二つの面に於ける活動の旺盛化と相まつて、創作活動は革命的に旺盛化せしめられるだらう。

#### 四、文學の夕と文學講習會

最後に擴大中央委員會後の東京支部活動に於ける新たな啓蒙教育活動の形態の中で特すべき收穫の二三を挙げなければならぬ。それは昨年未だより現在まで既に七回に亘つて、各地區で待たれて居る「文學の夕」(座談的形式による質問應答の會合)の最近では非常に大衆に親しまれ大衆自身(サクル)によつて自主的にかゝる催しが持たれるやうになつて居る。そのことは言ひかへるならば、始めは作家同盟によつて街頭の地質的な催しとして企てられたものが現在ではもはや企業を中心としてかかる催しが持たれねばならぬし、又持たれ得る條件を備へて來たことを意味して居る。

我々がかゝる情勢を有効に、街頭より企業内の催しに向つて發展せしめること、我々が獨創したかかる活動形態を企業内闘争と效果的に結びつけることを更に促進することが重要である。

プロレタリア文學講習會について見ればそれは東京支部で主催されたに拘はらず、最初から全国的性質を帯びて居た。東京以外の遠隔の地方から聴講申込みが殺到した。而も、聴講者は全體として、自ら文學運動に参加する意志を持ち、作家同盟と結

所の政治的な立ちおくれは、かかる部分に於いても、急速にその回復の必要をせまられて居る。

#### 五、結 語

以上が我々の過去一年に於ける活動の概括である。

我々の報告年度の總決論はどうであるか。

我々は現在の客觀的情勢に對して尙ほ多くの缺陷、特に政治的な立ちおくれを示して居る。

それは、組織活動並び創作活動の二つの面について言ひ得る。然し、それは急速な

回復の道を進みつつある。我々は明らかに豫定を持つて居る。

而も、それらの立ちおくれにも拘らず、我々の實踐の跡、並びにそこから導き出された、今日の明確な見通しとは、第三回大會並びに臨時大會に於いて打ち立てられた我々の方針が、現在の客觀的情勢の中で、最も妥當なものであったことを實證して居る。新たな方針の現實化に於いて、特に東京支部が、その強力な中心的役割を行動に於いて示したのである。

それは、我々を明日に向つて勇氣つけるところの強力な拍車である。

## 神奈川支部活動報告

我が作家同盟神奈川支部結成の輝かしき創立總會は一九三二年三月二十七日に持たれた。此の日、支部準備會より支部への發展を實質的に圖ひ取る爲、我々は此の日までの長い闘争の成果を充分に批判し、經驗を汲みとり、更に新たな闘争への貴重な

る土臺石としなければならぬ。先づ支部結成までの時期を、文化聯盟結成以前と作家同盟神奈川支部結成までの二つに分けて検討しやう。

一、文化聯盟結成以前(戦前支局時代)  
神奈川地方は經濟上、軍事上最も重要な

びつくモメントとして、催しを把握したといふ意味に於いて、それは特別の重要な意味を帯びて居た。現在、講習會の聴講者は全體として、同盟に加入し、又サクルに屬して活動しつつある。實にこれはかかる教育的な催しが組織活動を最も效果的に結合せしめられた例である。

上述の如く遠隔の地方から、これに参加し、又参加する意志希望を持つて來たといふことは、各地に於いてかかる催しが要求され、それを持ち得る状態に至つて居ることを實證して居る。かかる企ては今後中央部によつて、全國的規模に於いて企てられねばならぬ。

同時に、東京地方に於いては、組織活動の新たな面の開拓にかゝる方法を結合せしめると共に、サクルそのもの、文化的政治的昂揚のために、それを基礎としてかかる催しを計畫する必要がある。ところで、一貫して、この二種類の活動について、缺陷を指摘するなら、こゝでも又、我々は文學の問題と、當面のプロレタリアートの闘争目標と結合せしめ得ず(充分には……)政治的、指導し得なかつたことである。既に述べた同盟の基本的な缺陷であつた



る地の一つであり。そして又當然文化上の重要地帯である。

先づ川崎、鶴見の京濱工場地帯を始め、横濱、横須賀の経済的軍事的要港、平塚、小田原、鎌倉等々の町から相模平野に打續く六十萬の農民を含み、海陸共に重要な地帯である。明治維新史を讀むならば我神奈川が日本資本主義發達史上に如何に密接なる關係を有するかは一目瞭然である。こうして神奈川地方は長い歴史と亦廣大なる産業地帯とを併せて横に縦に、資本主義第三期の日本にからんでゐるのである。

斯うした地方であるから労働者、農民、勤勞大家の必然的な資本への闘争は、同時に文化的欲求を呼び起し、早くからプロレタリア文化闘争の發生を見た。

無政府主義者ではあつたが當時最大の理論家、大杉榮氏の名は餘りにも有名である。近くは、三・一五、四・一六に於ける多くの犠牲者、その後の打續く弾壓は絶えず我地方より多くの前衛を奪つてゐる。

そして我々はこうした全面に互る労働者農民、勤勞大家の闘争中に文化闘争が廣汎に開はれてゐるのを見る。先づ神奈川に戦旗支局の出來た一九二八年六月以後より

一九三一年末の文化聯盟結成までの間神奈川地方に於ける文化闘争史の範圍形態、活動方針を検討しやう。

一九二八年六月結成した戦旗横濱支局は當時、七人のナツプ員に依つて構成し、當初より全く工場、各職場へ基礎を持つ組織網を持つた。一九二九年五月に當市の革命的學生一般街頭組織の加入により更に擴大強化したが同年十月の弾壓に依り各職場の組織網が破壊され、翌年二月よりは唯學生網しか残らない状態に迄到つた。之は職場より上つたナツプ員の投獄並に脱落者に依る大きな偏向を生んだが同年同じく別個に發生した職場内の戦旗讀者會の参加により再び強力になつたが、その頃戦旗は全國的に半非法の状態に陥られ我神奈川に於ても殆んど非合法組織に迄追つめられた。然し、一方労働者農民の文化的欲求は益々強く、部数は次第に増加して行つた。その時又翌年三月の弾壓は戦旗支局を全面的に破壊した。然し再建闘争をモリモリと闘つて戦旗支局を形成したが、雜誌戦旗は當時發行に非常な困難な状態にあり極めて不活潑な活動しか遂行出来なかつた。斯うした客觀的には大衆的な文化欲求が強いのかゝ

はらず、主觀的な状態の運轉はいつもながらの偏向を生み、戦旗支局の組合主義的偏向は神奈川にあつては全く組合の中に解消し全く文化闘争を放棄し、或は讀者會のセクト主義は戦旗支局と離れて文化主義研究會に止まり別個の配布網を持つた。この例は街頭に見られた。

さうした多くの誤謬は實質的に戦旗支局の活動を妨害し、雜誌戦旗は相對的に力が弱まり發行不能に陥らんとした。この時、誤謬を改めて正確に指摘し、正しい組織方針を提出し、プロレタリア文化運動史に劃期的飛躍を與へた古川莊一郎の論文がナツプ誌上に表はれ、各文化團體の結合による文化聯盟の結成が提唱されるに至つた。

二、文聯結成より作家同盟神奈川支部結成迄。

文化聯盟結成に先立つて、文聯結成の組織方針を中心に各文化團體間——戦旗社、作家同盟、ゴエウ、P・M、プロキョ、P・P、プロット、プロコ、新教、職無、辯護士團、醫同——に懇談會が持たれ幾度か討論が交され、一方全國的に大衆討論も併せて行はれた。

討論は今までになく活潑に、然も大衆的

になされた。問題は進展し文化聯盟は結成された。かくて文化活動は全體的に統一され、その輝かしき活動方針は決定された。

然し之の實踐過程は極めて複雑を極め、幾多問題を結合しながら進展した。では神奈川にあつてはどうであつたか。

我神奈川にあつては在來戦旗支局しかなく然もそれは前記の種々なる偏向——それは必然的であり、一時はそれが重大な役割を果した組織方針——を持ち、多くの戦旗讀者は文化闘争の重要性を認識せず、或は認識するも戦旗支局在來の形態を脱却出来ない者が多かつた爲、文化團體を合法舞臺に出しての闘争を實現するのに困難が多かつた。然し之は實踐により、解決されて行つた。

先づ戦旗支局は今までの活動分子を以て各文化團體結成の爲に各文化團體と直接連絡をとりオルグとなり、神奈川地方の文化組織を組織し、或は既製文化組織の喰ひ込みに努力した。

當時神奈川には横濱演劇研究會が生れた許りでその他に文化組織はなかつたので先づ之が目標になり、之へ働きかけた。神奈川にプロットが最初に結成出來たのはこの

成果なのである。此が土臺となつて作家同盟は生れた。

戦旗支局は漸く實質的に各同盟に解消し文聯地方協議會を形成し文化聯盟の基礎が築かれたのは十二月中旬である。

作家同盟はその初め、演劇研究會の一部と他の同人雜誌、戦旗支局の一部に亘り第一回京濱地區準備會の懇談會を持つたのは十二月初めであつた。既に文學新聞は發行されてゐて、組織にあつたの重要な集合的組織者の役目を果した。然し、東京の本部との連絡は仲々つかず漸く京濱地區準備會の持たれたのは一月五日である。一月五日、本部より泰己三雄が來演し、初めて組織方針を決定し、自主的な活動は初められた。京濱地區と稱し、東京支部の一地區とし、やがては神奈川支部準備會に發展するものとの見通しをもつて直接本部よりの指導を受けた。京濱地區ニュースは發刊された。三エデーを期して。

このニュースを中心に當時の活動の概略を示さう。

一月十五日、カール、ローザの日を期して、東濱地區ニュース第一號は出た。添付したニュースを見れば解るが半紙版四枚の

もので、發刊の際、三エデーを如何に闘ひ抜くか、経過報告、詩人會の解消、文新神奈川版の必要、サークル組織問題、が掲載された。

このニュースに表はれた二つの主要點を述べると、一は全體的に活動方針が不徹底な事、東北飢饉、滿州事變の記事が少ししか觸れてない等の編輯方法——之は單獨に問題にされるのでなく全體的活動の反映である——と、一つは文新神奈川版發行要求に表はれた。文新とサークル組織を機械的に結びつけた理解が全體を包んでゐた事である。これは次に鹿地亘氏によつて訂正され次號ニュースに訂正文が残り、次にプロレタリア文學二月號に鹿地氏の精密な論文が掲載されてゐる。然し之の論争を中心としてサークル問題はよく徹底する事が出來た。

猶この間の活動としては各サークルで反戦問題を結びつけて三エデーがよく理解され開はれた事、東北飢饉救済金を作同宛送つた事等でサークル組織に全力が傾倒されてゐた。やがて鶴見の同志と連絡がつき組織は擴大強化し、一月二十五日、京濱地區は獨立して神奈川支部準備會に發展した。



かくて組織方針は確立し、十二名の同盟員二十三のサークル、三七〇の文新配布数を得た。組織部、教育部、出版部、財政部は各々活動を始めた。ニュースは「突撃隊」と稱して第一號が出され、機関誌「鐵の流れ」が出版される事となつた。文新を持つて目標工場への張り込みは編成され、折からストライキ中の渡邊ドック、淺野グライダ、大日本ビール等への激及び文新を寄附し、或はプロットと協力して移動劇場に活躍した。

此の頃、市電、市従業員關係其他重要職場の整理の發表がなされた。二月十一日の建國祭、二月二十日の國會議員選挙日、二月十九日の失業反對闘争、我々の活動は漸く熱した。組織活動、創作活動は併行して進められ、反戦、反ファシズム、失反、市電スト應援の詩、壁小説が三十篇程創作された。ニュースに活動方針がのり、選挙演説傍聴記、建國祭デモ記録等も責任者を作つてとつた。然し、未だ活動に未熟な點、連絡の不統一は多くの缺陷を持つてゐた。にもかゝらず全員の積極的な活動はこの闘争を通じて盛り上り、三月五日、六日を記して文藝講演會を演説に、文藝座談會を

鶴見に開催しやうといふ計畫がなされて、之に向つて進んだ。

我々が二つの會を通じて學びとつた成果は極めて大きい。共に大きな弾壓を加へられながらも闘ひ取り、講演會には五〇〇人以上が大部分、労働者、動労大衆、特に婦人がその五分の一を占めてゐた事は、三月八日婦人デーに結びつけて意義が深かつた。座談會には五日が四日に變更された手違ひから本部より人が來ず神奈川の同盟員許りで座談會になつたが、來會者より色々な具體的質問が出て旺んであつた。主に、文新とサークルの問題、プロレタリア文學の大衆化の問題が論ぜられた。これを見ても如何にサークル運動が廣汎に然も労働者の中に問題になつてゐるか解る。この二つの會の批判は直ちに批判會をもつて充分に批判された。我々の之より得た決議は——日常活動を通じて大衆的活動へ——であつた。之は市電従業員、市従業員の動搖中であつたにもかゝらず参加の少なかつた事によつて裏付けられたのである。

次に三月八日、婦人デー、我々は講演會によつて得た経験を具體化して婦人デーを開つた。即ち、婦人世話夜會を開き、特

に婦人問題に關する問題を協議した。職場からの人許りで非常に効果深く、直ちに通信員二名獲得し、之の會は月一回以上に持たれる事に決定した。

三月十二日、神奈川縣下全體を襲ひ百三十餘名を奪つた弾壓は、我作同からは、出版部長、篠崎陽一、ツルミ責任者、武田亞公、海南地區、川瀬章三、金子萬次郎、横濱市電、村上秀夫を奪つた。先にやられた廣木廣、書記長並木三吉と併せて犠牲者救援活動は起され、徹、救援金袋、家族への訪問、通信等がなされ、今窮極まで行はる。

翌十三日、横濱市電は遂にストに入つた。始發を期して全線一勢に止まつた。ところが又、官製青年團、在郷軍人團が動員されてストライキ破りを始めた。我々は直ちにプロット、P・Pと連絡協議し、市電スト應援委員會を設け、基金募集、機送付、移動劇場、行動隊を設け、各本部に全員を派遣し、記事を作製、我々の新聞を發行する準備をととのへた。然し、巧妙なストライキ破りの策動は、活動分子の檢束とダラ幹と會社の調停で翌日にストは弾壓され、ブル新は解決以前に解決を告げ、ストは壓殺

## 高知支部活動報告

高知縣に於ける特殊状況と、それに対する支部當面の活動任務

高知縣は、山地多く交通不便であり、原料品に乏しいため、近代的大企業大工業が極めて僅少である。

只、僅かに高知市及びその近傍に、土佐セメント(従業員二百) 兩海晒粉土佐工場(従業員百) 稻生石灰工場(従業員三百) 片倉製糸(従業員二百) 製紙工場二三、と電氣鐵道及び國鐵、縣下各地に散在する四五の製紙、製糸會社等、全縣下労働者の數五萬二千に過ぎず、農村に於ては、大地主は殆んどなく、自作農が大半を占め、階級分化は極めて緩慢である。縣下農民總數二十五萬人。また海岸至る處に生活する二萬五千の漁民、及び近代的文化と淺交渉の山間に搾取されつゝある林業労働者三萬。而して、現在、工場労働者の間には、全協の組織が漸く伸び始めつゝあり、農村に於ては全國會議派が高岡地方に僅少の勢力

を保持してゐるに過ぎず、漁業、林業労働者に至つては全然左翼からは組織の手が伸びてゐない。

我が作家同盟高知支部は、此の廣汎な未組織労働者、農民大衆の間に精神的に文化運動の影響力を擴大しつゝある。

文學新聞の取次部數七百。プロレタリア文學四十。我が同盟に指導されるサークル數、十八。

そして、基本的諸組織の補助的組織としての活動をより効果的に果し文學活動をより活潑に押し進めるために文學新聞一千突破！機關誌プロレタリア文學百突破！サークル五十突破を執拗に闘ひ抜かうとしてゐる。

だが、現在の我々の活動の成果を振り顧る時、我々は、我々の影響力の大部分が重要目標たる工場に労働者に確保されてゐずして、主として農民及僅少の農林業林業労働者に押し進められて來たと云ふ事である。

されて了つた。かくて市電ストは敗北に終つたが之が契機となり、文化團體内の連絡は確固され、三月十八日、パルクコムミュン記念のモツブルデーを我々は準備して闘争した。汎太平洋文化團體挨拶週間は白テロ反對の闘争を中心にもたれた。

かうした経過中に我々は支那より支部への輝かしき發展を迎へて、支部創立總會を三月二十七日に全同盟員参加の下に持つたのである。

總會では今までの経過の正しき自己批判がなされ、過去の經驗の土臺石の上に、再び新たな勇氣と決斷力を持つて活動方針を定め、支會規約を作成し、實質的に支那より支部へと發展したのである。

之は今までの概略の経過報告である。我々は活動した、實踐は我々に幾多の貴重な經驗を教へた、我々は誤謬を犯したが、常に之を克服して進む事が出來た。然し尙、障害は山の如く盡きない。我々は更に之を克服して進む事を誓ふ。

メーデーカンパを通じ、我々は必ず之を實現するであらう。



是は、我々の組織活動が、文學的要求の比較的大であつた農村間に自然發生的に、大衆に奉きずられて來た事、我々が計畫的、ねらひ打的に工場への食ひ込みをやつてゐなかつた事を意味するものである。

一、企業内への影響力の浸透、確保

二、農民文學委員會の組織

三、組織活動と創作活動の統一

四、新幹部の養成

而して、是らは何れも全縣下の労働者農民漁民の心に一様に不滿を抱かせてゐる高知第四十四聯隊の上海出兵を中心に執拗な反戦闘争を通じてのみ果敢に遂行されるものである事を確信する。

文學新聞報告

一、高知支部取扱部數 七百部  
但し、七、八、九號は發行所の都合及び支部文新部の財政的窮迫のため、取扱部數は約半減された。

二、紙代納入状態 約三十%

是は、一九三一年十二月一日より三日にかけて持たれたプロ文學講演會の損失の埋め合はせに、紙代の一部を廻は

した事、及び新聞の配布が極めて無統制になされ、紙代の回收が困難になつた事のためである。が現在は紙代納入の悪い所には、發送中止部數減忠告等により紙代納入状態は百パーセントに近くなつた。そして是までの紙代の滞納分は紙代完納カムバを起し發行所への借金を交拂ふべく努力する。

文學新聞配布状態

農民	一八九	製紙	五
學生	六二	交通	一〇
製糸	五一	一般使用人	五
化學	五〇	書店	六二
漁民	三五	其他	二二
文學新聞讀者階級別割合			
労働者	〇、二八		
農民(漁民を含む)	〇、三一		
學生小市民その他一般街頭分子	〇、四一		
五、文學新聞通信員	一五名		

同盟員増加状態

七月支部準備會設立以來(九月まで)  
弘田 龍、佐野順一郎、織田一平  
横村浩、辻猪之吉、福重重満、毛利孟

2 同盟員、サークル員の文學的教育

期間を限り、課題を付し、作品を募り、その出来栄に應じ、批判を付し返却し、研究會に付し、或は本部へ送附してゐる。

3 「基本的諸組織への貯水地」の役割を果す點に就いて

共青・全協・全農全國會議の組織部と密接な連絡を保ち、サークル・メンバーの才能に應じて、基本的諸組織へ引き渡し、サークルと分會との關係は、工場の事情、各の會合の情態、ピラミッドや流し込みの順序等を考慮して、最も效果的に、基本的諸組織への貯水地として役立ち得るやうに計畫した。

4 今後の見通し

農民文學研究會、詩研究會の確立、ニュースの發行、講習會の催し等々  
作品活動報告  
弘田 龍作  
(小説) 補充兵訓練 ヨツブ高知地協刊  
行反戦パンフ「赤いラツバ」  
(小説) 東京と高知 ヨツブ高知地協刊  
行選挙パンフレット

(シユブレヒコール) 東北の兄弟を救へ  
高知職場座上演臺本  
佐野順一郎作  
(小説) 龍 死「赤いラツバ」  
(戯曲) (小林多喜二作より脚色) 壁にはられた寫眞 高知職場座上演臺本  
辻猪之吉作  
(小説) 三太郎やあい「赤いラツバ」  
毛利孟夫作  
(詩) 俺は古參の二等兵「赤いラツバ」  
横村 浩作  
(詩) 生ける銃架 「大衆の友」創刊號  
財政部報告

同盟員の支部に納入すべき責任額

本部費  
支部費  
事務所維持費  
納入期日、毎月二十五日  
然るに、同盟員十名の中、是が完全になされてゐるもの殆んど半數に過ぎず  
然も、昨年十二月一日—三日に開催した、講演カムバの負債に現在も償まされてゐる状態である。  
三月一日以降、全國大會に至る期間

夫、山村一夫、

十月 奴田原三郎、坂雄作

十一月 川島 利勝

十二月 石川秀、河野一

一月 木山 喬

二月 東條曾夫、上岡良一、邦見主殿、永田 徹  
以上、十八名

教育部報告

1 研究會

a 作品研究會「プロ文學」文新「大衆の友」働く婦人」等の小説・詩、評論等に関する批判研究會を毎週一回持つてゐる。  
b 政治經濟研究會 始め獨自に持つ豫定であつたが、力關係を考慮し、科學者同盟高知支那の研究會に合流してゐる。毎週一回、主として當面の時事問題を直ちに取上げて分析批判してゐる。

に、財政活動の整理統一をなす事が決議された。

企畫活動報告

一、藝術討論の夕  
十一月七日ロシア革命記念日午後六時  
主催 作同を主體としてプロキノ、プロット、高知プロ美術研究會

會費

十錢  
參加者 十五人。(小市民7労働者8)  
内容 革命記念日及び文化聯盟の

プロレタリア藝術について

弘田 龍  
藝術方法に於ける唯物辯證法の問題 織田 一平  
藝術運動に於ける組織問題 横村 浩  
プロ美術について 里須 條二

それら分發説明し、藝術方法に於ける辯證法の問題が盛に論じられた。  
二、プロレタリア文學と映畫の夕  
十二月一日—三日



講師 江口 漢、貴司山治、池田壽夫

一日 高知(高知座) 聴衆五百。労働者農民五割

二日 高岡町、聴衆二百。九割まで農民

三日 山田町、聴衆二百。八割まで農民

總計約一千名の聴衆に、プロレタリア文壇の意義任務、等を十分に浸透させる事が出来、以後支部活動に大いに役立ったのであるが、一方、此のカムバの財政的損失は現在まで支部の財政的基礎をおびやかしてゐる。未だ負債も全部支拂つてゐない。

三、プロレタリア文學座談會  
十二月一日、高知座に於て講演會終了後直ちにカフェエーブラジルに於て座談會開催

會者 八十名  
文學新聞、農民文學、大衆化の問題等が活発に論じられた。

四、第二回藝術討論會  
主催はコップ高知地協であつたが實質的には作家同盟の主催となつた。

一月二十日三レデーの夜六時半  
カフェエーブラジルにて  
會費 十セン  
會者 十名、労働者  
労働者の少い事は我々の組織的影響が高知市及高知市附近一帯の労働者農民の間に行き渡つてゐない證據である。

五、反戦パンフレット刊行  
是もコップでやつたが作家同盟がインシアチーブを取つて發行。  
三レデーの闘争期間に出すべき處、一月末に種々の事情で伸びた。

四六版、騰寫刷、七十四頁  
内容  
一、論文、三レデーの話、戦争

務の普及及び我が同盟の新しき働き手の獲得  
講義種目及び分擔  
高知社會藝術運動史 木山 喬  
プロレタリア文學總論 弘田 鏡  
社會民主主義及びブルジョア文學批判 (未定) 毛利 孟夫  
ソヴェート文學紹介 弘田 鏡  
農民文學論 横村 浩  
反戦文學論 横村 浩  
藝術方法に於ける唯物辯證法 織田 一平  
織田 一平  
組織問題 織田 一平  
課外、小説の作り方、文學新聞の話  
尙、此の講習會は第一期講習會であり當面特に重大と思ふ課目のみを取りあげたのである。

また、サータルから必ず一人以上の出席者を送らす事になつてゐる。

機關誌配布狀態  
取扱部數 四十部  
讀者別、

一、工場労働者 六名、内譯 同盟員 一  
二、農民 七名、内譯 同盟員 五  
三、一般使用人 十二名、同盟員 二名、普通讀者 十名  
四、學生 八名、(全部高等學校學生同盟員三名)  
五、同盟員 七名

誌代回收狀態  
現生、發行所に約二十圓の滞納である支部に人手が足りないためと、生活程度の低いためで、一部分を除く外、支拂ひが極めて悪い。  
四月の大會までには全額完納の計畫である。

六、反戦スゴ六、ストライキ詩集中止の件  
反戦スゴ六は、實質的にはPP支準でやるべき處PP支準構成員の意識の低いを指導しつゝ我が同盟が率先して是を提唱し、原文は全部我が同盟が作りPP支準に提供したが、PP支準構成員の個人的都合により中止となる。  
ストライキ詩集は、是非必要であるが作同高地支準に人手が足りないためと相當な時日が必要であるため一時中止する事にした。

七、選挙闘争パンフレットの刊行  
選挙闘争パンフレットをコップから出す事になつてゐたが大衆の友の選挙特輯號が出る事になつたので、その附録として、高知の狀態に應じたものを添附する事に變更、  
作家同盟から弘田鏡作「東京と高知」小説提供

八、文學講習會の開催  
三月十五日より四日間  
高知市東片町南松瀨事務所に於て  
目的、プロレタリア文學運動の意義任

とはやり歌、ブル映畫を蹴飛ばせ  
二、詩、俺は古參二等兵、勳章  
(宮木喜久雄作戦旗より轉載)  
三カール・ローザの略歴  
四、漫畫二題  
五、世界現狀地圖  
六、我等の旗日  
七、小説補充兵訓練。三太郎やあい。艦死。  
尙屬に適當な歌がなかつたため「インタナショナル」を掲載即日、發禁、  
是に對する労働者からの批判。  
根本的なものとして滿州問題が附隨的に取扱はれ、全體として、戦争の本質がバカロされてゐない事から、労働者農民を如何に支配階級が戦争に動員するかと鮮明でない。  
パンフには、やさしい滿州問題の解説が當然のべきであつた。  
(此のパンフには、滿州問題の話が載る筈であつたが、あまり頁數が多くなるので滿州問題の話はア

口科學者同盟高知地方準備會から單行本として出版する事になつた。  
六、反戦スゴ六、ストライキ詩集中止の件  
反戦スゴ六は、實質的にはPP支準でやるべき處PP支準構成員の意識の低いを指導しつゝ我が同盟が率先して是を提唱し、原文は全部我が同盟が作りPP支準に提供したが、PP支準構成員の個人的都合により中止となる。  
ストライキ詩集は、是非必要であるが作同高地支準に人手が足りないためと相當な時日が必要であるため一時中止する事にした。  
七、選挙闘争パンフレットの刊行  
選挙闘争パンフレットをコップから出す事になつてゐたが大衆の友の選挙特輯號が出る事になつたので、その附録として、高知の狀態に應じたものを添附する事に變更、  
作家同盟から弘田鏡作「東京と高知」小説提供  
八、文學講習會の開催  
三月十五日より四日間  
高知市東片町南松瀨事務所に於て  
目的、プロレタリア文學運動の意義任



# 京都支部最近の活動報告

## 書記局

二月四日書記局より作同京都支部總會を召集して殆んど全メンバー出席のもとに總會を開催した。

吾々は過去に内部的諸機關を確立したが種々な點に缺陷があつたために新に再編成を行つた。

- 委員長安住健太郎、書記長大崎治郎、教育部中村富郎、組織部安住、出版部草崎喜七郎、敗政部中道藤子、出版物配布部中田コツパ協議員安住。大崎。中村。
- 總會で本部書記局より提議した
- 1、各同盟員は必ず一つ以上のサークルを作れ。
  - 2、同盟員獲得の倍加運動を行へ。
  - 3、「プロレタリア文學」文學新聞」其の他倍加運動を捲き起せ。
  - 4、作品活動の社會主義的競争をしる。
- 四つの活動方針を吾々は大衆的に討論批評

あらう。また、作同よりコツパ組織部代表者會議に地區オルグ會議を提唱して、他同盟とのより一層密接なる組織的關聯を得て各同盟の組織活動に多大の收獲をもたらした。

組織部としてのなほ詳細なる報告(サークル調査、文新機關紙配布)は追つて組織部よりある筈である。

## 教育部

教育部では陣營を強化するために新幹部の養成が緊急の問題となり特にメンバーの教育活動が活潑になされた。吾々は文學理論に平行して組織理論の研究會を持つて居る。最近に於てはプロ文學二月號の「日本プロレタリア作家同盟の活動報告」及び「作家同盟の當面する組織的任務」三月號の同志鹿地直「組織問題に於ける當面する二三の問題」等を京都の現情勢にあてはめて研究批判がなされた。他方動勞大衆の文學的慾求を満たすために文學移動隊を編成し責任者を百河操として、詩及小説の朗讀、座談童話、文學理論、の専門的研究を移動隊員に課して居る。第一回の移動は田中水平社ピオニールの日曜學校に於て行はれた、又

判して更に(支部員は支部財政を守れ)を加へて満場一致を以て京都支部の活動方針書として切迫せる國內の革命的情勢より遙に立ち遅れて居る京都特殊の情勢の上に全プロレタリアートの闘争の一構成部分たる作家同盟京都支部はこれ等の活動方針書を以つて實踐的に參加して行く事を決議した。これ等の諸成果はゾクゾク各専門部門の活動報告に生々しく反映して行くであらう。

二月月上旬に吾京都支部準備會は支部としての活動を承認されたが、いまだに對警上支部として出来て居ないために活動上かなりな不便が伴ふので、合法的な支部創立總會を持つことが緊急な議となつて居る、と同時に大衆的な催し物をし、支部存在を宣傳して活動舞臺の擴大化の計畫を押し進めつゝある、その一方法としてプロレタリア文學講演會を開催したいと思つて居るが、インテリ層を無視して何事もなし得ない

吾々は三月十六日宇治同好會館に於て行はれる山宣追憶デーに移動隊を持ち込む準備を進めて居る。實に教育部の課題として戯曲、児童文學、農民文學の研究會を精力的に持つことが日程に載せられて居る。

作品活動として現在當面せる帝國主義競争反對の小説、詩、の生産を支部員に激した、結果として餘りかんばしくなかつた、これは京都支部員のメンバーの殆んど全部が組織部と部署を重複して聞つて居るために時間的餘裕を持たなかつた事と文學運動の組織といふことのみに重點を置いて居た偏向から生じた結果であると思ふ、吾々はかゝる偏向を克服して武器として文學の生産をも相對的になさねばならないことを知つて居る。

僅に數篇の詩と壁小説を得たが殆んど不完全なものであつた。(こん度の作品は個人的に送ることになつて居ます。)

出版物配布部の報告と意見。  
機關誌プロレタリア文學配布部數五〇(内一七部は支部員に配布され他の三十部はサークル及街頭的配布網を通じて配布される、文新配布數六〇〇。  
文新に依ると文新發行部より京都市内に

い京都では支部員の理論水準を以ての講演會は大衆性を持たないであらうから本部より講師を迎へたいと吾々は思つて居る。  
それに関して本部の意見或は都合その他参考になること。レボしてくれれば幸だ。

## 組織部

滿蒙事變及びブルジョア支配政治のファッショ化を模範として未組織大衆の目ざましい意識化に對して京都に於ける基本組織の活動は殆んど無能状態を示して居る、かゝる、的的情勢の革命的急迫に際して、プロレタリアの闘争の一翼として作家同盟京都支部は基本組織の擴大のために補助組織としての任務の遂行を果敢に闘はねばならない時期に當面して居る。

京都支部は特に支部員の任務の重點を文學運動の組織問題に置く事を必要とした。組織部は京都市を四つに區分して城南、城北、成東、城西、として各地區に一名のオルグを設定し特に農村には農村オルグを定めて京都に於けるあらゆる工場農村に文學サークルを作り、それを吾々の影響下に置く事に依つて吾々の陣營の強化となり、又基本組織の立ち遅れの解決の一助となるで

數百部を配布しその中京都無産消費組合に二五〇部配布して居るがこれは支部出版物配布部へ配布網を譲り渡すべきであると思ふ。吾々は絕對にそれに依る商人主義的な利益の問題にして居るのではない支部の所在地に發行部より直送するが如き便宜主義的な非組織的な配布はあり得ぬと思ふ。  
吾々は「吾々の出版物を守る」ためにサークルに配布した莫大なる未回収の紙代(支部としては)迄も乏しい敗政の中から完納したてはないか、文新配布網を支部へ全部委託されることに依つて吾々は組織上のキツカケを授見することゝもなるのだ發行部の猛省を促す。

## 出版部

大阪支部より京都に宛て共同編輯に依る地方機關誌の發行に參加せよとの勧告に接したが、敗政部は割當られた五〇圓の金を如何にしても作ることが出来なかつた爲餘額なく今回だけ参加を見合ふことにした。  
出版部としての活動は未だになされて居ない。



# 大阪支部報告

## 一、報告

一、同盟員数 二二名  
研究生数 九名

二、支部機関

執行委員会

執行委員長 田木

執行委員 阿部、田木、見玉、高橋、山本、三島、鈴木、大元、水田、

書記局長 水田 書記二名

組織部長 見玉 部員(地區責任者)十名

文新部長 高橋

調査部長 鈴木

出版部長 阿部

地方機関誌編輯長 阿部

カンパ、パンフレット編輯長 田木

財政部長 三島 部員一名

企劃部長 山本

移動藝術部長 大元

教育部長 中村 部員四名

## 三、會合

支部總會 月一回

執行委員会 月二回

各部會 週一回

研究会 毎週土曜日

## 四、出版部

カンパ、パンフレット 約月一回

地方機関誌 近刊ノ豫定

文新配布状態

金 屬 二二一 通 信 一一〇

木 材 七〇 せんい 八五

交 通 四〇 八 街 頭 五七

一般使用人 七四 七地區サークル數三

出版 學 七〇 サークル出版物

一四七 (日刊)三

合計 一一六二

## 二、組織活動

(イ)組織部會——毎週木曜日を定期組織部會と定め各地區責任者(大阪市を八地區

労働者圖書館設立の計畫が進められつゝある。

(ハ)サークル——サークル數の特に大經營に於ける數の少きは組織活動の著しき立廻れを意味するものである。サークル數十三、サークル出版物三つしかなく、又確立せるサークルも殆ど意識分子のグループ文新讀者會にとどまつて居る。しかもこのままの状態で組織部會の指令は移され實行されたのだ。

## 三、結語——自己批判

自己批判は上述のはつきりした文新とサークルとの顛倒に始められる。サークルが文新を追ひかけるものでなくて文新がサークルを追ひかけるものではなくてはならぬ。例へば某車庫に於ては文新が百八十もはいりながら會合は一度も持たれてゐない。意識的計畫的な働きかけの絶對的不十分を意味するものであらう。

組織部會及地區の現在の方向は正しいものであらう。がその成果は何もあがつてゐない。

工場内文學愛好家の調査、出版物刊行の促進、地區別「文學の夕」の開催、文新の流し込み、その創意ある宣傳等々を積極

的にやらねばならぬ。何を爲すべきか、既に吾々にははつきり分つてゐるのだ、が未だ何もなししてゐないのだ。サークルをして文新を追ひ抜かしめよ。

## 教育部報告

### 一、研究會活動

(1)一九三一年「ナツプ」誌上に發表された同志古河莊一郎の論文を契機として作家同盟の活動を工場及農村及び一切の企業を基礎として新しい方向に進むと共に支部教育部も氏の新方針に基いて研究會を進めて行く事にした。最初研究會は毎週土曜日に定め、支部ニュース、及び當時支部より出されて居た「文學仲間」等を通して廣く文學愛好者の参加を求め各自の創作の討論批判を中心として進めて来た。この研究會は相當の効果を修め研究會参加者の總てを支部員に獲得し得たし、現在の支部員の大多數は當時の文學會参加者である。

この研究會では主として當時戦旗社大阪支局と共同で計畫中のロシア革命記念パンフレットの原稿製作に結びつけて戦争反對並にロシア革命記念をテーマとした壁小説の積極的製作と云ふ事を強調した。これ

に分ちそれらに交通・農村の責任者を加へて十人の地區責任者を設定した。を招集し一週間に於ける報告書を提出せしめ又次の一週間の活動プランをくみだした。この間に我々は新しき組織方針を同盟員に徹底させる爲めに組織方針書を作り、又各月カンパに對する闘争方針書を出した。中にも最近の總選挙に際してヨツプ大阪地方協議會の統制下に戦つた選挙闘争が特筆されるであらう。その外文新部との協力の下に春日出、港南の大工場地帯及動搖中の市電各車庫に千枚の「文新を讀め！」の傳單を貼布し又調査部との協力の下に目標工場の工場調査にとりかかつた。

(ロ)地區——組織活動は大體各地區の自主的活動に俟つべきであるとの見通しの下に地區オルグ會議地區各同盟組織部代表者會議開催の必要が云はれ後者はD地區(北西)E地區(北東)にて一回A(港南)地區に於て數回持たれ、又B(春日出)地區にては不完全乍ら定期的に持たれつゝある。A(港南)地區に於ては總選挙前の大阪製鐵所動搖に際して特別の對策がとられ又B(春日出)地區にては近々の中に「文化の夕」を持つ計畫、F(東成)地區にては

には少からぬ作品が集まつたが、それらの作品を通じて我々が知り得た所のものは根本的にイデオロギー的に極めて低度であり、現實を正しく觀るマルクス主義的觀點の缺陥と云ふ事である。この事は個々の作品がブルジョアの若しくは小ブルジョアの文學の影響から何等の殘滓を引ついで居ずそれから獨立してゐると云ふ點に於いては我々の新しい方針が具體化の第一歩を踏み出したものと云ひ得るがそれにも拘はらず猶種々の偏向例へば題材に眞正面からぶつかつて行かず誤つた角度から描かうとする缺陥、或はブルジョア並にその手先たる官憲等を必要以上に戯曲化したり、エピソードを階級闘争の主流から引き離して部分のみとして描いたりする様な缺陥を持つて居る事であつた。

教育部は之等の缺陥の原因を當時我々が壁小説の製作と云ふ課題を餘り強調し過ぎた爲であると考へ申譯的な壁小説のみでなく量的にも大きいものを書く可く要求したに止まり之等の缺陥を生むに至つた原因をもつと深く根本的な所に即ち、同盟員のマルクス主義的イデオロギーの低さ、そのため理論並に實踐の無關心等々に求め得ず從



つて其の爲根本的な教育活動をなさなかつた。

(2) 其後一九三一年末に至り教育部は研究会を小説、詩、評論、戯曲の様式別に分けし各部門には専門委員会を設けた。これは研究会をもつと専門的に高めて同盟員各自の技術を専門的に引上げる意圖を以て爲されたものであるが、この研究会の分化のための當然の結果として、研究会の参加人数が減少した。此の事は別に悲観す可き現象でないにしても参加人員の減少と集會の減少とは自ら討論の活潑さを失ひ研究員の熱意を失ふに至つた事は注意されねばならぬ。兼て加へて専門委員会は教育部の統制の弱さの爲めに積極的な活動を怠り評論委員の如きは今日に至るも未だ一回の種つた集會をも持ち得ない状態である。かゝる研究会の一時的不活潑は又各自の創作活動の不活潑を招くに至つた。

(2) 小説研究会  
小説研究会は現在も矢張りカンパ用パンフレット及目下出版部と計畫中の反戦小説集用の作品製作を中心として「プロレタリア文學」及び「文學新聞」の作品の批判等を爲してゐる。

議の正しい理解、ブルジョア文學社會民主主義文學並に文學理論の批判力の養成等の領域における今後の任務は最も重大である。

(d) 戯曲研究会

戯曲研究会はプロット大阪地方戦旗座文藝部の同志と共同にて「大阪プロレタリア戯曲研究会」なる組織を創立し廣汎に小ブルジョア戯作家共をも包含して研究して行く事になつた。その活動は未だ活潑に行はれて居ないが一月下旬第一回準備會を持ち最初の仕事としてIATBデーの大阪戦旗座上演レパートリーの製作決定と云ふ事を申合せたが製作は僅か一篇集つたに過ぎず戦旗座側同志の多忙と我々の方に戯曲専門の研究者の欠除の爲め仕事は停滞したまま今日に至つてゐる。

研究会活動は以上の如く極めて不活潑であり何等取り上げ可き成果を収めるに至つて居ない。

二、サークル員の教育活動

支部教育部は本年一月四日の支部會においてサークル員の教育活動を旺盛にす可き事の緊急必要なる事を強調した。其後の成果を見るにサークルメンバーに對する文學

反戦小説は未だ一般に帝國主義戰爭の意義及現在の中國侵略戰爭の具體的理解の徹底並に表現技術の不足の爲め優れた作品を見るに至らないが前述の如き種々の缺陷は漸く正しい方向へと向ひつゝある事は云ひ得られる。

一般に創作率は極めて悪く殊に積極的に作品を書くのは主として勞働者の同盟員であり街頭分子並にインテリの同盟員は其生活状態のルンペン化乃至消極性の爲めに製作は殆ど爲されず世界觀の根本的な懷疑懐疑の遠じゆんに落込んで居る。

一般に作品批評力は未だブルジョア大衆文學のファクショウ化を決定的に否定するに止まり古典作品の評価並にそれからの攝取は殆んどなされて居ない。

(3) 詩研究会

詩研究会は他の領域に比して最も活潑さを持つて居り發展の見通しを持つてゐる。

ここに於ても亦勞働者詩人は最も活動的であり街頭分子インテリは行詰りを打破し得ない、勞働者詩人の詩は自然發生的な感情を歌ふ事から多く出て居らず、組織的な闘争に立ち上る自己の委を歌ふまでに至つてゐないが然し乍ら戰場における働く者の

上の種々の指導並に文學新聞への小説戰場通信等の投稿の促進通信員の養成において極めて欠ける所が多い。支部員はサークル等の集會に臨んでサークル員の満足す可き指導に至急に習熟する必要がある。と共にサークルから優れた働き手、作家を支部に迎へる爲めの執拗なる努力を組織部との緊密なる連絡の下になされねばならぬ。

三、圖書館

圖書館確立は既に以前からその必要を痛感されてゐたが財政力の弱さの爲めから最近に至る迄何等の具體化を見なかつた。最近に至つて漸く一支部員の蔵書提供によつてその一應の確立を見るに至つたが其處には我々の必要な文學上の多くの文献を缺いて居り支部員一般の讀書能率は餘りに活潑と云ひ得ない状態である。

四、公開「プロレタリア文學」の質問と討論の夕一計畫

現在の各研究会は一般會の参加を求めてゐるにも拘らず宣傳の不足、場所等の關係からして同盟員のみを研究會に止まつてゐる状態にある。支部は東京支部が此の試みに多大の成功を納めた經驗を學び廣く一般にプロレタリア文學への關心を高める爲

生活感情を正しく率直な勞働者的な形式を以て表現して居り理論的水準の高まりと實踐的な闘争への参加によつて極めて急速に成長するであらうと思はれる。

詩委員會は當面詩研究会の活動・研究会を左に掲げる十個の題目に定成化した(詳細は添付した詩委員會ニュース参照)

(c) 評論研究会

評論研究会は先に述べた通り参加人員不揃ひの爲め未だまとまつた集會を持つに至らず委員會も何等の活動方針を定めてゐない状態である。一般に評論に對しては無關心敬遠の態度が持たれて居り創作方法におけるマルクスレーニン主義のための理論的な研鑽並に今日までに發表された多くの作品から創作方法の具體的な理解を引き出し得て居ない。創作方法における唯物辯證法の問題は支部員各自の作品研討と結びつけ發展せしめなくては徒に公式的抽象的になる危険性が濃い。この爲め教育部の具體的な方針は委員會の確立と共に至急に行はねばならない。

組織理論の研究は、ソグエート同盟始めドイツ、フランス、等の優れたプロレタリア文學からの攝取並にハリコフ會議の諸決

に企画部と相談の上、三、一五記念を目して目下着々準備を進めてゐる。

出版部活動報告

- 一、八、一パンフレット
  - 一、九、六パンフレット
  - 一、支隊支局發行支部應援(發禁)
  - 一、支隊ニユースNOI
  - 一、支隊發行
  - 一、文學仲間NOII
  - 一、支隊發行
  - 一、府議選りフレット
  - 一、戦旗支局發行支部應援(發禁)
  - 一、三エルデーリーフレット
  - 一、支隊發行
  - 一、總選挙パンフレット
  - 一、文化聯盟發行支部應援(發禁)
  - 計七、
  - 一、地方機關誌
- 地方機關誌は神戸、支部準、京都支部、と協力して發行しようとして神戸、京都に相談した所神戸は時期尚早、基金の不集を理由として之れに反對し、京都支部は賛成し理由は大阪支部が主となつて原稿、基金を



募集して居る。最初三月號より發刊の豫定であつたが基金原稿が集まらず三月末日を以て原稿、基金の締切日とし四月號より發刊の見通しを樹てゐる。誌名は未定で表紙を含めて三十二頁位の豫定である。

調査部活動報告

調査部が設けられたのは極最近の事に屬し未だ何等の成果を擧げてゐないが組織部との協力の下に各目標工場の調査にとりかかつてゐる。

企畫部活動報告

企畫部の設けられたのも亦極最近の事に屬し何等の具體的活動を爲してはゐないが教育部との協力の下に公開「プロレタリア文學の質問と討論の夕」を三月十五日に持つ可く計畫を進めてゐる。

移動藝術部活動報告

移動藝術部の創設も亦極最近の事にして何等の成果も擧げてはゐないが三月十日に持たれる労働教授會は大阪支部準の「教授の夕」及三月十三日春日出地區において持たれる「文化の夕」に参加す可く着々其準備を進めてゐる。

備を進めてゐる。

財政報告

- 一、同盟員 別表の通り
- 二、支出金の主要項目
- (イ) カンパ、ハンフレットの作成費 10%
- (ロ) 事務所費 30%
- (ハ) 通信費 30%
- 三、新計畫

廣島支部活動報告

- (イ) 書記有給制(月額五圓見當)(總會承認)
  - (ロ) 維持員募集
  - (a) 文新 (b) プロ文學 (c) 支部機關誌 (d) 各ニュース、以上贈呈
  - (e) 催物五割引
  - 四、結論
- 同盟員のみにて何等見るべき活動資源とする事は出来ない。

一、組織活動

これは土井展、北澤基夫の二名が三一年八月、プロキノ廣島第一回公開に當つて、これを主催した舊ナツブ廣島地區協議會へ廣島プロレタリア作家同盟なる漸定的な名稱を以て参加したときより始まる。本部との連絡を得て正しく支部準備會を組織したのは十月末。

イ、加盟後脱退せるもの。  
木村進平(脱落) 三宅直(プロ科編入) 村木徹、秋原二郎(他の組織の力關係上、退去) 内田一衛(所在不明、上京の噂) 北澤基夫(在京、本部との連絡が付き、今後、本部の仕事をする筈)  
ロ、現在のメンバー  
今井達二、城田浩、收歩、曾我悠、土井展、和泉靜信、眞澄一衛、堀君

二、磯村哲郎(以上、同盟員に推せ

ン中)以上九名  
和泉、堀の二名は西條地區(賀茂郡)磯村は吉田地區(高田郡)在住。  
B、サークルの組織状態。  
イ、職工百人の出版工場に組織中。――文新三十部配布。  
ロ、手工業職場を數ヶ所一サークルに組織中。街頭。――文新二十部配布  
ハ、農村サークル(A)。小作農十名、石工二名、無職一名。現在在グループ的集り以上に出でゐないが、サークルの出版雑誌「寒村(既刊)」を利用して益々擴大する計。全農、全會議派の根を植えるべく計。――文新二十部。  
ニ、農村サークル(B)。小作農三名、無職三名。世話役(支準員)が病弱のため活潑な活動が不可能故、現在は堂々めぐり。青年團の中へ喰ひ入つて擴大する可能性が多分にある。  
ホ、通信職場約三百人の中に二ツのサークル。支準員眞澄の統制下にあるが、連絡不充分と報告不得要で、内

容不明。――文新五十部。プロ文學八

部。  
現在、組織部が確立されてゐない爲、サークル組織も敗北主義的になり、活動の發展は殆んど見られなかつた。この日和見的な態度、活動は、サークルの組織活動が吾々の活動の基礎をなす故に、正しく自己批判し、即刻積極的に清算すべく、活動を始めた。  
C、機關誌。文學新聞の配布態状、  
イ、機關誌。部數四十部、  
企業内十三部。學校七部。農村七部その他街頭。  
ロ、文學新聞。部數三百五十部。  
出版職場三十部。通信職場五十部。手工業職場二十部。一般職場十部。學校七十部。農村五十部。書店七十部。街頭四十部。  
この配布は今まで非計画的に、單なる取次配布以上に發展せず成果を擧げ得なかつた。勿論、直に「文新」の意義を生かすべく計画的配布に移らなければならぬ。配布網の擴大を企業内へ目指すべく努力されつゝある。

二、創作活動

これは非常に弱く、消極的であつた。組織活動並びに企劃活動との辯證法的統一がかけてゐたため、それに加ふるに技術の低度を以て振はなかつた。この立廻れは極力克服すべく努力されてゐる。これまでの發表作品は  
壁小説四篇(ニュース發表)。壁小説一篇及農民小説一篇(選挙闘争パンフレット) 詩三篇(ニュース)。評論三、四篇(新聞の文藝欄及び同人雜誌)。

三、教育活動

一週間一回の研究會を創作方法の研究のために持つべく決定され、谷本清の論文の研究がなされたが不活潑で効果を擧げ得ずその他支準員の研究會は勿論、大衆への教育活動も何等なされなかつた。これは明かな誤りであつて、直に旺盛なる教育活動を開始すべく努力しなければならぬ。

四、企劃活動

催しものは作同盟が獨自にやつたことはない。此れは現在の力關係で、廣島の各



文化團體支部、支準にあつては、舊ナツア地協及びコツア地協に依つて主催された。一、プロキノ公演(三一年八月)準備活動は成功的だつたと云へないが、可成り全市的にポスター、立看板、ビラ、労働者券の配布をやつた。勿論準備委員会を(P.P.プロット、消費組合から各二名)を持つたのだが、計画的に行かなかつた。だが公演夜八百人餘の動員を得て(労働者券と一般券約同数)盛大に演じた。閉演後ブラジル食堂三階で座談會を持ち五十人餘の出席で、プロキノ作品に對する批判や希望を述べ合つた。プロキノ基金、廣島消費組合の基金もその場で集められた。併し參會した大衆を何らかの形で吾々の側に確保することがなされなかつたのは、多く集り成功的な座談會をやり乍ら、大きな失敗だつた。

二、無産者の夕。(三一年ロシア革命第十四年紀念日) 舊ナツア廣島地協主催。後援廣島消費。人手不足にもかゝらず努力的に準備活動をやつた。ビラ撒きで四、五人檢束され、當夜の催し物に對する準備が不充分だつた。當夜の動員約二百名。此れは新聞記事のデマ等に依る阻害のためでもあつた。催し物は、作同講演、P、Pの即席漫畫、プロットのシュプレヒコール掛合、脚本朗讀、その他だつたのが、演出毎に數語、數分間で皆中止に合ひ、それを抗議した司會者は檢束されたので續演まかりならず、だがガンとして大衆は歸らず官犬と對峙したので解散。そこで司會者を取り返すべく警察へ押し掛けた大衆に吃驚した官犬は主催者後援者側の同志と大衆の一部を檢束してしまつた。當夜の演劇は、ブル新聞でさへ、その横暴さをナジつた程だつた。吾々は此の横暴なる弾壓に對して、吾々の計画的活動が排除してゐたこと、及び今後の闘ひを契ふべきアツピールを大衆へ發した

### 五、財政活動

支準負債三十餘。財政活動は無統制、活動基金に對する何等の對策も立てられず日和見的に、必要なときに應じてと云ふやり方で来たため、催し物その他の事業毎にどちを踏んだ。文學新聞、東北飢饉地方、コツア活動等の基金募集にも、常に大衆にイニシアチブを執られ、消極的な支準の活動が批判されねばならなかつた。此れに對しては陣營内の編成の確立に努力しつつあると共に今後活潑な働きを發展さすべく努力され始めた。

### 六、廣島地方の特殊情勢とそれに対する吾が支準の當面する活動任務。

イ、特殊情勢。情勢に對する科學的な調査は此れまでなされて來なかつた。で、常に常識的に皮相を見ることに依つて活動がルーズになされたと云へる。此のことは吾々の活動全體が日和見主義の上に立つて活動して來たことであり、力の弱い吾が支準をより混亂せる活動に陥し入れた基本的誤謬

に對する認識不足であつた。廣島市が、帝國主義日本に執つて、如何に重要な軍事地點であるかは過去の歴史に依つて明確であり、當面する北滿、蒙古、上海、中部支那への軍隊輸送の重要な役割を果してゐる事でも明かである。企業もそれに従つて、糧秣廠、兵器廠、被服廠日本製鋼等の軍需工場を初め、帝國人絹、專賣局、軍洋紡績、山陽紡績、の各大工場及び製針、製糖、の各工場を持ち、市電従業員、國鐵は機關庫を含めての多數の労働を擁してゐる。廣、一般使用人層、中、高、專問、大學の學生層等。勞働組合組織は三一年五月の彈壓に依つて力弱く、客觀情勢に對して立遅れを示してゐる。この時に於て

翼に立つて、文學運動の役割を果すことであり、文學を企業内に基礎づけて、正しく發展の方向へ導くことは云ふまでもない。そのためには、現在まで「組織的任務の重要性に關する我々自身の理解の不足」に因る日和見消極性」を徹底的に清算すべく、陣營内の編成を組織部の確立に力を注ぎ、各員が組織者となるべき最大の努力をなさなければならぬ。これ

## 新潟支部活動報告

一、支部準備會組織年月と地方情勢 新潟地方の文學研究者並に文學愛好者に依つて發行されてゐる文藝雜誌「黒葡萄」に對し、プロ文學の影響を深めんと、一九三〇年七月に、積極的分子が二、三入り内部に戦線支部を結成し、更に雜誌名を「前哨」に変更した。これに對し「文戦」一派が、「黒葡萄」内の北川冷二を通じて、文戦の影響を深めんとした。この策動が判然と、講演會を開く事になつて現れた。この講演會の主催を、「黒葡萄」にやらせんとした策動に對して闘ひ、結局、「勞働」主催の下に講演會を開いた状態だつた。その後北川を除名し、新興作家同盟を結成し、その機關誌として「前哨」を發行したものであつた。大衆としては、二〇〇名以上を持つてゐるが、實際に労働者、農民には二割位しか入つてゐず、支部は全縣に十二も持つてゐるが、編輯方針の悪いため、大衆化せず、全農青年部より、支持の聲があり



讀者を獲り得たが、その後財政難と、官憲の弾壓により、一時發行の中止に到つた。斯くして、一九三二年七月に、新潟地方プロレタリア文化闘争同盟が組織されるや、全縣的の「前哨」支局讀者が加盟して、各文化團體の支局結成に向つた。八月に全協支部の暴壓を中心に、モツブル、産勞、文同の各團體がさらはれた。が、五月名稱を改へ、「軌道」として更に發行を續けて來たが、八月の暴壓は少々の編輯人がやられた。被害に止まり、發行を續けて來た。十月末に、一部(文同、産勞、モツブル)が釋放されるや、作家同盟の結成が、軌道の編輯者、並に文圖書記長等より提唱せられた。大串、鳴海、池田三名を以て、支部準備會の結成をして、本部に承認を申請した譯である。

そして、本部より、支部準備會として承認の通知が、十一月末日に來た。これを以て、支部機關を確立した。

二、その後の支部員の状態  
支部組織部としては、サークルの結成を關ひつつ、各地區の確立に關つて來た。そしてまづその地方に、一人の同盟員を獲得した時には、その同盟員を以て、地區準備會

を結成するを目的として來た。  
最初、地方雜誌の讀者を調査し、一方組合側と協力して、文學運動の働き手の獲得に専念して來た。

ために、十二月末には、柏崎地方に一人、新潟市に一人の同盟員を獲得した。勿論、柏崎地方には二つのサークルを持ち、新潟市の同盟員は一つのサークルを持ち、その指導的立場に立つて關ひ得る状態である。

その後、翌年一月に到り、直江津より一人の同盟員と新潟高等學校より一人の同盟員を獲得して、本部組織部へ提出してゐる。これで現在で、支部員としては七名となり、地區準備會として、直江津柏崎に持ち地區として新潟に持つてゐる所である。

- この七名の同盟員の階級別を示せば、  
無職——三名  
半農半勞——農村勞働者——一人  
小市民——手工業者——一人  
學生——一人  
勤人——一人  
三、支部員今後の獲得の見透しについて  
現在推せん準備中のもの  
小工場勞働者——一人 農村青年——一人

(二) 柏崎地區

日石柏崎工場、新鐵柏崎工場あるも、未だなし、

町工場と街頭のサークルである。——十三人

(三) 直江津町地區

混合サークル(文學)——通信、町工場  
小市民——二十人

(四) その他地方的に

- 長野市に  
混合サークル(文學)——町工場、鐵道  
從業員、街頭——三十人  
十日町に  
纖維産業——十四人  
高田市に  
混合サークル——町工場、運送店員、街頭——四十人以上  
村上町に  
混合サークル——町工場、街頭勞働者(土建にあらず)街頭——一二人  
新津町に  
街頭サークル——四十人  
燕町に  
混合サークル——町工場、街頭——一六人  
(ロ) 農村

龜田郷にて

農村サークル——青年、處女——四十人  
北魚沼郡にて  
農村サークル——青年——五人  
同——同——八人

岩船郡にて

農村サークル——漁夫の青年、農村青年  
炭燒——一人

中蒲原郡にて

農村サークル——青年——八人  
岩船郡にて  
農村サークル——青年——八人

(二) 街頭

新潟市にて  
街頭サークル——勤め人、無職——八人  
同——女子——六人

新發田にて

同——勤め人、小工業者——一二人  
(三) 學生

- 新潟醫學——四十人  
同 高校——三十人  
村上中學——二十七人  
新潟高女——四人  
その他全縣的に文新個人讀者が三十人近く散在してゐる。これ等に對してもサーク

- 學生——一人 書店店員——一名  
小市民——一名  
右五名は三月上旬にまで取纏めて、本部組織部へ提出する。

(イ) 通信員養成について、  
縣下に散在する文學新聞讀者、機關誌讀者に對して、サークルを結成せよ、といふ檄を出すと同時に近いサークルに連絡をとつた。と同時に、通信要項を作つて、通信運動を捲き起しつゝある。この闘争を通じて同盟員の獲得に向ふ方針、

- (ロ) 地方發行の同人雜誌、詩、文藝より同盟員を獲得する方針、  
(ハ) 工場農村には文學サークルを結成して、働き手を作る方針、  
四、サークルの組織形態  
(イ) 工場  
(二) 新潟地區  
a、「金屬」  
新潟鐵工所——六百名位の鐵工場に十八ほどのサークル  
b、「化學」  
日石——四、五〇人位——四、五人のサークル  
c、出版——手工業的小工場のみで、街頭サークル七、八人

ルの結成を進めねばならない。  
右の見透方針について

(イ) 工場について  
新潟市においては、いまだ全部が完全に作同組織との連絡がかけてゐる。これが清算されて行く時にはどしどし擴張して行く確實な見透しがある。これに對して、新潟地區各同盟が一つ産業を受持つてゐるんだが活動は餘りなされてゐない。

柏崎において、新潟とは違ひ、組合がないために、是非強化して行かねばならないが、働き手がないためと、方針が確立してゐなかつた點である。  
これに對しては、急に方針が確立されねばならない。

その他は餘りに大工場がなく、直江津に信越窒素(六〇〇)だけで、他の青海の電化工場(七〇〇)、二本木ソーダ工場(四〇〇)が上越地方にある。これに對しては上越地方が積極的になされねばならないが働き手の獲得と、サークルの結成などと追はれて方針が確立してゐなかつた。  
今度、更に進んで大工場にサークルを結成せねばならない。このためにサークルの強化を關ひ働き手の發見に主力を注ぐ事が



前提条件とならねばならないのである。斯くして、確實な方針が樹立されるものであらう。

その他各町村における、小工場（十人より二、三十人）までの工場には、手がついでゐる。だがこれは、職場内のサークルでなくて、街頭に出た、混合サークルである。これは、直ちに、職場に作ろうと方針は確立してゐるが、いまだ實踐に移されてゐない。

街頭サークルは、小工業者の伴に勤め人が多い。

(ロ) 農村  
全農青年部が参加してゐるサークルは中浦であつた。他全部は、大體に未組織青年である。

殊に龜田町においては、組合さへない地方である。サークル員の層は中農層以下である。これは、龜田町全體に及んでゐて、(部落には一人、二人で)全體には擴大しつつある。因に機關誌「裸」の發行部数が一〇〇から、二〇〇と、進んでゐる状態である。

常設部では、全部が農村労働者であり、二十才以下だ。これが、新潟縣北部の漁村

製中  
3 「建國祭文集」「總選挙文集」を作

に發展する見込は充分にある。

(ハ)新設田に於けるサークルは、近村の農村青年として包含してゐるのでやがては農村に擴大する見込がある。

A サークルで機關誌を持つてゐるサークル  
發行部数  
新潟町——名稱不明——一五〇  
直江津町——舟小屋——二〇〇  
龜田町——裸——二五〇  
村上——むらがみ——一〇〇  
柏崎——大地——一五〇  
新潟——軌道——二〇〇  
B サークル全員数(ほぼで確實でない)  
三七、八〇人位

内 農  
労働者——七〇人ほど(小工場が多い)  
農村青年——六九人ほど(中農以下)  
農村労働者——一四人ほど(漁業、炭焼)  
一般使用者——八〇人ほど(勤人)  
學生——一〇〇人ほど(大學、高校)  
街頭——五八人ほど(失業者多数)  
五、文學新聞、並に「プロ文學」の配布状態  
(イ) 配布部数

4 總選挙に對しては、他文化團體と同で、サークルの強化を圖つた。

(イ) 同人社団の所在を調査部と協力して調査して、それへの働きかけに方針を立てつゝある。

(ロ) 農民文學委員會について、十二月中に農民文學委員會を作つたが、いまだ何等の働きもしてゐない。

六、地方情勢と支部當面の任務

新潟市 一一五部  
村上 二〇部  
新津 二〇部  
龜田 一〇部  
長岡 三〇部  
直江津 二五部  
柏崎 二〇部  
高田 四〇部  
その他個人讀者三〇人近し

(ロ) 配布状態  
各町村ともサークルに入れる  
大體「文新」係が全縣的に統一してゐる。  
(ハ) プロ文學の配布状態  
新潟 十四部  
柏崎 二部  
直江津 二部  
高田 二部

同盟員、或は、同盟員になり得る人に配布す。  
二、創作活動  
(イ) 創作活動は極めて不振と云つた方がよい。  
原因として  
(一) 機關誌のないこと、  
(二) 一般に創作活動に關する計畫的作

一、農業恐慌に結びついた恐慌は、我新潟縣下における重要産業・化学工業その他、金屬には首切、工場閉鎖を以て労働者階級に攻撃して來た。これに對して、常に逆襲にストを捲き起してゐる全協、新潟支部の存在に恐れられた奴等は八月五日には全協を中心にもツプル、文闘、産勞の各團體を破壊にとりかかつた。だが、暴壓は組織を擴大した。

今は、全縣的に地區確立して大工場に根を移してゐる。  
工業労働者の首切り回りでそれだけでなくさへ窮乏してゐた小作人貧農は更に倍した窮乏に追はれて圓は進んでゐる。因作恐慌は、農民を全面的に驅り立ててゐるが、勞農民衆黨の稲村、石田、三宅の紳士諸君は手に泥のつかぬ様に、町から農民に指令してゐる。

「地主も困るのだ」とだが、全農全國會議派の手が、農民の間に起されて奴等の地盤を切崩して「これでは一と奴等が一案を出したのが、一月八日の全農全國會議派の闘士を十数名檢束していまだに取調でもせずにある。だが、右翼農民組合たる北日本農民組合の合同により倍加した組織力で今は



更に下越農民協會の農民に、未組織農民に働きかけねばならない、重要な時期だつたのだ。

だが、全縣的に農民委員會の確立が叫ばれ、聞はれて農民のイニシアチブが發揮せられてゐる。

だが、いまだ二〇萬の農民十二、三萬の貧農小作人に對して僅かな二、三千の組織でしかあり得ない。労働者においてはほんに僅かな組織だ。今や帝國主義競争が滿蒙に聞はれてゐる。これをブル共はあらゆる機關を動員して——滿蒙權益ヨウゴ同盟を在郷軍人分會、村會を通じて強制的に作らしめてゐる。又は縣知事小幡は、愛國宣傳をブル新聞に書き立ててゐる——労働者農民を偽備してゐる。

縣下にある多くの文學雜誌——數は六〇位——は今や、奴等の宣傳に乗じてその讀者を無意識的に教育してゐる。

その中には多くの労働者農民小作人、一般使用人の子弟青年が組織されてゐる。

これ等、労働者貧農小作人、並に文學愛好者に對して我々は勢力的に文學活動を通じて、反帝國主義競争のアジプロ、並にファシストに對する闘争を遂行し、組合の擴大

義的なものであつた事をハッキリ示してゐると云へる。

我々は、我々の組織内におけるかゝる非政治的文化主義的傾向と極力闘つて来た。それは、岡山地方における一般大衆の、革命的な文化への要求の高揚と相まつて、わが支部の活動を、街頭的なものより、工場・農村を基礎とする實質的なものへと發展させた。

而し乍ら、後半期における急激なるサークルの増加と共に、我々は、サークルの指導において著しい立おくれを示した事は否めない事實である。亦我々は、其頃より知らず識らずの内に、政治主義的傾向に落ち入り始めてゐた。それは、創作活動が、計畫的に、組織的に充分なされなかつた事を以つても言へる。

以上の我々の持つ、誤謬なり缺陷の大衆的な批判がなされ、各部門の立ちおくれに對する取戻しの爲めの活動が現在なされつゝある。

### 組織活動の成果について

組織活動は上述の偏向を示してゐる。とは云へ擴大中央委員會以後の、活動につい

強化をも圖ひつつ作家同盟新潟支部準備會を擴大強化せねばならない。

方法としては、農村事件は直ちに捕へそれを創作活動に移して、それを讀んで聞かせ或ひは刷つて配布し、直ちにサークルを作る。サークルの座談會においては通信文の書き方を通じ通信員の養成、これを通じて自己の部落の有様を書かせる、それをサークルで批判し會ふとして、同盟員を獲

得して行く。

と同時に文學新聞への觀點を高めると云ふ方法を今實行に移してゐる。

工場に於ては、プリント刷りの文學雜誌を發行して、それを方法としてサークルを作る、後は農村も大體に同じ。

各サークルにも、時々起るところの闘争に文學の話と交互的に座談會をやる。

## 岡山支部活動報告

### 一般報告

一九三一年九月、丁度、我々の陣営内に於いて、新しく正しい組織方針及び創作活動における方法論がやうやく、實せん化され始めた、我が同盟の轉換期に際して、わが岡山支部は、準備會を持ち、支部結成への準備活動を始めた。

だが、其頃の我々の組織は、構成分子の大部分が、農民及び街頭分子によつて占め

ては支部は、大體においてこれらの偏向を正しい、具體的な方向に向ふべく努力したといひ得る。

九月上旬（支部準備會をもつた）より二月下旬に至るまでを二期即ち、

一、一九三一年九月より十一月末まで  
二、一九三一年十二月より一九三二年二月までの上半期、下半期に分ける。

最初に支部員の増加状態について述べる。同盟員倍加運動においてボルシェヴィキ的テンポが要求せられたにもかゝらずしかもなほ支部活動のモメントである同盟員の不足は「立ちおくれ」の最大のものである。しかも組織企業が多い特殊な情勢にあつて、婦人同盟員の除外は大企業への働きかけの消極性と同様強く批判されるべきである。

同盟員の増加状態についての統計を我々は次に示す。

上半期、十人（中農二人、貧農一人、労働者二人、小市民五人。）  
下半期、十四人（中農三人、貧農二人、労働者五人、小市民四人。）  
即ち上半期においては街頭分子のサークルの如き形體をとつてはるたが、當時にあ

られて居た爲め、我々の好い意圖にも不係自然街頭的になつて居た。新方針を生かすには、組織が非常に消極的だつた。此の事についてはその他の最も大きな原因としては、我々が大企業の中にサークルを持つて居なかつたからだと云ふ事が挙げられるだらう。之等の事は、其當時發刊された、當時の我々の機關誌「文藝街」にも現はれてゐる。即ち「文藝街」の持つ、サークル色彩は、我々の組織が非政治的で、文化主

つて地區別組織から成長した、同盟員もあつたことを見逃すことは出来ない。現在にあつては組織部は地區別に編成され各地區責任者は地區オルグ會議に結合されつゝある。一九三一年十一月末までの統計をあげれば、

- 文學サークル數——六
- サークル全員數——五一
- サークル内文學新聞讀者數——五一
- 同「ナツア」讀者數——五「不詳」
- これを産業別に見れば
- 農村二、街頭二、官廳一、電氣一
- 更に、それは、二月末に於ては次の如き發展として現れてゐる。
- 文學サークル數——四四
- サークル員數——三四三名「女三一一名」
- 文學新聞讀者數——三〇八名
- プロレタリア文學讀者數——四〇
- 産業別にこれを見れば
- 農村——十七

即ち上半期に於ては街頭の分子のサークルの如き形體をとつてはるたが、當時にあつても地區別の組織から成長した同盟員もあつたことを見逃すことは出来ない。現在にあつては組織部は地區別に編成され、各



地區責任者は地區オルグ會議に結合されつつある。

サークルについて

上半期にはこれを産業別に見ればサークル数は

農村二、街頭二、官廳一、工場一、街頭十官廳一、織機二、食料一、交運二、大商店一通信一、電氣二、學校六、

以上、十一月末から六三〇パーセントの急激な増加であった。これらの發展は文字通り飛躍的である。然し我々は尙この數字の中から多くの「立ちおくれ」を發見することができる。

第一に、この急激な發展にも拘はらず、重要産業、大企業の組織率が學校街頭に比して低いことである。これらは我々が目標工場を定めたのみで計画的に實踐に生かすことをしなかつたことによる。しかし、現に我々は過去の決議のみに止つたこれらを今や「火の實せん」によつて應じてゐる。

第二にサークルの政治的な教育の立ちおくれ、このことはサークルを單なる動かぬ教育にした政治主義と闘ふこと同時にレンタクの不統一となつて表はれる。我々はサークル員の教育を飽くまでもレーニンの段

階の上に立つた政治的、文化的指導となすべく努力してゐる。

第三、政治的カンパニアはサークル内に

比較、活潑に反映されたが、その成果を批判しなかつたし、従つて、革命組織の貯水池とする爲の努力を充分ななかつた。

第四、岡山地方に於いては織機の如き婦人労働者の大半を持つ企業が多くあるにも不係婦人労働者のサークルが二、三にとどまり、従つて、婦人同僚員の除去を見た。これらも今やこの「立ちおくれ」に對する取戻しが急激になされつつある。

### 二、創作活動についての報告

一九三一年十月上旬我々は機關誌「文藝術」を發刊した。だが、これに發表された作品の大部分は、技術的にもイデオロギー的にも非常に程度の低いものだった。勿論これらの作品に對して一般大衆よりの激しい批判に答へるべく誌名を「前線」に変更し創作活動を組織的に、計画的にやる積りで居た處、財政的窮乏と、サークルの組織活動の多忙さに追はれて遂今日にまで發行しないのである。だが、それまでに支部員の創作活動が全然なされなかつたかと云ふ

と決してさうではない。三四の支部員は非組織ではあつたが創作活動をやつてゐた。

我々は近々の内に支部機關誌を發行する事を計畫してゐる。われわれは支部機關誌を持つ事によつて創作活動に於ける立ちおくれを取戻すであらう。勿論この事は革命的技術、及びイデオロギーの高揚と云ふ事を意味するものではない。

### 三、教育活動についての報告

われわれは、教育活動においても著しい立運れを云はねばならぬ。前半期に於いては、それは殆んどなされなかつたと云つて好いであらう。教育部の確立はわれわれの急務であつた。そしてそれは委員會を持つ事に問題に上つた。そして、研究會を持つ事サークル組織の爲めの正しい認識のタメのパンフレット作成、等々の事が決定された。にも不係、實踐においてそれは闘はれなかつた。

われわれは今や情勢の切迫と革命的昂揚に際してレーニンの段階の上に立つてハツキリとした黨派性教育の實せん努力しつゝある。

### 四、企劃活動についての報告

一九三一年十一月二十三日にプロキノと共同で「プロレタリア文學と映畫の夕」を持つた。だがこれは、種々の點において成功であつたとは云はれなかつた。此日に動員された数は、約五百名で、その内労働者二百三十名、一般學生二百五・六十名であつた。

其後プロキノ移動映寫隊と共に移動講演をやつて農村を廻つたがこれも成功だとは云はれない。これに動員された總數(何れも農民)四百五十名程だつた。

現在われわれは、支部機關誌を計畫してゐる。

### 五、財政活動についての報告

財政活動は、何處でもがそうであるやうに非常に不活潑であつた。「イ」支部費納入が非常に不活潑で、殆んど支部費が納入されなかつた。「ロ」當然支拂はれるべき、各種出版物に對しての支拂が充分行はれなかつた。等々の事が非常に財政部を不活潑にした。亦、財政部の者が、それだけを専任にやつてゐる組織部や他の部門を兼任して

ゐたことも財政部を不活潑にした原因として上げられるだらう。

われわれは財政部確立の基金カンパを一九三二年一月にやつたが、集つた金は一圓に足りない金額だつた。われわれは財政部確立を「1」、維持員を持つ事「2」、各種出版物に對する支拂を活潑ならしめる事「3」、サークルの増加により、基金カンパに積極的に動員さす事を目標として闘ひつゝある。

### 結 語

以上がわれわれの過去半年における活

動の概括である。

われわれは現在の革命的情勢に答へるには餘りにも多く缺陷及び、立ちおくれを持つてゐる。それは、組織活動及び、創作活動において、甚だしい政治的立ちおくれを示してゐる。しかし、それらは急速に恢復の道程にある。

われわれのこれらの缺陷にも不係、新方針は最も現實において、正しいものであるを示す。

われわれは明日の勝利の旗を固く守るものである。

## 青森支部準備會報告

### 創作活動報告

準備會結成後日が浅いので、まだ見るべき創作活動はない。主に「座標」を中心とした活動は左記の如し。

渡谷悠藏 評論七篇、創作一篇、雜文二

篇、

玉澤鐵男 創作二篇

進藤 隆 創作一篇、時評二篇、評論一

篇、

新岡彌藏 隨筆一篇

山川吉男 創作一篇







關誌として發行されたものであるが、種種討議の結果、青森支部準備會機關誌たるを廢して、ここに座標社といふサークルをつくり、そのサークル發行の雜誌とした方がより今後の活動を進展させ得るとなつて出來たのはこの座標社である。

○座標社構成メンバー

◇決定的座標讀者メンバー

小商人	十八名	學生	一名
失業者	五名	職業婦人	二名
店員	一名	農民	十一名
労働者	五名	教員	七名
官吏	十名	坊主	一名
會社員	十二名	他	十三名
計	八十六名		

座標社維持會員

官吏、二名 小商人、五名 會社員、四名 農民、三名 失業者、一名 店員、一名 教員、一名 他、一名

計 十八名

座標社維持會員中作同員六名あり。◇座標發行部數二百冊、殘毎月十冊程度故に座標社は廣汎なる構成メンバーになる。然し何故にかゝる廣汎なるメンバーのサークルをつくる必要があるかと云ふと、

報告の會」は甚だ好結果だつた第一回の開催に關する具體的な考案はまだ未定だが、「フアツショ」に付いて「恐惶」滿州問題」等を中心になすべく内定。

B カンパニアとしての催

1 三レデーカンパの爲のもの

「凶作地視察談」壹月十五日。

西北郡視察状況を同盟員淡谷修蔵報告その調査、救済法の階級性を暴露す集會者二十三名。

プロレタリアの救済はプロレタリアの手による外なしの結論に至り帽子を廻せしに一圓一八錢集る。勞救青森地方準備會へ廻す。

2 「藝術講座」一月二十日より七日

間

参加延人員九十八名。

成功とはいへぬが参加者に對して同盟の活動方針、組織、その正しさを認知せしめた點と此後の倍加運動の爲には無駄とはいへぬと思ふ。

全會費の支出金差引殘金一圓貳拾錢勞救青森地方準備會へ廻す。

3 講演會

大宅壯一氏の來青を機に作同青支準備會

縣全體に亘つて座標或は文新等のある町村には一人或は二人三人と云ふ讀者がある時にその讀者間の連絡機關としての役目を果たすサークルを吾々は必要とするからである。雜誌「座標」はその爲にその讀者間の連絡機關となり、作品發表機關となる。そして吾々はこの機關を通じて、或は座標に依り、文新に依り廣汎なる地域に亘るそれら讀者に對して、各自がその地方別に職場別に文學サークルを結成させるべくはたらかかせるにはこの様なサークルを必要とする。現在「座標」を通じて下北郡大畑村に十五人のサークルが出来かゝつてゐる。消費組合書籍部はすでにこの村の世話役へ十五部を今月より發送してゐる。

ハ、機關誌、文學新聞の配布状態

吾々は同盟の機關誌及び文學新聞、並びにコッパ加盟團體の諸雜誌の配布掛りを青森消費組合書籍部にやらせてゐる。

左の調査書は一九三二、二、一〇迄の消費組合書籍部の全雜誌の配布表である。

プロ文學 一五部

文學新聞 八〇部

目下どしどし増加率を高めつつある。

主催で開催す。聴衆五十三名。

宣傳のきかぬ聽衆者の數においては成功ではなかつたが、その聽衆者の殆んどが救済會に積極的に参加し、又作同活動に助力し出したのを見る時は成功といひ得ると思ふ。

此後各カンパニアに應じて集會を催す。

決定せし集會は

1 三、一五、三、一八の爲に「辯證法研究會」期間一週間。

一般参加者を募集。

2 四、一六の爲に

「フアツショ」に付いての討論會。

これを機にこの會を毎月一回開催に決定す。

財政部報告

目下準備會では同盟員に推せんした者六名より月十錢の會費を取り立て、通信費その他の費用に當てゝゐる。その他

常準備會財政部の重なる仕事としては文學サークル「座標社」の會計がある。

之は常準備會出版部の仕事として座標出版をなしてゐるので、いきはひ其の會計を取り扱つてゐるのである。

### 教育部活動

A 定期集會

1 創作の會

組織 會員組織

資格 何らの制限條件を設けず

但し原稿一編提出さす。

目的 創作及文學に關する研究。

此後は政治經濟一般問題に關する論文及び研究發表の機關となすやう考究してゐる。

様式 創作或は研究論文等の原稿を綴じて會員に廻覽し月一回集會してその批判をなす。

現在會員は十名 主に創作(小説)多く作

同準備會同盟員の全部が創作の會によつて

育れた。凶作救済運動等の多忙のため昨年

十月以後集會をなさず、原稿も僅か一、二

編なるも四月一六日カンパニアとして更に

擴大活動すべく準備中、責任者として同盟

員進應陸を置く。

2 討論會

同盟員間に毎月一回公開にて一般時事及

日常問題を中心に討論會を開く案あり、座

談の形式にて何人も來會し得る様心掛く、

試みになせし三レデーカンパの「凶作調査

「座標」は目下二十名の維持會員を持ち、

月額五十錢の維持費を出してゐる。この納

入成績は殆んど八十五パーセントの成績で

あり、その他一般サークル員は八十五名あ

り、之等の人々に、雜誌座標を一部十五錢

にて配布してゐる。雜誌座標二百部約二十

五六頁の印刷費は約十五圓であり、之は維

持費及びサークル員の誌代納入により支辨

するものであるが、目下のサークル員の誌

代納入は餘り活潑ではない。

即ち今迄(昨年十二月より二月まで)の

納入成績は約三十パーセントであり、従つ

て印刷費その他の雜費に對する支拂不足額

は、青森消費組合よりの借入金による。現

在の借入金は十圓餘りである。然し、今年

五月までには、之等借入金を辯済し、財政

の立直しをなし得る見込充分である。その

後に於ける利益金は、之を作同支部準備會

の基金とし、又は事務所確立の資金に充つ

るものである。

尚目下座標サークル員の誌代取立に奔走

してゐる。



# 兵庫支準活動報告

一、組織活動  
 イA支部活動部門  
 中央委員 寺田  
 委員長 寺田(宇田、小野、邦北、達井、谷川、池田)  
 書記長 足立(宇田、増田、寺田)  
 組織部長 達井(足立、宇田、關、谷川、邦北)  
 教育部 寺田(寺澤、阪本)  
 財政部 谷川(小林、山崎)  
 出版部 池田(田中、小野)  
 調査部(山下、小林、邦北、古月、寺田、達井)  
 文新機關紙部 達井  
 支部機關紙部 小野(邦北、吉田、池田、山下、小林、田中)  
 農民委員會 邦北  
 婦人同 小林  
 少年同 谷川  
 (文化聯盟兵庫地方の委員は省く)  
 B増員 山下、谷川、小林、關、池田、阪本、東田、増田、古月、村上、寺澤、端、森本、作花、中野

C減員 柏田、白濱、鎌倉、兼近、竹内、阿部、秋山、石田、後藤  
 (現在二十二名)  
 ロ、サークルの組織状態  
 神戸東部地区 交運一ツ 五名見込ミアリ  
 小工場一ツ 五名  
 街頭A 四名  
 B 六人  
 C 五人  
 神戸中部地区 街頭A 三人  
 B 八人  
 神戸西部地区 大工場A 十人  
 B 同  
 中工場A 十人  
 B 二十人  
 C 四人  
 D 四人  
 E 十人  
 F 十人  
 G 十人  
 H 二十人  
 アリ アリ アリ アリ アリ アリ アリ ナシ アリ アリ

神戸海上 街頭A 二十人  
 神戸港灣 街頭B 五十人  
 淡路地区 学校一ツ 四八  
 二十人  
 六人  
 八人  
 豊岡地区 街頭五十人  
 街頭四十人  
 街頭十五人  
 西宮地区 中工場一ツ二十人  
 (二七サークル三六九人)  
 ハ、A文新配布網——現在本部が文新を送らぬため、配布網瓦解の状態にあり。今日文新意納分の二割は送った。  
 神戸東部 街頭 一五〇 工場 不明  
 同 中部 同 一〇〇  
 同 西部 工場 一三三  
 姫路地区 不明 一七  
 淡路地区 農民 三六  
 労働者 四〇  
 學生 一〇  
 不明 四〇  
 豊岡地区 B、プロレタリア文學 四〇  
 神戸東部 工場 八

同 西部 同 十六  
 同 中部 街頭 二  
 淡路地区 農民 二  
 労働者 二  
 學生 一  
 街頭 一  
 姫路地区 二、創作活動  
 A 文學新聞 小野、寺田、邦北、鎌倉、ナツバ服、足立、兼近、竹内、加藤、石田、寺田、小林、田中、柏田、鎌倉、達井  
 C 社會民主主義文學集 吉田、竹内、達井、柏田、創作十人、理論二  
 三、教育活動  
 A 研究會 イ、藝術運動の組織問題  
 ロ、文學のポリシエヴィキ的黨派性のために  
 B 座談會イ、三Lデー(全サークル動員)  
 ロ、新人會(文藝座談)  
 G 持ち込み イ、映畫従業員組合  
 ロ、長キ、メリヤス  
 八、六甲バス  
 四 企 劃 活動  
 イ、日本プロレタリア文藝講演會(本部巡回による)  
 ロ、ナツバ服創刊  
 ハ、日本プロレタリア文學

五、兵庫地方の特殊状況と支部の活動任務  
 我が國重要産業の密集せる地帯の一として、又貿易港神戸を擁する我が兵庫地方は、今、戦争とファシズムの危機に直面して確に各企業は、猛烈な活動を續けてゐる。戦争に相因果して生活必需品及び、軍需品の生産の爲に縣下三千八百八十四工場が特に動員されてゐる。  
 我が支部のサークル活動は各大企業の中にほとんど侵入してゐない。  
 日本毛織、日本染工、神戸製鋼所、川崎造船所、大同燃寸、神戸市電、川崎車輛、川崎飛行機、三菱電氣、三菱造船、豪澤製糖、ダンロップ、若林酒造、日光精米、日本製粉、日本紡績、日本麥酒、國勢肥料、多木肥料、日本電力、阪神電、阪急電、宇治川電、日本酒造、西宮酒造、長馬酒造、長野酒造、ベルベツト石鹼、山邑酒造、嘉納酒造、森永製菓、麒麟麥酒、製鹽場、生野礦山、そして、姫路篠山の兵營、大阪商船、日本郵船、海上、港灣以上大企業を擧げたが、わが兵庫支準は當面の活動任務を組織網開拓に重點を置いて、以下の主要任

務を掲げる。  
 一、文學新聞の活用  
 一、ナツバ服の發刊  
 一、以上によるサークル開拓とその計畫的指導  
 一、重要産業大工場、神戸海上、港灣に特殊な呼びかけをすること  
 一 各工場では、文新の評判が非常に高い今文新が到着すれば、文新は燧石に水をまくやうに配布されるだらう、さもなくば文新の配布網は瓦解してしまふか、非常にせざるだらう。  
 二 ナツバ服の宣傳ピラを縣下に一萬枚ほど散布して、隠れたるプロレタリア文學愛好者を吸収する。それは、兵庫地方におけるプロレタリア作家の統一戦線を築き、大企業内のサークル建設の第一歩を印する事を意味する。之なくして日本プロレタリア文學運動の兵庫地方における全體的参加を實現し得ないのだ。  
 三 兵庫地方支準は、特に重要産業大工場神戸海上、港灣に向つて突撃隊を結成してやる計畫だ。



## 山梨支部活動報告

### 一、組織活動

(イ) 支部員 (十五人)

(ロ) サークル組織状態

工場、農村、街頭共發展見込あり、  
官制青年團處女會への働き掛けサークル  
設立準備中

職業別 個數 メンバー數

工場 人員六百名 一 五

農村 三 三十

街頭 二 二十二

(ハ) 機關紙

プロレタリア文學十部「サークル員一部」

支部員、サークル員、配布、

文學新聞配布状態

職業別 部數 吉田地方と

工場 二十五 の連絡なく

農村 五百七十五 文新配布状

街頭「小市民」 五十 態不明

合計 六百五十

注意 農村の文新は全農青年部の線に沿

ひ未だサークルとしての支部統制下になき  
もの徐々にその方面を取りつゝあり。

### 二、創作活動

支部機關紙三月號創刊發行豫定「準備中」  
未組織大衆啓蒙及びサークル機關紙

農村地區二ヶ所に於て發行

『傾斜地・前線』

### 三、教育活動

支部員に依つて研究會を持つべく準備中

### 四、企業活動

サークル擴大強化への社會主義競争

1 『同盟員は二ヶ月に三名以上のメン

バー獲得

2 『一人は一つ以上のサークルを作れ

### 五、財政活動

東北地方凶作地救援カンパを起し募集

中、

同盟費 都市——月三〇錢

農村——月米一斗以上

文學新聞代拂込の革命的競争。

## 山形支部活動報告

### 一、組織活動

(イ) 支部員の増加状態

現在の所十人です。集積可能なだけ集積し  
た形なので今後の支部員は新しく養成しな  
ければなりません。

(ロ) サークルの組織状態

七百人の工場に、一ヶ、メンバー二十五名  
發展の見込みあり。

十人の工場に一ヶ、メンバー十人

當分なし

(ハ) 機關紙 十部。

文學新聞、三十五部。——支部員、サーク  
ル員の有志、世話役等に配布してある。

### 二、創作活動

現在の處、支筆を強固にし、統制のとれた  
ものにするために、活動中なので、創作活  
動出來得ずにある。五月に支部機關紙出版  
する豫定。

### 三、教育活動、なし

### 四、企業活動、なし

### 五、財政活動、なし

六、重用産業の大工場にサークルを組織  
すべく努力してあるが、手がかりないため  
に組織出來ずにある事と、商店か小工場に  
働いてある又街頭的な文學愛好者を組織づ  
けずにある。等のために、文學クラブを作  
つて大工場、小工場、商店、等に働いてあ  
る人達を参加させて、参加して來た人を通  
じて、工場の中にサークルを組織して行く  
考へです。そして最後に文學クラブに残る  
ものは街頭的な入達で、これらの人達を街  
頭サークルになす考へです。

### 六、地方特殊状態とそれに対する支部

當面の活動任務に就て

(一) 現山梨に於ける全農は當局の不當  
なる彈壓に依つてその組織はカイメツセン  
としつゝあり。かゝる現段階に置いて支部は  
全農青年部と未組織大衆への交互的働き掛  
けをはかり、サークルの擴大及びメンバー  
の獲得にその再建を助力し組織の擴大強化  
をはかる。

(二) 甲府を中心とする交通労働者、學  
生生徒間のサークル設立。

(三) 織維工場への文學新聞持込、サー  
クルの設立。

(四) 社民勢大及び地方無産團體の國家  
社會主義に對する轉向への決定的闘争。



## 議案

### 戦争の危険と革命作家の任務に關して

一、世界帝國主義戦争の新たな危機

一九一四—一八年の世界戦争は、一千萬人の戦死者と、一千二百萬人の廢兵と、數千億の財貨を消費した、人類の歴史始つて以來の未曾有の酷烈な、大規模の戦争であつた。全世界の汎ゆる勤勞大衆は此の戦禍に投げ込まれた。だが此の戦争は、大衆に戦争の悲惨さ、残忍さ、破壊性、恐怖性を極度に教へ込んだが果して戦争を絶滅することが出来たであらうか？ 人類は永遠の平和を要求してゐる、諸國家は國際正義に則らなければならぬ——と云つて國際聯盟が結成され、軍備縮少が問題とされ、不戦條約が締結されてゐる。それにも拘らず、新しい戦争の危機が、今や吾々の目前に迫り來つてゐる。

帝國主義が廢除されない限り、その政治的暴力的形態たる帝國主義戦争は絶滅されるものではない。一國のブルジョアジーがブルジョアであることをやめるのは、第一にプロレタリアートに屈服するか、さもなければ他國のブルジョアジー

帝國主義戦争の不可避性は、帝國主義自身の體系の中に存してゐる。資本主義はその發展段階として所謂獨占資本主義の様相を示し、地球の殆んど全體が植民地、半植民地に於いて、財政的搾取の無數の系で獨占資本家に分割されてゐる。だが各國に於ける獨占資本主義の急激な發展、國際的體系化にも拘らず、自由は放棄されて「支配」のための無政府状態が支配してゐる。

殊に國家權力が公然と少數金融ブルジョアジーの執行委員會化し、國家の經濟政策は大ブルジョアジーの意志によつて決定され、資本の輸出が直ちにその掩護物としての軍事的政治的組織を持たねばならず、關稅政策、國債等が重要な政治となり、資本の競争は武裝した力の競争による以外に方法がなくなつた。

「しかるに資本主義の下において個々の經濟及び國家的發展は不平均である。この不平均的發展の法則は地球上に於ける經濟的平衡を破壊する。衰滅するものは恢復せんとし、新興するものは一層強まらうとする。世界の新分割が必然となる。

世界の新分割を決定するものは武力だけである。今や武力のみが解決者である。慘憺たる關稅戦争に歸結を與へる者も原料市場、資本及び商品の市場の争奪を決定する者も、何國のブルジョアジーが植民地奴隸の餘剩勞働の搾取者たるかを決定する者も、經濟的方法ではなくて、結局は武裝の威力又

に屈服するか、それ以外にない。屈服は戦争を通じてのみ強行されるのであり、平和に屈服する筈がない。資本主義とは生産手段の私有並に生産の無秩序を意味する。かういふ基礎の上に收入の「公平」なる分配を説教することはブルードン主義であり、小ブルジョアの及び俗物馬鹿話である。權力に應じて分配する以外に方法はあり得ない。そして權力關係は經濟的發展の進行と共に變化する。一八七一年以來ドイツはイギリスやフランスよりも三倍も四倍も急速に力を加へた。そして日本は——ロシアよりも十倍も急速に。資本主義の實力を吟味するには戦争以外に方法がないし、またあり得ない。戦争は私有制度といふ基礎に反抗する矛盾でなく、この基礎の直接、且不可避な結果である。資本主義の下に於ては、個個の經濟及び個々の國家的發展が、平均的に増進することは不可能である。資本主義の下に於ては、時々破壊される平衡を再建するに、産業に於ける恐慌と政治に於ける戦争以外に方法がない。(註)

註 レーニン「戦争と社會主義」邦譯一七二—一七三頁

は戦争の脅威である。

戦争は戦前の政策の強力手段を以つてせられたる繼續にほかならない。帝國主義の政治の本質は世界再分割のための闘争である。この政治は破壊されたる平衡を恢復するために戦争となつて爆發する。戦争なくして帝國主義を考ふることはできない。(註)

註 佐野學著「國家論・戦争論」二三八頁

而も今や第二回の、新しい帝國主義戦争の必然的モメントが次の如くに定式化されてゐる。

- (1) 生産設備の擴大の可能性と大衆の購買力との間の激しい不平均の増大。
  - (2) 國內の小ブルジョアの零落及び勞働大衆の窮乏化を代價とする莫大な資本の蓄積、國家資本主義の形成を通じての寡頭金融貴族の專制の増大、従つて國內階級闘争の激化。
  - (3) ソヴェート同盟の世界資本主義體系からの脱却並に植民地の産業化と覺醒とによる資本主義の世界的均衡の一層の動搖。
  - (4) 資本主義發展の不平均性の尖鋭化と世界再分割のための闘争の激化。
- 第二、國內政治過程に於ける矛盾の尖鋭化。  
(1) 階級闘争の激化。



- (2) 軍備の發狂的増大。
  - (3) 反動政治の勃興、ブルジョア獨裁の尖鋭化。
  - (4) 日和見主義と革命主義の對立の激化。
- 第三、國際政治過程に於ける矛盾の尖鋭化。
- (1) 小國家の大國家への隸屬、少數大國家の世界支配。
  - (2) 大國家間の勢力均衡の破壊。
  - (3) 軍備競争。
  - (4) 一方ソヴェート同盟、ソヴェート支那と他方帝國主義諸國家との二大對立の激化。
  - (5) ソヴェート同盟攻撃のための帝國主義十字軍の結成と對支干涉の表面化。
  - (6) 資本主義國家内の労働者大衆と植民地被壓迫民族の民族解放戦争とソヴェート・プロレタリアートとの接近。

二、滿洲侵略、中國分割戦争の本質

だが今や吾々は、新しい世界帝國主義戦争が日本帝國主義の滿洲占領戦争によつて點火されつゝあることに直面してゐる。戦争の危機に對する闘争は、今や現實の戦争の突發、進行、展開によつて、戦争そのものに對する闘争に發展しつゝある。

滿洲占領戦争は、ブルジョア地主の政府や軍部が「權益擁護」とか「暴戾無道の東北軍憲の挑戦に對してやむなく執つた自衛手段」であるとか「正義人道を擁護すると同時に無こ

ゐる。

革命的プロレタリアートは、戦争反對に關するコミンテルンの決議を精力的に實行し、日本の労働者農民をして中國の労働者農民、そのソヴェートと赤軍を支持せしめ、中國プロレタリアート及び國際プロレタリアートと提携して、自己の解放のために、中國革命とソヴェート同盟擁護のために、労働者農民大衆を覺醒させ、組織してゐるのである。

三、反動文學の重要性

此の占領戦争を正常化するために、帝國主義ブルジョアジイは戦争の宣傳煽動を猛烈に行ひ、その組織的軍事的動員を百パーセントに昂めてゐる。青少年團、學生、處女會、在郷軍人團等々は戦争のための動員組織として計畫的に動員されてゐる。

滿洲侵略、掠奪、中國分割の帝國主義的の必要を合理化するためのピラ、パンフレット、出版物等が洪水の如く溢れて、到る所で軍事講演會、演説會が開催されて戦争が煽動宣傳されてゐる。一切のブルジョア新聞、報導機關はこの真相を嚴重に掩ひ隠して、一切の紙面をブルジョアジイの利益に奉仕してゐる。

社會民衆黨は公然と「祖國擁護」を呼び、シヨールビニズムの本質をサラケ出し、全國労働大衆黨も又此の戦争の帝國主義的性質を隠蔽して、積極的に戦争に賛意を表してゐる。一

の國民を救つてその生活福利を増進」するとか、美辭巧言をふり撒いてゐるにも拘らず、實はこの戦争によつて、日本のブルジョアジイは、外國領土を奪取し、完全に植民地化し、ソヴェート同盟への干渉のための必要條件を創り出し、中國革命を壓殺し、更に日本の労働者農民を戦争熱で満して、行詰つた日本資本主義の必然的結果たる失業と飢饉と飢饉の災難と苦痛から、その注意を逸らそうとしてゐるのである。これが日本帝國主義ブルジョアジイの眞實の意圖である。

かうした侵略的掠奪的性質を掩ひかくす爲に、汎ゆる新聞通信機關や帝國主義的組織から、左翼社會民主主義に至るまでの組織の中で、戦争の眞の原因を陰蔽し、當の中國を中傷、ザンブルし、排外主義的宣傳を行ひ、×××と戦争に對して、失業と貧困に對して、米と土地とに對して、資本家地主の政府打倒のために闘争する労働者農民大衆に對して、極度の野暮な彈壓を以つて攻撃してきてゐる。

吾が革命的プロレタリアートは、この重大なる歴史的瞬間に於て、汎ゆる手段方法によつて、戦争の眞の原因と目的を暴露し、ブルジョアジイ、社會民主主義のデマゴキの宣傳をバクロし、戦争の責任が資本家地主の政府にあることを示し、大衆の壓力によつてソヴェート攻撃、中國革命壓殺の滿洲戦争上海戦争を阻止することが、とりも直さず、國內に於ける労働者農民の支配者、搾取者の權力を弱めるものであることを、労働者農民の直接的利益も結びつけて宣傳煽動して

日本ブルジョアジイは文化的領域に於ても徹底的に反動的動員を行つてゐる。

映畫に於ても、演劇、音楽、ラヂオに於ても亦、吾が文學的領域にあつても積極的攻勢に出でゐる。殊に從來大衆文學又は通俗小説によつて封建的義理人情を描き大衆を資本主義の鐵鎖に縛りつけて來た一聯の作家群の中、直木三十五、三上於菟吉、平山蘆江、白井喬二、吉川英治、等がファツシズムの本據參謀本部と結託し、五日會を結成して積極的に祖國擁護、戦争煽動のための文學活動を公然と展開するに到つた。

野島辰次、岩崎純孝等、所謂文壇落武者と稱せらるゝ、ブルジョア作家の一群も亦、五日會とは別個に日本ファツシズム聯盟を組織し、愛國主義、祖國主義の宣傳に乗り出そうとしてゐる。

戦争を楔機としてブルジョアジャーナリズムは自由主義の最後の假面をかなぐり捨て去り、一齊に吾が革命作家の登場を喰ひ止めようとしてゐる。而も吾がプロレタリア刊行物が



當面の階級的必要に照應して正しい立場から戦争に反対するや、彼等ブルジョアジーは、發賣禁止は固よりブルジョア法律によつて吾々に襲ひかゝつて來てゐる。

かゝる戦争に直面し、ブルジョアジーが野獸的なファッショスト的攻撃を擅にし、右から左までの社會民主主義者が社會ファッショストの本質をバクロして吾々を攻撃する彼等に援助してゐる時、正しい共產主義的觀點から帝國主義侵略戦争の本質をアバキ、プロレタリアートの戦争政策を文學的に形象化する事は、重大な階級的意義を持つものでなければならぬ。

反戦文學の精力的生産——これこそ吾が革命作家の當面の任務である。

#### 四、正しい反戦文學

從來吾が作家によつて生まれた反戦作品は量的には決して尠少であるとは云へない。けれども多くは次の如き缺陷を有してゐた。

一、戦争の本質——帝國主義の矛盾の暴力的解決策であり、ブルジョアジーの政策の繼續に外ならない——が充分に把握されてゐない。

二、従つて戦争と國內企業との關係、労働者農民の日常生活との關係がオミットされて、ベツヒェルの所謂「戦争の獨立化」を招き、戰場小説となつてゐた。

を必然ならしむる政治的經濟的根據を剔抉し、特に戦争による労働者農民の日常生活との關係を忘れてはならぬ。

四、ブルジョアジーの偽善政策たる「祖國擁護」の本質をバクロし、祖國が何であるかを示し、敵味方に於ける交戦の必然性と敗戦主義とを徹底せしむること。

五、戦争の具體的開始によつてプロレタリアートを攻撃し、労働者農民の生命を犠牲にするファッショスト、社會ファッショストとの闘争が強調される必要がある。

要之、プロレタリアートの世界觀——辯證法的唯物論を基礎とし、特に高度な戦争問題、青年問題、民族問題に關する共產主義的教養を前提して、プロレタリアートの組織的戦争を廣汎に現實化し、形象化しなければならぬ。

特に留意しなければならぬことは、如上の創作的實踐が長篇的傾向を示すとは云へ、これらの正しい觀點に立脚して、短い形式、小形式によるアヂ・プロが必要とされることである。プロレタリアートの汎ゆる出版物に、精力的に参加して行くことが絶對に必要である。

#### 五、組織活動に於いて

反戦的創作活動が反戦闘争を企業内の日常闘争と緊密に結合せしめ、危機と戦争との結びつきを具體的事實によつて證明し、大衆に向つて説明し、労働者農民の直接利益のための闘争を反戦闘争と結びつける（片山潜）ことにあることは、

三、下級兵卒の反抗が國家權力を握る資本家地主に向けられずして直接上官に向けられ、而も個人的反抗に止まつてゐた。

四、兵卒間に於ける反抗の氣運の昂揚が若干描かれたとしても、これが國內プロレタリアートの組織的反抗活動と結びつけられず、その場限りの反抗に終つてゐた。

五、軍服をつけた労働者農民である兵卒の階級性が抽象されてゐた。

六、全體として戦争に反対する態度が小ブルジョア的人道主義的であり、正しいマルクス・レーニンの戦争反対の高い觀點が缺けてゐた。従つて戦争の悲惨さ、殘忍さの克明な描寫はあつても、戦争に對するプロレタリアートの積極的態度は明示されてゐない。

今や吾々はかうした諸缺陷を正しく批判し、清算して正しい方途に向はねばならぬ。

一、吾々は多少でも殘存してゐる人道主義の最後一片をも放逐し、正しいプロレタリアートの反戦闘争の基礎を掴まねばならぬ。

二、兵營や軍隊を取扱ふに際し、絶えず國內企業との關係を見落すことなく、兵卒の階級性を見忘れてはならず、兵卒の個人的反抗が階級的反抗に昂揚し、組織的闘争となすまでな闘争を與へること。

三、「戦争の獨立化」に陥ることなく、帝國主義的侵略戦争

同時に吾が文學運動の基礎が企業農村にガツチリ置かれてゐなければならぬことを前提としてゐる。

戦争に直面し、ブルジョアジーの一面露骨なるファッショスト的攻撃に抗するためには、廣汎に企業の中に、農村の中に、文化・ファッショイズムと敵對する吾々独自の組織活動が展開されなければならぬ。吾々は創作的實踐によつてプロレタリアートの正しい戦争政策をアヂ・プロするのみでなく、これを組織的實踐と結合統一せしめることによつて、單なる文學的イデオロギー的影響に止めず、廣汎なる労働者農民階級の中に、革命的プロレタリアートの組織的影響を確保しなければならぬ。

そのために既に組織されたサークルに於ては日常不斷に戦争の問題がとりあげられなければならない。

何よりも肝要なことは、敵の重要點たる軍隊組織内に、更に工業的經營——就中本來の軍需品工場、金屬産業の大工場、自動車、發動機、飛行機の製造工場、大化學工場、ゴム及び人絹工場、造船所、鐵道工場、爆發物工場内に、更に交通運輸労働者の中にサークルを組織しなければならない。

從來吾々の組織活動が、かゝる重要産業、重要經營内に於て當面の階級的必要、客觀的條件から著しく立遅れてゐたことは嚴密に自己批判されねばならない。革命作家は息づまる戦争の眞唯中であつて、今日程企業内に於ける活動の重要性を痛感したことはあるまい。



かゝる切迫せる状勢の中に、生産點に於ける組織活動を強化すると共に、企業の中から新しい働き手としての通信員、同盟員を養成、獲得して來なければならぬ。工場組織がどのやうに建設されてゐるか、如何なる生産様式をとつてゐるか、生産高は、最大の給附能力は？更に戦争を契機とする作業状態、待遇等を剩す所なく通信せしめ、企業内に於ける文化反動の積極的攻撃に抗する姿を生き／＼とプロレタリア刊行物に反映せしめるやうに努力しなければならぬ。

これらの組織的反動活動の圏内に婦人を引き入れることは極めて重大なことである。婦人は既に今日戦争準備のための軍事的、半軍事的組織の中に編入されることによつて、ブルジョアジーの側に引き寄せられるばかりでなく、過ぐる戦争の諸經驗が示す如く、何よりも先づ彼女等は戦時の軍事化された工業及び經濟に於いて特に重要な役割を演ずるであらうから。

#### 六、一層精力的に！

腐朽しつゝある資本主義體制の中に激成しつゝある矛盾の解決に對してブルジョアジーは無能である。彼等の根底を動搖せしむる此の危機の血路として彼等は労働者農民の革命的擡頭の無慈悲なる壓殺と帝國主義戦争以外に方策を樹て得な

と同時に労働者農民の唯一の祖國ソヴェート同盟に於ける

## 議案

### ファツシズム文學に對する闘争

(一) 涯しもなき恐慌の谷底に喘ぐ日本資本主義は、その腐朽しつゝある體制を少しでも救済し得るかの如き幻想の下に、滿蒙を完全に日本の植民地と化せしめ、かつそれによつて世界帝國主義の攻撃の目標となつてゐるソヴェート同盟に於ける社會主義的建設の進行と國內プロレタリアートの革命化を抑壓妨害し、更に昂り行く中國プロレタリア革命を壓殺することを意圖したのである。

日本帝國主義ブルジョアジーは、滿蒙侵略、中國分割のため戦争を契機として従來のデモクラシーの最後の假面をかたぐり棄て、公然たるブルジョア獨裁形態の一つである「暴力と強制」による政治支配——ファツシズム獨裁に移行せんとしつゝある。

(二) 如何なる獨裁形態と雖も大衆的基礎なくしては行ひ得ない。「獨占資本主義の時代は、農民、小生産者、手工業者、小商人、過剰生産されてゐる技術的インテリゲンチヤ、仲買人、その他定収入のない總ての者の破滅の結果として生ずる脱落分子を増加せしめる。……現在の恐慌はこれ等の脱

社會主義建設の勝利的進行に對して武力干渉せずにはゐない。かくて戦争に對するプロレタリアートの闘争は、當然ソヴェート同盟擁護の闘争に結びつけられざるを得ないのである。

吾が革命作家は今こそ藝術的表現といふ武器を以つて起ちあがらねばならぬ。ブルジョア作家の愛國主義帝國主義侵略戦争の真相を陰蔽せんとする平和主義、社會民主主義と勇敢に闘はねばならぬ。

吾々は廣汎な勤勞者大衆の間に國民的敗戦主義に關する、帝國主義戦争の内亂への輿化に關するレーニンのスローガンをもち込まねばならぬ。

吾々は創作活動に於て、組織活動に於て、大膽に革命的プロレタリアートの課題に答へなければならぬ。文學的武器を今こそ役立てねばならぬ。

より一層精力的に、吾々の銃先を戦争強行の張本人たる、ソヴェート同盟威嚇の支柱たる帝國主義ブルジョアジーに向けなければならぬ。

落分子の列伍を更に増大せしめた。ファツシヨ化の過程にあるブルジョアジーは、政治的買収の手段によつてこれ等の分子の間からファツシスト運動の根幹を削つてゐる。この運動はこれ等の分子の外に、更に都市小ブルジョアジー、資本主義的農業經營者、學生の可成りの層、教會代表者、軍閥等々を包容してゐる。」(註)

(註) ママイルスキー、コミンテルン執行委員會第十一回總會報告。

然らばファツシズムは深まりゆく危機を孕む資本主義の現段階に於いて、如何なる階級的役割を演ずるものであるか？「ブルジョアジーは革命的労働者運動を粉砕するために革命的組織——共産黨、革命的労働組合、その他大衆組織に引續く打撃を與へ、その最も活潑な分子を肉體的絶滅、又は大衆的逮捕の手段によつて撲滅し、労働者新聞を破壊し、既にブルジョア民主主義によつて制限を受けてゐる集會權、言論の自由、労働者の選舉權、被選舉權を廢止し、労働者に對する野獸的テロルの制度を打ち建て、労働者階級のあらゆる運



動を流血の中に溺らし、かくして工場内に於ける企業家と工場管理部との絶対権を確立する等々によつて労働者階級を攻撃する。……

ブルジョアジーはファッシズムを媒介として階級闘争を廢止し、それを勤勞者に對する資本の一方的な攻撃的獨裁によつて置き代へることに努める。ブルジョアジーはブルジョア民主主義が讚美する『階級協調』を露骨な經濟的、政治的暴力の諸方法に訴へて實現する。ブルジョアジーは罷工權を廢止し、それを強制調停——ファッシヨ化の過程にあるブルジョア民主主義の勞働法に巧みに織り込まれてゐるところの——によつて置き代へる。社會民主主義がやつてゐるところのブルジョアジーは、プロレタリアートの階級闘争を粉砕するための武器として『階級のない國家』の思想を利用し、かくすることによつてブルジョア民主主義の偽善的公式の一切の美辭麗句を吹き飛ばし、最も露骨な形態に於けるブルジョア獨裁形態の抑壓的性質を明瞭にする。……

プロレタリア世界革命の時代を導き入れたツヴェイト同盟が存在すること、大衆の間に革命的氣運が成長しつゝあること——これらのことはファッシズムを驅つて時代の精神に適應し、墮落せるブルジョア民主主義に對する『革命』へと大衆に呼びかけることをなさしめてゐる。大衆の困窮悲惨とを弄び、デマ的煽動によつて客觀的には資本主義支配に對する大衆の憎惡をかき立て、從來まで受動的だつた人民層を政治

盟と稱する團體をさへ組織した。

更に講談社を始めとする一切のブルジョア・ジャーナリズムは、ファッシズムを宣傳することによつて行詰れる出版資本主義の再擴張、再強化のために狂奔してゐる。同時に又企業内に根を持つブルジョア自身の諸刊行物は、即ち彼等自身の手になる工場雜誌、乃至は所謂修養雜誌は労働者を偽購せんがためにファッシズムによつて新たに武裝しつゝある。

元來ブルジョア大衆文學は最も露骨な客觀的眞實性の無視、恣なる必然性の蹂躪、恥づるところなき、偶然性の濫用、封建的イデオロギーの強調、ブルジョアの愛國主義、小ブルジョアの協調主義の混淆、ブルジョアの殘忍性等々によつて臆面もなく大衆を偽購し續けて來た。その結果としてブルジョア文學的觀點からさへも文學的内容を全く喪失し、單におくれた大衆に對する阿片的役割を果し來つた。

階級闘争の未曾有の激化と資本主義の危機の深化に直面し今やブルジョア大衆文學はブルジョア獨裁のための公然たる武器と化し去ることによつて、新たにブルジョア文學に於けるヘゲモニーを握るに到つた。

資本主義の一般的危機の時代にあつては、支配階級は一新し、指導的思想を創始し得ず、唯、過去に訴へる以外に勤勞大衆を欺瞞する方策を見出し得ない。従つてブルジョアジイの公然たる獨裁の一形態たるファッシズムも亦、統一せる理論を持ち得ない。そして彼等の所謂『組織的國家』の形態

に引き入れ、資本主義の最も堅固な支柱の一つたる社會民主主義の影響力を破壊し、その公然たる暴力の政策を通じてブルジョア合法性の根強い偏見を粉砕する、等々のことによつて、それ自身資本主義の危機の産物たるファッシズムは自ら資本主義の不安定性を強めファッシズム自身の没落と全資本主義體制の没落を用意する。』(註)

(註) 前掲。

特に日本に於いては滿蒙侵略上海攻撃の戦争を通じて帝國主義戦争の發展とファッシズムの擡頭とが緊急に結びついた。最近に於けるブルジョア・ジャーナリズム、ラチオ、講演會、ブルジョア神用藝術家を總動員してのブルジョア反動文化の宣傳煽動は、國粹主義、祖國愛、『滿蒙生命線擁護』等々の美名に隠れてこの戦争の本質を陰蔽し、労働者農民勤勞大衆の眼を深まりゆく失業と飢餓との現實から避けさせようと努力してゐる。

(三) 文學に於ても、ブルジョア文學のファッシヨ化は日に／＼明瞭になりつゝある。例へば反動大衆文學者直木三十五の『ファッシズム宣言』三上於鬼吉の『國粹主義宣言』を先頭として、白井喬二、平山蘆江、吉川英治、野村愛正等の手に成る五日會は、ファッシズムの主力部隊である軍部の完全なる奴隸と化し、頻りにブルジョア大衆文學のファッシヨ化に専念してゐる。更に福士幸次郎、野島辰次、岩崎純孝等の一聯の脱走せる小ブルジョア文學者も日本ファッシヨ文學聯

の陣には、實際には労働者階級に對するブルジョアジイの公然たる獨裁の樹立が隠されて居り、封建的國粹主義の假面の裏には實際には、帝國主義的侵略性を包んでゐる。

文學的内容を喪失し、おくれた小ブルジョアを眠り込ませることに役立つて來たブルジョア大衆文學は、今や、ブルジョアジイのファッシスト的攻撃に照應して支離滅裂な國粹主義、祖國愛、民族的排外主義の宣傳煽動に極めて積極的に乗り出してきてゐる。

ブルジョア大衆文學がブルジョア文學のファッシヨ化の先頭に立ち、支配的地位を確立しつゝあるのは、かうした所に根拠を求められる。と同時に次のことが強調されるべきである。即ち從來ブルジョア文學は、文學一般に於ける政治上の指導的役割を否定することによつて、吾々の文學を誹謗し來つた。だが、ブルジョアジイの階級的必要が彼等ブルジョア大衆文學に對して應酬的役割からより積極的なファッシズム的影響の確保を要求するに至るや、直ちに彼等はそのいふがまゝに極めて露骨な手先となり下つた。換言すればブルジョア文學も亦自らの階級的必要から政治的指導的任務を承認せざるを得なくなつてゐる。

だがブルジョア文學のファッシヨ化は、文字通りブルジョアジイへの奴隸的奉仕を内容としてゐる限り、ブルジョア文學の内部的腐敗の弱點の最も露骨な表現である。そしてプロレタリア文學が、その政治的内容をふかめることによつて、



ます。藝術的價值を高めるのに對して、彼等ブルジョア文學は新たに政治的武裝をなすことによつて、いよいよその内容を喪失し、ブルジョア文學自身の、又ブルジョア自身、墓穴を掘ることに努力してゐる。

事實に於いて、唯、プロレタリア文學に於いてのみ、政治と藝術との辯證法的統一が成し遂げられ得るのである。

(五)ブルジョア文化反動の中に占るファツシヨ文學の重要性は吾々の當面の敵をファツシヨ文學と規定せざるを得ざらしめるし、又吾々はかゝるブルジョア・ファツシズム文學の弊破を當面の任務とせねばならない。吾々はファツシヨ文學の階級の本質をバクトロすることによつて彼等の影響下に置かれてゐる巨大なる大衆を吾々の側に引き寄せて來なければならぬ。

然るに雑誌文壇に異くふ前田河、青野等は最近の顯著なるファツシズムへの移行を單に『流行』視することにより、それとの闘争を放棄しろと云つてゐる。最も憎むべき當面の敵に對し彼等は單に『流行』といふレッテルを張りつけることによつてその本質を陰蔽してゐる。かゝる意味からいつて彼等も亦、ブルジョア獨裁を援助しつゝ社會民主主義的形態から露骨に社會ファツシズム化しつゝあるといふことが指摘されなければならぬ。今や彼等は本質的にいつてファツシズム文學と完全に歩調を合はせてゐる。

(六)ブルジョア大衆文學のファツシヨ化の現象を見て、吾

がプロレタリア文學も亦大衆文學の方向に進まねばならぬといふ、最近吾々の同志によつて提唱されたプロレタリア大衆文學論は見通すべからざる基本的誤謬をふくんでゐる。それはブルジョア文學のファツシヨ化が、ブルジョア文學の破産期に於ける露骨な反動形態であり、プロレタリア文學に對する死物狂ひの攻撃者ではあるが、同時に危機と破滅に瀕したブルジョアジエの斷末魔的あがきであり、ブルジョア文學の新なる自壊作用の一つである事を見通してゐない點で、敗北的過重評價から出發してゐる。

ブルジョア大衆文學のファツシヨ化に對する吾々の闘争は、この同志の云ふが如く、プロレタリア大衆文學の創造にあるのではなく、藝術方法に於ける唯物辯證法を確立し、客觀的現實を黨派性的見地より把握する以外にはあり得ない。吾々が藝術方法に於てレーニン主義的武裝を必要とするに到つてゐる現在、このための闘争をプロレタリア大衆文學の創造に置き代へることは許し難き右翼日和見主義であり、ファツシヨ文學に對する武裝解除であると云はなければならぬ。吾々は吾々の内部に發生せるかゝる右翼的偏向との闘争なくしては、ファツシヨ文學に對して正しく闘争することは不可能である。

(七)かゝる右翼的日和見主義とその實踐的意義に於て等しきものに極左的日和見主義がある。これはマヌイルスキイのいふ通りに「ファツシズムは社會發展の辯證法的矛盾を反

りあげらるゝ必要がある。

かゝる批判的理論的活動の強化は、吾々の創作活動——ファツシズム打倒を内容とする——と緊密に統一されなければならぬ。吾々は批判的活動に於ても、創作活動に於ても自らの著しい立遅れを指摘せざるを得ない。かゝる立遅れは勿論吾々の運動の全分野に亘るものとは云へ、緊急必要とされるファツシズム文學に對する闘争に於て、吾々は殊更にその克服のための闘争を精力的に敢行しなければならぬ。

映してゐる、その中には二つの要素——支配階級の攻撃とその崩壊——を包含してゐる」に負ふとは云へ、このことの誤れる理解から、ファツシヨ文學の據地を目してブルジョア文學の自滅現象、自壊作用となし、彼等をそのなすがまゝに放棄して置いて、自然に自滅して行くものと見なしてそれとの闘争を放棄する傾向である。ファツシヨ文學は勿論ブルジョア文學の腐敗せる部分であり、その必然的崩壊の結果するとはいへ、吾がプロレタリア文學に對する最も頑強なる攻撃者であり、革命的プロレタリアートを誹謗破壊せんとするブルジョアジエの最も有力なる文化的支柱である。従つて吾々が闘争の目標を反ファツシズムに、ファツシズム文學粉砕に置くことは緊急の必要事ではなければならぬ。吾々は右翼的日和見主義と共に、かゝる極左的日和見主義とも内部的に闘争しなければならぬ。

(八)吾々は最近ファツシヨ文學に對する闘争の必要を特に強調し來つてゐるが、具體的作品の實際的批判攻撃に於て甚だ不十分でしかなかつた。闘争の必要を前面に押し出すと同時に、吾々は具體的批判を精力的に行ふ必要がある。特に講談社を先頭とする「戦争美談」「愛國」文學、露骨な戦争讚美を内容とする詩歌等に對して、その作品の階級の本質を苛敵なくバクトロすることによつて、彼等を倒さなければならぬ。特に吾々の刊行物を通じてなされるだけでなく、文學サークルに於てもこのことが戦争の問題と結びつけて特別にと



## 議案

### ブルジョア文學及び文學組織に對する闘争

ブルジョア文學に對する闘争が我々に課せられた最重要の任務であることについては、既に「第一回擴大中央委員會」の決議が教へるところである。

殊にブルジョア文學の諸流派が帝國主義戦争とファツシズム的傾向の波に乗じて、それらが全く新しい發展した姿をもつて自己を武装し、プロレタリア文學に對する攻撃を強化してきてゐるとき、我々はブルジョア文學に對する具體的な正確な理解を持つことによつて、彼等の反動的木質をバクロし、その影響下にある大衆を我々の陣營内に獲得して來なければならぬ。

「擴大中央委員會」の決議は、我々が在來、單にブルジョア文學を一色化し従つてそこから公式的な一面的な闘争しかやつて來なかつた（否殆んど彼等の作品を取り上げての批判がなされなかつた）ことを指摘し、彼等の陣營の諸流派の具體的分析、及びそれが當面する客觀的情勢に於て如何に發展する必然性を持つかを明確に示し、彼等に對する闘争の方針と方向を示してゐるといふ意味で、極めて高く評價されなければならぬ。

ばならぬ（こゝではそれを繰りかへさない「プロレタリア文學」三月號卷末參照）

従つて、今や我々に課せられてゐる任務は「擴大中央委員會」の決議の實踐化と、及びその發展して、ブルジョア文學組織に對する闘争を如何に具體化すべきかに、かゝつてゐると云はなければならぬ。

我々は次の如き立場から、この問題を要約することが出来る。

ブルジョア文學ならびにその組織に對する我々の闘争は、今後と雖、基礎的には、イデオロギー的闘争を、文學組織に對する働きかけ、組織の破壊との統一の下に強化することに置かるべきであるといふこと。

一、その個々の文學理論の矛盾を我々のレーニン主義の理論によつて追撃すること、個々の具體的作品の批判とを統一し、執拗に系統的に（論理的分析和社會階級的分析を統一して）行ふことによつて、その反動的木質を、大衆の面前に曝露しなければならぬ。このことは我々の

に努力しなければならぬ。

四、ブルジョア文學の影響の下にある同人雜誌ならびに個人に働きかけてブルジョア文學のファツシズム化、反動化の本質を曝露し、また「文學サークル」の教育的活動と結びつけ、ブルジョア文學に對する闘争を「組織活動」との辯證法的統一の下に強化しなければならぬ。更に、個々の作家に對する我々の日常的働きかけによつても行はねばならぬ。

五、これらの闘争は、理論における我々のレーニン主義的「黨派性」による武装、創作方法に於ける辯證法的唯物論の立場を強化し、わがプロレタリア文學の歴史的優位を示すことによつてのみ可能である。

## 議案

### 社會ファツシズム文學に對する闘争

（一）昨年度に於ける恐慌の新たな激化は、日本資本主義を極度の危機の下に曝した。失業と飢餓の著しき増大と、そこから立ち上る勞農大衆の反抗は階級闘争を攻勢を以つて組織しつゝある。腐朽しつゝある資本主義體制に對して、ソヴェ

ート同盟に於ける社會主義建設の成功的躍進は、全勞働者農民にその進むべき道を明示してゐるのだ。

帝國主義ブルジョアジーは、この危機の切り抜けとして戦争とファツシズムの政策を以つて勞働者農民に迫つて來た。



ソヴェート攻撃戦争の先頭に立つ日本帝國主義は中國革命の攻撃戦争を起し、すでに滿洲を完全な植民地と化した。だがいかなる言辭を弄しようともそれは勞農大衆の窮乏を少しも救ふものではない。更に一層の生活水準の引下げと、強制労働と肉弾としての犠牲である。かゝる状態は當然の結果として勞働者農民大衆の急激な左翼化となつたのである。

かくて國內にはブルジョア獨裁のファシスト的形態が特に顯著な相貌を以つて現はれ、公然のファツショ運動の展開特に勞農大衆の中に派遣されたブルジョアジの特別の番大たる社會民主主義者の明らかなる社會ファツショとしての登場である。昨日まで口に勞働者農民の味方面をしてゐた彼等は、今日その假面をかぎり捨て、反ソヴェート戦争挑発の政策を謳歌し、帝國主義戦争を擁護し、最も憎むべき勞働者農民の敵として、支配階級に對する番犬振りを發揮するに至つた。

殊に最近の社民黨の赤松を中心とする二分、日農の新たなるファツショ化、安部、片山の合流による勞大黨の再編成等これらの分化、結合は支配階級の直接的な手先としての社會ファシストの最も露骨な本質を示してゐる。

(二) 文學に於ける社會民主主義者もまた、この客觀的状態によつて明らかに社會ファツショの文學として立ち現はれた。彼等の最も顯著な部分としての文戦一派は、嘗つて「も」し現在プロレタリア文藝運動が専ら何等かの組織の指導力の

下におかれたら、その廣汎な發展は望み得られないし、各階級に奉仕する作用が稀薄になる(青野季吉)といつた文學一般の名によつてその階級性を抹殺する見地から、今や下からの革命的統一戦線の要求を合法無産政黨の共同戦線にすりかへた全國勞農大衆の文學的働き手と規定し、(文戦七月號)。黨及革命的勞農組合に對する徹底的デマゴグの下に大衆の自覺を過らしてゐる。既に彼等の中には、明らかに名實ともにファツショの陣營に移行しつゝあるものさへあるのだ。

ブルジョア獨裁の最も露骨な反動的政體として現はれた出たファツショと、その最善の支柱として勞農大衆の中に派遣された社會ファツショの文學的使徒たる彼等を、徹底的に粉砕することなくしては、われわれの歴史的地位を實踐の上に捷ち得ることは出来ない。しかも今日に於けるほど、社會ファツショ文學に對する闘争の重要性を示すときはないであらう。成程、われわれは今日までと云へどもそのことを等閑に附してはゐなかつた。だが、それはかゝる反動的文學の存在を、反動一般と片づけて、それに對する具體的闘争を展開して來たことを充分の自信を以つて揚言することは出来ない。否むしろわれわれは、それらの闘争に關して甚だしく立ち遅れであつたことを認めねばならぬ。昨年度に於てわれわれの彼等に對する闘争は、塵地耳、宮本顯治のものその他二三によつて示されたにすぎない。しかもそれさへもわれわれが彼等の社會的基礎を潰滅するための組織的方法に於

いてなされたとは云ひ得ないのである。かゝる態度はまた、プロレタリア文學を黨派性の上に打ち立てる所以ではない。(三) かくてわれわれは來るべき年度に於いて、社會ファツショ文學に對する闘争を一段と強化し、われわれの文學を一層高めるために、立ち遅れの現状を急速に取り戻し、彼等の存在を徹底的にたゞきつぶし全面的攻勢に移らねばならぬ。それには次の如き點に特別の注意が向けられるであらう。

- 1、文化教育の面に於ける反動文化への組織的闘争。われわれの文學の基礎を企業農村におく仕事は、廣汎なる文學サークルに於ける啓蒙的教育を「棄しては、正にそれは反動的活動に墮すであらう。文化反動に對する闘争の組織はまた社會ファツシズム文化に對する闘争を果

## 議案

### 同伴者作家に對して

一、獨占資本主義の支配形態が、滿洲事變をケイキとして、急速にファツショ化しつゝある今日において、プロレタリ

ア文化を強化するために、その主體たる職場、農村における大衆の組織と共に、小市民階級の反動化を喰ひ止め、積極的にプロレタリアの側に引寄せせることは、非常に大事なことである。かゝる意味からして、小市民、中間層、若く

敢になさずしてはあり得ないのだ。

- 2、社會ファツショ文學理論に對する闘争の強化と、その作品の反階級性の系統的具體的バクロ。
- 彼等の文學は崩壊し行く資本主義體制の内部的矛盾を多種多様な形態に於て孕んでゐる。勿論それは全體として明らかにブルジョア支配の忠實な表現であるとは云へわれわれはそれを具體的な事實の問題として究明曝露しなければならぬ。
- 3、社會ファツショ文學團體に對する反對派闘争の強化による組織的破壊。
- 4、プロレタリア文學の唯物辯證法的武装——黨派性の確立。



はプロレタリア大衆を讀者に持つ、同伴者の作家をカクトクし、組織することはまことに重要である。この點においてわが作家同盟は從來、あまり積極的ではなかつたが、いまやこの態度をあらためて意識的、計畫的に、組織活動を開始しなければならぬ。

二、現在のフアツシヨ文學の急激な擡頭と他方ではプロレタリア文學の異常なる勢で強化、擴大されつゝある状態の間に立つて、同伴者の作家群は、非常に動搖しつゝある。「同志文學」を中心とする水守龜之助の一派、或ひは卅數名の新進作家を結集し、數百名の會員を既に持つてゐるといふ「日本作家聯盟」其他個々の作家等々がその例である。支配階級と直接結びつく意識的革命的文學であるフアツシヨ文學一派へそのまゝでは参加することも出来ず、又プロレタリア文學の陣營へ來り投ずることの出来ない一群である。しかも、彼らはそのいづれかにむすびつくことを、必然的に餘儀なくされてゐるのである。

三、従つて、われ／＼がすぐ手を指しのべることは、これら同伴者作家へ對して、その進路を與へることである。プロレタリア文學の歴史的優位性、このことは彼ら同伴者作家が藝術を基本としてたつかぎり、絶對的に、われらの陣營へ來り投ずるであらうといふ見透しの、根本條件である。

## 二

するやう努力することである。

第五は、わが作家同盟の諸事業において、彼ら同伴者作家を協働せしめるやう誘引すること、更には、積極的にこちらから協働の仕事を提出することである。出版の協同編纂、或は自由な研究会の開催、講演會の協同主催等々——現に行はれてゐる農民文學委員會主催の、全文壇的農民文學研究会などは、その一例である。然しこの場合、我々は飽く迄も我々の立場のみが正しいことを、彼等の具體的活動を取り上げて批判しなければならぬ。

## 三

ハリコフ會議が認めてゐるやうに、わが作家同盟は、嘗て

そこで、同伴者作家を組織する第一の手段は、プロレタリア文學と對立する一切のフアツシズム、社會フアツシズム文學——たとへば、直木、三上らを中心とするフアツシヨ文學團體、國家社會主義團體の文化の擔當者なることを宣言して三上、直木の一派へ秋波をおくりつゝある大木雄三の一派、或ひは岡本利吉、加藤一夫、犬田卯等を盟主とする農本聯盟の農民自治派、又は新社會派と稱する淺原六朗の一派、「新科學的」に立てこもる中河與一の一派等々、更に、フアツシヨ化しつゝある社會民主主義文化團體「文戰」の一派等々——の文學と、執拗に闘争し、そのプロレタリア文學の絶對的優位性を、發揚顯示することにある。

第二には、同伴者の作家の諸作品を、もつと積極的に、われらの陣營においてとりあげ、これらに對して最も無慈悲的な、明細な批判を與へ、彼らの作品行動の本質をバクロし、彼等が如何なる道に自己を發展さすべきであるかといふ基準的方向を示して居らねばならぬ。

第三には、ブルジョア作家諸團體内へ、反對派を結成せしめるやう努力することである。そのためには我々の活動の獨自性を失はずに、しかも屈伸性ある藝術がとられる必要がある。組織的、或ひは個人的接觸等、我々は創意性ある形態をそのために適應させねばならぬ。

第四は、文藝家協會内における、わが作家同盟の、從來の日和見の態度を捨て、積極的に、同伴者作家をカクトク

優秀な同伴者作家をカクトクし、現在重要な働き手として活動しつゝある人は、實に多數である。この事は、わが同盟の方針が正しかつたことを裏書してゐる。

しかも、その同伴者獲得の意義が、今日ほど重要である時期は嘗てないのだ。ある意味では、優秀な同伴者作家一人をカクトクすることは、その作家が持つ一萬の小市民的讀者をフアツシヨ化からふせぎ、更には、プロレタリアの味方とすることにもなるのだ。

この決定的な重要性を帯びてゐる現在社會状態にあつて、わが同盟員は、すゝんで同伴者作家のカクトクに努力しなければならぬ。

## 議案

### 民族文學に關して

一、一九一四年から一八年に亘る帝國主義世界戰爭の後に於て、資本主義は植民地及び半植民地に於ける新しき征服を強行した。そのことがこれらの國々に於ける農業恐慌を激化し、延いて農民の大众的貧窮化を惹起し、プロレタリアートの革命的成長を促進すると同時に、植民地支配のための帝國

主義列強間の對立を激成せしめ、又更に植民地、半植民地に於ける革命運動も亦異常に大なる範圍に昂まり來り、ソヴェート同盟は全世界のプロレタリアート並びに被抑壓民族の革命的闘争の中心點となつた。

二、常に搾取と掠奪を主とする帝國主義ブルジョアジの



植民政策は、封建諸侯領主又は植民地商業ブルジョアと同盟を結び、これらの援助を以つて公然たる経済的政治的征服を強行し、豊富なる原料を収奪するばかりか資本主義商品の販賣市場たらしめ、巨額の税を課し、苛削誅求を擅にしてゐる。

三、植民地及び半植民地に於ける労働階級及び農民大衆の闘争は、封建制の倒壊、その殘滓の除去、並びに帝國主義支配停止の方向に向けられたものであり、従つて封建制に對する農業革命と帝國主義に反對する民族革命とが結合したブルジョア民主主義革命である。

だが今や植民地被壓迫民族のブルジョア民主主義革命はプロレタリア革命に推移しなければならなくなつてきてゐる。帝國主義を倒壊することなくしては、封建的及び民族的範よりの解放は期し得られない。而も帝國主義はプロレタリア革命によつてのみ倒壊し得られる。労働者と農民との革命的結合、プロレタリアートの獨裁のみが植民地民族の経済的政治的文化的民族的隷屬の鎖を切斷することが出来るのである。

四、日本帝國主義は據頭する労働者農民の革命力を壓殺し、押重なる世界經濟恐慌を切抜ける最後の血路として滿洲侵略中國分割のための強盜戰爭を開始した。這般の戰爭を模倣して日本帝國主義ブルジョアは民主主義の假面をかながらり捨て、露骨なファシズム獨裁政策を強行し、大衆の反抗を武力的に壓殺し、凡ゆる方法を以つて一層搾取を強化

すると共に「舉國一致」「權暴なる支那を懲せ」「日本國民の生命線を擁護しろ」の合言葉の下に、極端なる排外主義戰爭熱を挑發し煽動してゐる。

五、資本家地主の搾取制度の維持と利潤の増大のために軍服をつけた労働者農民は彈丸の餌食とされ、中國の同胞と殺戮し合ふことを餘儀なくされてゐる。資本家地主は此の戰爭によつて國內の労働者農民の反抗を國外に外らせ、直接には中國朝鮮の労働者農民のソヴェート建設と革命運動を壓殺し、労働者農民の唯一の祖國ソヴェート同盟に對する武力干涉の第一歩を開始せんとしてゐる。

六、死滅しつゝある帝國主義ブルジョアの革命的プロレタリアートに對する最後の決死的攻撃たるファシズム支配形態は「國民全體の利益」なる偽稱攻撃を表面に掲げることによつて植民地侵略を合理化し、被壓迫民族搾取をより強化することを目的としてゐる。然し乍らかゝるファシスト的攻撃、排外民族主義の強調は、却つて中國朝鮮臺灣に於ける民族革命運動と、日本プロレタリアートの緊密なる提携結合を結果として齎してゐる。

七、國際革命作家同盟日本支部たる吾が日本プロレタリア作家同盟は、かゝる客觀的狀勢を前にして、特に中國朝鮮臺灣に於ける革命的民族文學運動との提携結合を日程に上さなければならぬ。既に中國には中國左翼作家同盟あり、朝鮮には朝鮮プロレタリア作家同盟あり、臺灣にも亦臺灣文藝作家協

會あり、いづれも帝國主義の野蠻なるテロルの下に、プロレタリア文學建設のために闘争してゐる。

八、吾々がかゝる旺盛なる革命的民族文學の組織的發展に對して從來何等爲す所がなかつた。中國左翼作家同盟の優秀なる闘士が白色テロルのために仆された時も、僅かに抗議書を形式的に送つたのみであり、朝鮮カツプとの提携も顧られず、臺灣に對しては關心さへ向けなかつた。吾々はプロレタリア文學建設のための闘争が、植民地に於ける革命的民族文學の擁護なくしては不可能であることを知つてゐる。殊に朝鮮臺灣を完全に植民地とし今又中國分割のために強盜戰爭をオツ始めてゐる極東に於ける反革命の支柱たる日本帝國主義の支配下に置かれてゐる吾々は、日本に於けるプロレタリア文學の革命的成長が、中國朝鮮臺灣に於ける革命的民族文學との提携を今日程必要とし、又重要ならしめてゐることのないことを痛感せざるを得ないのである。

九、このために吾が作家同盟内に特別専門部門として民族文學委員會を特設しなければならぬ。民族文學委員會はブルジョアファシズム、社會ファシズムの祖國擁護、排外民族主義の流れに抗し、プロレタリア・インターナショナル主義を基調として中國朝鮮臺灣等のプロレタリア文學組織と鞏固に聯絡を保ち、帝國主義倒壊、植民地民族解放のための闘争に計画的に参加しなければならぬ。特にこれらの間に國際革命作家同盟の極東書記局を特設するために精力的に闘ふ

ことが必要である。

一〇、中國民族、朝鮮民族、臺灣民族等の日本内地に在留してゐる者は數多い。特に朝鮮農民は日本帝國主義に土地を収奪され、祖先傳來の故郷を逐はれて内地に流れ來つてゐる者が數多いが、政治的にも經濟的にも民族的差別待遇を餘儀なくされてゐる。かゝる民族的差別待遇を餘儀なくされてゐるといふことは、それだけ彼等の革命化する客觀的根據を形成してゐる。而も文化的領域に於てもこのことは最近特に顯著であり、日本プロレタリア文化聯盟内に朝鮮協議會が確立され朝鮮語による独自の刊行物の計畫が進捗し、プロット内には鮮語劇團あり、P・P内にも朝鮮美術家が夥しく参加し始めてゐる。

一一、斯かる文化的領域に於ける革命的民族文化の昂揚は、同時に文學的領野に於ける革命化をも齎してゐる。既に朝鮮人のみの文學サークルも組織されてゐるし、朝鮮作家の吾が陣營への参加も次第に増大しつゝある。従つて民族文學委員會は、海外植民地民族文學との組織的提携のみならず、かゝる内地に於ける被壓迫民族作家の獲得、文學サークルの組織指導等の任務に當らねばならぬ。

一二、民族文學委員會は如上の組織的任務と共に創作的實踐に於ても重大なる任務が課せられてゐる。從來吾がプロレタリア作家が植民地に取材し、帝國主義反對、植民地獨立を主題として生産した作品は必ずしも量的には尠くはない。



江馬修の「阿片戦争」「南阿戦争」、村山知義の「最初のヨーロッパの旗」「日清戦後」、西出伊策の「帝國主義」等。その他に不當なる民族的差別をバクローせる越中谷利一の「一兵卒の震盪手記」「不發彈」、黒島信治の「穴」等がある。だが「支那」「支那から手を引け」「朝鮮」の前田河廣一郎、「萬寶山」「裡の土地」の伊藤永之介、「兵亂」の里村欣三の如き社會民主主義的作家の作品に比して未だ充分に共產主義的であると云へない。民族文學委員會はかうした吾が作家の植民地民

## 議案

### 日本プロレタリア文化聯盟強化に關して

日本プロレタリア文化聯盟——コツプの嚴然たる存在は、いまや、日本ブルジョアジーの一つの脅威となつてゐる。このことは、わがコツプが、日本のプロレタリア文化運動に於ける、強固な、統一的な、革命的中央部として結成されてゐることの事實を、裏書するものであつて、コツプに對する、支配階級のあらゆる彈壓、迫害（コツプ中央協議會發行各雜誌の全部的發禁、中央協議會の解散、事務所のガサと檢束、催し物の妨害）等々は、すべてこの見地に於てのみ、彼等の偽らざる意圖を見ることが出来る。

新たな創立、それらの運動の大衆化への方向、更らにプロレタリアスポーツの運動の新しい開拓のための準備。これらすべての事實は、何れも、わがコツプの指導の正しさと、その實踐的成果を現してゐるのである。

しかしながら、もしも我々が、これらの事實の前に、單なる自己満足を以て向ふならば、それは大いなる誤りである。プロレタリアートの文化、教育活動の問題は、日本に於ては、かくの如くにしてまだ最近、漸くその緒についたばかりであるからだ。況んや、支配階級の文化反動の攻撃は、益々ファツシヨ化しつゝある彼等の諸政策と結びついて、より猛烈さを加へるばかりである。

見よ、日本ブルジョアジーが、その危機の活路として選んだ滿洲侵略及び上海占領の戦争は、危機を緩和するどころか國內的及び國際的矛盾を益々深刻化させてゐるではないか。（國內恐慌の停止することなき一層の進行、失業者の加速度的増大、農村の破綻的窮乏化、労働者及び農民の革命的昂揚、植民地分割問題を中心とする、帝國主義列強間の對立の極度の尖鋭化、等々）。いまや、日本ブルジョアジーの生き延びやうとする道は、危機の革命的活路の擔ひ手としての國內及び國際プロレタリアートの革命的勢力の壓殺を除いて、それを見出すことはできないのである。ブルジョア獨裁のファツシヨ的支配形態への急激の進行、及びその波の中での一切の文化反動の嵐の如き攻撃は、すべてこの目的のもとに行

族、帝國主義的搾取を題材とせる創作活動を旺盛ならしめると共に、その正しき指導を行はねばならぬ。

一三、更に植民地民族の革命的文學に對しても充分プロレタリア文學のヘゲモニーを確保し、これをプロレタリア文學の正しき軌道の上に發展せしめるべく對策を樹てなければならぬ。此の際強調すべきことは、帝國主義國家の國語を排して、母國語、民族語を創作的實踐の基礎とすべきことである。

日本プロレタリア文化聯盟は、一九三一年十一月の創立以來、日本プロレタリア文化運動の統一的な指導と強力な展開のために、敵のあらゆる暴壓に抗して戦つて来たことは周知の如くである。從來分散的に行はれてゐた文化諸運動に於ける方針の革命的統一、文學、演劇、美術、映畫、音樂等舊ナツプ各團體の藝術運動に於ける、企業農村を基礎とする大衆的規模への劃期的な再編成、プロレタリア科學研究所、新興教育研究所、日本戰闘的無神者同盟、プロレタリアエスベラント同盟、無産者産兒制限同盟等、文化諸團體の強化と

はれてゐるのだ。

一方、歸つて我々の陣營を見るに、そこには、敵の如く死物狂ひの攻撃にも拘らず、労働者及び農民の革命的勢力の疑ひもなき飛躍的成長を見ることが出来る（ストライキ、小作半議の一層の増大、反戦及びその他と結びついた經濟闘争の政治闘争化、革命的労働組合、全協の組織の目ざましい伸張、争議に對する参加率及び勝利率の増大、農民組合の革命的反對派の異常なる進出、農民運動の驚くべき革命化、等々）。しかし、我々の力は未だ全體として、現在の客觀的狀勢の進行に比して、甚だしく立遅れてゐることを否定できない。就中、我々が、直接その任に當つてゐる文化、教育活動に於て、特にさうであることを認めないわけには行かない。

例へば、わがコツプの旗の下に立つて出されてゐる我々の月刊々行物（中央協議會及び各團體發行の雜誌並に新聞）はそのすべてを合せて、いまや、十萬の部数を數へることが出来る。これを、一年前もしくは二年前の我々の定期刊行物の三萬乃至四萬に比すれば、疑ひもなく異常なる發展として見ることが出来る。しかもこのことは、反動文化雜誌「キング」が、それ一つだけで、百萬の發行部数をもつてゐるといふ事實（ブルジョアジーの新聞、雜誌の全部數の中で「キング」の數の占めてゐる地位は極めて小さいものであることを忘れてはならぬ）かうした事實の對比に於ても見ることが出来るやうな、我々の立遅れを、いささかも寛恕するものでないの



はいふまでもない。

文化・教育活動に於ける我々の立廻りは、嘗に、かうした敵側に對してばかりでなく、また我々の陣營に於ける、他の闘争との比較に於いてもいふことができる。例へば、プロレタリアートが、東京だけで、一萬數千の革命的投票を得たといはれる今度の總選舉に於て、我々が、全體として、殆んど見るべき文化的、教育的活動をなし得なかつたといふ事實は、眼前の最も生々しい一例でなければならぬ。

然らば、この立廻れを急速にとり戻すと共に、荒れ狂ふ文化反動に抗して、プロレタリアートの文化闘争をして眞に勝利に導いて行くためには如何にすればよいか！ それはコップ及びコップ各團體の獨自的活動の精力的な展開にまたなければならぬ。強力的な、革命的指導方針のもとに、統一され貫かれることを以て絶対に必要とする。何故なら、このことなくして、我々の運動に於ける、眞にマルクスレーニン主義的實踐はあり得ないからだ。而して、このことのためには、我々の全文化運動に於ける統一的中央部コップの擴大強化が、不可避的な條件となることはいふまでもない。蓋し、強力的指導部なくして我々の運動の眞の強化と發展を期することはできないのである。

同盟第五回大會に對して、わが東京支部が、次の具體案を示して本議案を提出せんとする根據と意義はここにある。我

々はこの議案が、嘗にわが全同盟員の積極的な關心によつて支持され、可決されるばかりなく、そのことが、猶豫なく眞に具體的な實踐に上されると共に、而して、わがコップの強化の仕事に於いて、わが同盟が、常に僚友各團體の先頭に立つて戦ふことを期待する。

#### 具 體 案

- 一、コップ中央協議會及び各地方協議會擴充強化のために同盟は常に先頭に立つて、積極的に努力すること。
- 二、未設の地方に於ける、地方協議會の確立のために、同盟の各地方支部は、常にイニシアチヴを發揮して活動すること。
- 三、コップ中央協議會發行の定期、不定期刊行物に對する文學的活動を、組織的に、強化すること、このために、同盟内に、特別の機關を設け、協議會の各専門部門との結合を、有機的に緊密ならしめることなどが考へられる。「大衆の友」に對するもの。「働く婦人」に對するもの。等々。
- 四、コップ中央協議會出版物の、サークルその他への持込みの一層の組織化と擴大化。
- 五、コップに對する大衆的支持と關心を昂めるための日常的及び隨時的宣傳、煽動。
- 六、コップの財政的強化。基金カンパに對する大衆的應募等々。
- 七、コップに對する不當な政治的彈壓に對する抗爭。

## 議 案

### 『國際プロレタリア文化聯盟』結成に ついでにの緊急提案

我々が、日本に於けるプロレタリア的諸文化運動の分散的狀態を統一するために、その全國的中央部を結成して闘争してきたことが、如何に正しく、しかもその事がこの領域に於ける活動を如何に質的に躍進せしめたかについては、既に何人の眼にも明かなことである。殊に各文化團體が在來の街頭的セクト的組織から、企業農村内の廣汎な大衆にその組織的基礎を置くために「サークル」組織による方向轉換を成功的行つたといふ點からも、その中央部としての『日本プロレタリア文化聯盟』の結成は、プロレタリアートの文化運動としての名に恥ぢない言葉の眞實な意味に於ける大衆的基礎をもつものとして、劃期的な意義を持つものであつた。

だからこそ、最近の『文化聯盟』に對する支配階級の飽くなき彈壓が、實は資本主義の一般的危機に當面してゐるブルジョアジーが、この我々の偉力に對する恐怖の皮肉な『自己ベクロ』でしかないことが明かである。彼等が己れの獨×維持のために、一方では××を強行することによつて、中國革

命の壓×と植民地の再分×に進み、他方ファツシスト的政治支配に移行することによつて、大衆の憤懣を『暴力と強制をもつて』抑壓しやうと、あらゆる彼等の側の政治的・文化的機關を總動員してゐる。然しながら、彼等の反動の強化が同時にそのうちに必然に崩壊の危機を包んでゐることは覆ふべくもない必然的事實である。何故なら、今では彼等と我々との政治的・文化的對比に於て、我々が明かに歴史的『優位性』を持つてゐることは『腐朽しつゝある資本主義體制』と世界の六分の一を占むるソヴェート同盟の『躍進しつゝある社會主義體制』との對立のうちにも又資本主義國內に於けるプロレタリアートの文化建設の實踐のうちにも無慈悲に示されてゐるからである。我國に於ては『文化聯盟』の結成とその闘争がこのことを實踐的に證明してゐる。——従つて、我々は支配階級の狂暴化せる彈壓の宿命的な破滅性をハツキリと認識することによつて益々我々の文化建設の闘争を前面に押し出し、強化してゆく任務を背負されてゐると云はなければなら



らなく。

然し此處で我々が問題にするのは、——我國で文化聯盟の結成がこのやうに實踐的に劃期的な意義をもつたのであるが、この一國內の問題を發展させて、更に我々はかかる組織の國際的な統一にこそ進むべきであらうといふことである。日本に於ける文化聯盟の組織と同様のものが、既にアメリカにもドイツにも結成されてゐると聞く。我々はブルジョア文化反動の打倒、プロレタリアートの文化建設のための闘争も亦、國際的な強固な統一體によつて結びつけられるときに於てのみ、遙かに強められることを知つてゐる。然るに、全世界のプロレタリアートが未だかかる組織を持たず、又未だそれを日程にも上げてゐないといふ事は、我々にとつて絶大の遺憾事ではなければならない。

我々は我が「日本プロレタリア文化聯盟」がこの問題の具體的解決のためにイニシヤチーフをとり、即刻各國プロレタリア文化團體に提唱を發することによつて、國際的にその關心を掻き起す事が必要であると考へる。——従つて、文化聯盟の一加盟團體たる我が作家同盟も、目捷のうちに迫まつてゐる第五回大會に於て、この問題を労働者農民の日常具體的な要求と結びつけることによつて大衆化し、大衆的壓力によつて下から、全プロレタリアートの問題とするために努力しなければならない。各プロレタリア文化團體も歩調を揃えて、その獨自の場面から集中的・統一的に協力されることが

望ましい。

殊に我が作家同盟にあつては、今年持たれるであらう「國際革命作家同盟」の大會に對する日本支部の重要な「議案」として之を取上げ、その先頭に立つことが要求される。

我々が今このことを極めて緊急に（多くの不充分さをも顧みず）提案する理由は、このための闘争を掻き起してゆくことが、彈壓の嵐のもとにサラされてゐる我が文化聯盟強化の最も強力な抗議であり、各分野に於てそれぞれの形で闘はれつゝある國際的連繫の最も基本的な集中點とされなければならぬからである。同時にそれは我が同盟第五回大會と國際革命作家同盟の大會を控へて、充分なる討論とその具體化の餘地をのこすために外ならない。

「國際プロレタリア文化聯盟」結成の問題も、日本に於て文化聯盟の問題を提出して、我が國のこの運動を國際的規模にまで高めた卓越せる同志古川莊一郎の理論の必然的發展と見るべきであり、その意志を繼ぐものである。

—「國際プロレタリア文化聯盟」結成のイニシヤチーフをとれ！

—プロレタリア文化運動の國際的連繫萬歳！



終